

第二十五回 衆議院議事速記録第十五號

明治四十二年三月四日(木曜日)午後一時十六分開議

議事日程 第十四號 明治四十二年三月四日

午後一時開議

第一 明治四十一年法律第九號中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第三 耕地整理法改正法律案(政府提出) 第一讀會

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第五 特許法改正法律案(政府提出) 第一讀會

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第七 意匠法改正法律案(政府提出) 第一讀會

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第九 商標法改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第十一 實用新案改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第十三 國債ノ利子所得稅免除ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十四 登錄國債ノ擔保充用ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十五 政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十六 獸畜市場法案(森田俊左久君) 第一讀會

第十七 獸疫豫防法中改正法律案(森田俊左久君) 第一讀會

第十八 競馬法案(佐々木文一君) 第一讀會

第十九 違警罪即決例ニ關スル法律案(松田源治君) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十 違警罪即決例廢止法律案(下野喜太郎) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十一 關稅定率法輸入稅表中改正法律案(森本駿君外) 第一讀會

第二十二 燐寸輸出交付金下付ニ關スル建議案(森本駿君外) 第一讀會

第二十三 商科大學設立ニ關スル建議案(根本正君外) 第一讀會

第二十四 戰鬪員以外ノ殉難者遺族及廢疾者救濟ニ關スル建議案(前野牛介君) 第一讀會

第二十五 韓國橫貫鐵道敷設ニ關スル建議案(金尾俊藏君) 外六名提出

第二十六 豫算ノ款項改正ニ關スル建議案(田川大吉) 外一名提出

第二十七 外交文書公表ニ關スル建議案(小川平吉君) 外一名提出

第二十八 打狗築港速成ニ關スル建議案(齋藤珪次君) 外四名提出

第二十九 萬國豫防會議ニ關スル建議案(山根正次) 君提出

第三十 特別報告第十一號(借地權救濟ニ關スル請願) (委員長報告)

第三十一 特別報告第二十號(借地ニ關スル請願) (委員長報告)

第三十二 特別報告第二十一號(競馬ノ善後策急施ニ關スル請願) (委員長報告)

第三十三 特別報告第二十二號(競馬ノ善後策ニ關スル請願) (委員長報告)

議長(長谷場純孝君) 補闕選舉ニ當選セラレタル議員ニシテ本日登院ニナクタルガアリスカラ之ヲ御紹介致シマス、而シテ紹介ノ場合ニハ其紹介セラレタル議員ハ、起立セラレンコトヲ望ミマス。宮城縣郡部選出議員遠藤良吉君ヲ紹介致シマス。(遠藤良吉君起立)

(拍手起立)

議長(長谷場純孝君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス。(書記朗讀)

一政府ヨリ左ノ質問書ニ對シ答辯書ヲ送付セラレタリ

公證人法施行ニ關スル質問主意書(岡部司法大臣)

衆議院議員花井卓藏君提出公證人法施行ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治四十二年三月三日 內閣總理大臣侯爵桂太郎

衆議院議長長谷場純孝殿

(別紙)

衆議院議員花井卓藏君提出公證人法施行ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一明治四十一年法律第五十三號公證人法ハ其施行ニ必要ナル附屬法令ノ取調中ナルニ付未ダ施行セララル、ニ至ラサリシナリ

二附屬法令ノ制定ニ付參考スヘキ資料ハ必要ト認メタル限リ既ニ之ヲ蒐集シタリ

三公證人ノ員數ハ人口件數其ノ他ノ事情ヲ參酌シテ適當ニ之ヲ定メムトス

右及答辯候也

明治四十二年三月三日 司法大臣子爵岡部長職

衆議院議長長谷場純孝殿

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

衆議院議長長谷場純孝殿

外交文書公表ニ關スル建議案

提出者 小川平吉君 服部綾雄君  
商會社ニ關スル法律案  
提出者 高木益太郎君

一宮古啓三郎君外三名ヨリ國有土地森林原野下戻ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタリ  
(左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

國有土地森林原野下戻ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
明治四十二年三月三日

提出者 宮古啓三郎 小川平吉 立川雲平  
板倉中

贊成者 長谷川豐吉  
外三十三名

一 國有土地森林原野下戻ニ關スル質問主意書  
第二十四回帝國議會ノ當時衆議院ハ國有土地森林原野下戻ニ關スル建議ヲ爲シ政府ハ明治三十五年五月二十日農商務省訓令第十二號ノ趣旨ニ必ス達ハサルノ措置ヲ執ルコトヲ望ミタリ其後仔細ニ國有土地森林原野下戻請求ノ行政訴訟ニ付農商務省ノ執ル措置ヲ觀察スルニ更ニ該訓令ノ趣旨ニ從ハス政府ハ右衆議院ノ建議ヲ採ラサルカ其理由如何

二 國有土地森林原野下戻法制定當時ノ衆議院特別委員會ニ於テ政府ノ答辯ニ依レハ高受ナル土地森林原野ハ其ノ高受ノ體裁カ小物成ナルト否トヲ問ハス之ヲ民有地ト認ムルノ趣旨ナリシヤ明白ニシテ立法ノ趣旨又之ニ異ナラサルヘキカ故ニ已ニ土地森林原野ニシテ高受ナル以上ハ下戻法ニ於テハ之ヲ民有地ト見ルヘキモノト信ス政府ノ所見如何

三 國有土地森林原野下戻請求ノ行政訴訟ニ付行政裁判所ヨリ其ノ國有土地森林原野下戻ノ申請ニ對スル處分記録ヲ送付ヲ囑託セラル、モ農商務省ハ之ニ應ゼスト云フ凡ソ政府ハ公明正大ニシテ敢テ處分記録ヲ秘密ニシ行政訴訟ニ萬一ヲ僥倖セント謀ルヘキモノニアラサレハ裁判上必要トシテ要求セラル、書類ハ之ヲ送付シ正々堂々ト爭論セサルヘカラサルモノト信ス政府ノ所見如何  
(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

一去ル二日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ  
裁判所構成法中改正法律案外一件

- |                    |      |    |     |    |      |
|--------------------|------|----|-----|----|------|
| 關                  | 信之介君 | 翠川 | 鐵三君 | 福岡 | 精一君  |
| 山田                 | 桃作君  | 田中 | 定吉君 | 武田 | 貞之助君 |
| 内野                 | 延君   | 安東 | 敏之君 | 花井 | 卓藏君  |
| 關稅定率法輸入稅表中改正法律案外一件 |      |    |     |    |      |
| 千田                 | 軍之助君 | 菊池 | 侃二君 | 根岸 | 晴太郎君 |
| 古井                 | 由之君  | 森本 | 駿君  | 庄野 | 金十郎君 |
| 三浦                 | 盛徳君  | 荻野 | 芳藏君 | 大野 | 育造君  |
| 水野                 | 正己君  | 藤井 | 善助君 | 佐藤 | 貞雄君  |
| 荒川                 | 五郎君  | 紫垣 | 一雄君 | 中野 | 武營君  |
| 木村                 | 良君   | 淺野 | 陽吉君 | 鈴木 | 力君   |

狩獵法中改正法律案

- |    |      |    |      |   |    |      |
|----|------|----|------|---|----|------|
| 上埜 | 安太郎君 | 清  | 峯太郎君 | 高 | 森  | 新君   |
| 手塚 | 正次君  | 西澤 | 定吉君  | 川 | 真田 | 德三郎君 |
| 神崎 | 東藏君  | 米田 | 穰君   | 梅 | 原  | 貞君   |

- |                  |    |       |    |       |    |      |     |      |
|------------------|----|-------|----|-------|----|------|-----|------|
| 大船渡鐵道鐵業補給ニ關スル建議案 | 柏原 | 左源太君  | 阿部 | 德三郎君  | 高橋 | 嘉太郎君 |     |      |
|                  | 伊東 | 祐賢君   | 原岡 | 永江君   | 古  | 森    | 泰君  |      |
|                  | 宮内 | 翁助君   | 松田 | 吉三郎君  | 植  | 場    | 平君  |      |
|                  | 柵  | 瀨軍之佐君 | 添田 | 飛雄太郎君 | 市  | 田    | 兵七君 |      |
|                  | 淺  | 羽     | 靖君 | 小野    | 崎  | 耕夫君  | 小橋  | 榮太郎君 |
|                  | 八束 | 可海君   | 守屋 | 此助君   | 近  | 江    | 谷   | 榮次君  |

- |                |             |     |       |      |      |      |      |     |
|----------------|-------------|-----|-------|------|------|------|------|-----|
| 園藝講習所設立ニ關スル建議案 | 福井          | 準造君 | 松浦    | 五兵衛君 | 鈴木   | 辰次郎君 |      |     |
|                | 向           | 坂   | 弘君    | 竹田   | 文吉君  | 鈴木   | 仙太郎君 |     |
|                | 奧           | 田   | 柳藏君   | 渡邊   | 千冬君  | 服    | 部    | 綾雄君 |
|                | 鐵道建設ニ關スル建議案 | 佐々  | 木鐵太郎君 | 森    | 茂生君  | 鈴木   | 辰次郎君 |     |
|                |             | 飯田  | 新右衛門君 | 橋本   | 久太郎君 | 加    | 藤    | 正英君 |
|                |             | 長   | 場龍太郎君 | 星    | 一君   | 鈴木   | 寅彦君  |     |

- |                       |    |       |    |     |     |   |   |      |
|-----------------------|----|-------|----|-----|-----|---|---|------|
| 一 委員長及理事左ノ通り當選セラレタリ   | 萬國 | 癩豫防會議 | 委員 | 山根  | 正次君 | 木 | 下 | 吉之丞君 |
| 關稅定率法輸入稅表中改正法律案外一件委員會 | 委員 | 長     | 大岡 | 育造君 | 理事  | 荒 | 野 | 芳藏君  |
|                       | 委員 | 長     | 大岡 | 育造君 | 理事  | 淺 | 野 | 陽吉君  |

- |                     |    |   |    |      |    |    |   |       |     |
|---------------------|----|---|----|------|----|----|---|-------|-----|
| 狩獵法中改正法律案委員會        | 委員 | 長 | 上埜 | 安太郎君 | 理事 | 清  | 峯 | 太郎君   |     |
| 鐵道建設ニ關スル建議案委員會      | 委員 | 長 | 橋本 | 久太郎君 | 理事 | 飯  | 田 | 新右衛門君 |     |
| 園藝講習所設置ニ關スル建議案委員會   | 委員 | 長 | 鈴木 | 辰次郎君 | 理事 | 福  | 井 | 準造君   |     |
| 大船渡鐵道鐵業補給ニ關スル建議案委員會 | 委員 | 長 | 植  | 場    | 平君 | 理事 | 伊 | 東     | 祐賢君 |

- |  |   |
|--|---|
| ○議長(長谷場純孝君) 母病氣ニ付キ昨三日ヨリ二週間水間此農夫君ヨリ請暇ノ願出ガゴザイマス、許可シテ差支アリマセヌカ | ○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ、許可スルコトニ致シマス、同ク母病氣看護ノタメ今四日ヨリ二週間大石正己君ヨリ請暇ノ願出ガアリマス、許可シテ御異議アリマセヌカ |
|--|---|

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| (「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル) | (「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル) |
|------------------|------------------|

- |  |   |
|--|---|
| ○議長(長谷場純孝君) 母病氣ニ付キ昨三日ヨリ二週間水間此農夫君ヨリ請暇ノ願出ガゴザイマス、許可シテ差支アリマセヌカ | ○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ、許可スルコトニ致シマス、同ク母病氣看護ノタメ今四日ヨリ二週間大石正己君ヨリ請暇ノ願出ガアリマス、許可シテ御異議アリマセヌカ |
|--|---|

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| (「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル) | (「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル) |
|------------------|------------------|

- |  |   |
|--|---|
| ○議長(長谷場純孝君) 母病氣ニ付キ昨三日ヨリ二週間水間此農夫君ヨリ請暇ノ願出ガゴザイマス、許可シテ差支アリマセヌカ | ○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ、許可スルコトニ致シマス、同ク母病氣看護ノタメ今四日ヨリ二週間大石正己君ヨリ請暇ノ願出ガアリマス、許可シテ御異議アリマセヌカ |
|--|---|

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| (「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル) | (「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル) |
|------------------|------------------|

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ、許可スルコトニ致シマス——豫算委員長栗原亮一君ヨリ豫算追加案ノタメニ豫算會議ヲ本會議ノ時間中ニ開キタイト云フコトヲ申出ラレマシタガ、許可シテ差支アリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシ)ノ聲起ル

○栗原亮一君 豫算委員ノ諸君ハ豫算委員室ニ御集リヲ願ヒマス

○議長(長谷場純孝君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、宮古啓三郎君

○宮古啓三郎君 今御呼ビニナリマシタガ……

○議長(長谷場純孝君) 國有土地森林原野下戻ニ關スル質問ヲ……

○宮古啓三郎君 ヲレナラバ別段演說ノ致シマセヌデゴザイマスカラ……

○議長(長谷場純孝君) 議事日程第一、明治四十一年法律第九號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀ハ省略シマス

第一 明治四十一年法律第九號中改正法律案(政府) 第一讀會

明治四十一年法律第九號中改正法律案

前項ノ土地賣却ニ依リ新營費ニ相當スル金額ヲ得ル能ハサル場合ニ於テハ繰入金ノ不足額ハ學校及圖書館資金中ノ他ノ部分ヨリ之ヲ補充スルコトヲ得

○議長(長谷場純孝君) 別ニ說明モナク別ニ質問モゴザイマセヌカラシテ、日程ノ第二、右議案審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ニ移リマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長(長谷場純孝君) 日程第一ハドナタモ御發議ハゴザイマセヌカ、是ハ議長指名ノ委員九名ト致シマシタラドウデゴザイマセヌカ

(異議ナシ異議ナシ)ノ聲起ル

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ、議長指名ノ委員九名ニ決シマス——日程第三、耕地整理法改正法律案ノ第一讀會ヲ開キ議案ノ朗讀ハ省略シマス、押川農商務次官

第三 耕地整理法改正法律案(政府提出) 第一讀會

耕地整理法改正法律案

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ土地ノ農業上ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ本法ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ行フヲ謂フ

一 土地ノ交換、分合、開墾、地目變換其ノ他區劃形質ノ變更若ハ道路、堤塘、畦畔、溝渠、溜池等ノ變更廢置又ハ之ニ伴フ灌漑排水ニ關スル設備若ハ工事

二 前號ノ事項施行ノ爲若ハ施行ノ結果必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ設備又ハ其ノ維持管理

三 前二號ノ事項ニ關シ必要アルトキ國、府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ノ認許ヲ得テ行フ營造物ノ修繕

第二條 本法ニ於テ關係人ト稱スルハ整理施行地ニ付所有權以外ノ登記シタル權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第三條 耕地整理ヲ施行セムトスルトキハ設計書ヲ作り關係人ノ同意書ヲ添ヘ數人共同シテ施行セムトスルモノニ在リテハ尙規約ヲ作り地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ關係人ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

設計書、規約若ハ整理施行地區ヲ變更シ若ハ一人ニテ施行スル耕地整理ヲ變更シテ數人共同シテ施行ト爲シ又ハ事業ヲ停止若ハ廢止セムトスルトキハ之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ耕地整理施行ノ爲爲シタル借入金アルトキハ債權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ事業ヲ廢止シ、整理施行地區ヲ減少シ又ハ債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更スルコトヲ得ス

前項整理施行地區ノ變更ニ依リ新ニ整理施行地區ニ編入セラルヘキ土地ニ付テハ第一項ノ同意書ニ關スル規定ヲ準用ス

地方長官第一項又ハ第二項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ハ前項ノ告示アル迄之ヲ以テ第三項ニ對抗スルコトヲ得ス

前五項ノ規定ハ耕地整理組合ニ之ヲ適用セス

第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ整理施行地ノ所有者、占有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 整理施行地ノ所有者ニ屬スル耕地整理ニ關スル權利義務ハ土地ノ所有權ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

前項ノ場合ニ於テ被承繼人ハ其ノ土地所有權移轉登記前ノ義務ニ付登記後二年間承繼人ト連帶シテ其ノ責任ス

第六條 本法中別ニ規定アル場合ヲ除クノ外土地ノ所有者、占有者、關係人其ノ他整理施行地ニ付權利ヲ有スル者ハ耕地整理ノ施行ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第七條 地方長官又ハ郡長耕地整理ニ關スル調査ヲ爲ス爲必要アルトキハ官吏又ハ吏員ヲシテ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ檢査ヲ爲シ障害ノ竹木土石等ヲ移轉若ハ除却セシムルコトヲ得但シ之ニ依リ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ土地ノ占有者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條 前條ノ規定ハ耕地整理施行ノ認可ヲ申請セムトスル者、其ノ施行者耕地整理組合ノ設立ヲ具申セムトスル者又ハ耕地整理組合ノ創立委員カ整理施行ノ爲必要ナル準備ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 耕地整理施行ノ認可ヲ申請セムトスル者、其ノ施行者、耕地整理組合ノ設立ヲ具申セムトスル者又ハ耕地整理組合ノ創立委員ハ整理施行地ヲ管轄スル登記所、土地臺帳所管廳、市役所又ハ町村役場ニ就キ無償ニテ耕地整理ニ關シ必要ナル簿書ノ閱覽又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得但シ耕地整理組合ノ創立委員及組合長ヲ除クノ外其ノ資格ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ提出スヘシ

第十條 耕地整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登録ヲ爲ストキハ登録稅ヲ免除ス  
 前項ノ規定ハ耕地整理ノ施行ニ伴ヒ大字若ハ字ノ名稱又ハ其ノ區域ニ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 耕地整理ヲ施行スル爲國有ニ屬スル道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルニ依リ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ整理施行地ノ所有者ニ交付ス  
 耕地整理ノ施行ニ依リ開設シタル道路、堤塘、溝渠、溜池等ニシテ前項廢止シタルモノニ代ルヘキモノハ無償ニテ之ヲ國有地ニ編入ス

第十二條 本法ニ依リ開墾、地目變換其ノ他土地ノ區劃形質ノ變更又ハ道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ變更廢置ニ關シテハ地租條例第十條ノ一乃至第十一條、第十二條乃至第十九條ノ規定ヲ適用セズ

第十三條 耕地整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ整理施行地區内土地ノ現地價ノ合計額ヲ每筆相當ニ配賦シテ之ヲ定ム但シ第十一條第二項ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ面積カ同條第一項ニ依リ交付シタル土地ノ面積ヨリ多キ場合ニ於テハ整理施行地ノ現地價ノ平均額ヲ其ノ面積ノ差額ニ乘シタル金額ヲ現地價ノ合計額ヨリ控除シタル額ヲ以テ現地價ノ合計額ト看做ス

第十四條 耕地整理施行地區ノ全部ニ付土地臺帳ノ整理ヲ完了スル迄從前ノ地租地目及地價ニ依リ之ヲ徵收ス  
 規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ其ノ各區ヲ以テ前二項ノ整理施行地區ト看做ス

第十五條 耕地整理施行スルニ當リ其ノ地區内ノ土地總面積ノ五分ノ一以上ニ當ル土地ニ付開墾ヲ爲シ又ハ地目變換スル場合ニ於テハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地ニ對シ從前ノ地租地目及地價ヲ修正シ前條第一項ノ現地價トス

第十六條 前項ノ場合ニ於テ開墾シタル土地ニ付テハ工事著手ノ年ヨリ二十年目、變換シタル土地ニ付テハ工事完了ノ年ヨリ六年目ニ至リ修正地價ニ依リ其ノ地租ヲ徵收ス但シ開墾シタル土地ニシテ工事著手ノ年ヨリ二十年目ニ達シ地味成熟ニ至ラサルモノニ對シテハ更二十年以内ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

第十七條 地租課セサル土地ヲ整理施行地區ニ編入シ地租課スヘキ土地ト爲シタルトキハ第十一條第一項ニ依リ交付シタル土地ヲ除クノ外工事完了ノトキ從前ノ地租地目及地價ヲ設定シ前條第一項ノ現地價トス

第十八條 整理施行地區内ノ土地中開墾著手後九年、地目若ハ地租ノ變換後五年ヲ經過セサルモノ又ハ地租ノ免除若ハ輕減ニ關スル各種ノ年期ヲ有スルモノアルトキハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一 開墾若ハ地租ノ變換ヲ爲シタル土地、地目ヲ變換シ地價ノ修正ナキ土地又ハ畝下年期、新開免租年期、地價據置年期ヲ有スル土地ハ工事著手ノ際地價ヲ修正シ又ハ設定ス

二 荒地免租年期又ハ低價年期ヲ有スル土地ハ工事完了ノトキ從前ノ地租地目及地價ヲ修正ス

三 第一號ニ依リ地價ヲ修正シ又ハ設定シタル土地ニ付テハ開墾著手後十年目、地目若ハ地租ノ變換後五年目又ハ年期明ニ至リ修正地價又ハ設定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ工事完了シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

四 工事完了シタルトキハ第一號若ハ第二號ニ記載シタル土地又ハ地目ヲ變換シ地價ノ修正アリタル土地ニ付テハ修正地價又ハ設定地價ヲ以テ第十三條第一項ノ現地價トス

第十六條 工事完了シタルトキニ於テ開墾著手後九年、地目若ハ地租ノ變換後五年ヲ經過セサル土地若ハ前條ニ記載スル年期ヲ有スルモノニシテ業關係者ハ其ノ協議ヲ以テ修正地租ト從前ノ地租トノ差額ノ利益若ハ負擔又ハ地租ノ免除ヲ受クヘキ土地及金額ヲ定メ政府ニ申告シ殘年期間又ハ第十四條第二項ニ定ムル期間中ハ其ノ金額ヲ加除シテ其ノ土地ノ地租ヲ納ムヘシ但シ協議一致セサルトキハ政府ニ於テ之ヲ定ム

第十七條 換地ハ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外第三十一條第四項ノ告示ノ日ヨリ之ヲ從前ノ土地ト看做ス  
 前項ノ規定ハ行政上又ハ裁判上ノ處分ニシテ從前ノ土地ニ專屬スルモノニ影響ヲ及ボサス

第十八條 賃借地ニ付耕地整理施行ノ爲賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テ賃借人ハ整理施行者ニ對シ解除ニ依リ生シタル損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得但シ整理施行者ハ規約ノ定ムル所ニ依リ賃借人ニ對シ求償スルコトヲ得

第十九條 耕地整理施行ノ爲賃借地ノ利用ヲ妨ケラルトキハ賃借人ハ借賃ノ相當ノ減額又ハ前拂シタル借賃ノ相當ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 耕地整理施行ノ爲著シク賃借地ノ利用ヲ増シタルトキハ賃借人ハ借賃ノ相當ノ増額ヲ請求スルコトヲ得  
 前項ノ請求アリタル場合ニ於テ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲シ其ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

第二十一條 耕地整理施行ノ爲地上權、永小作權又ハ地役權ヲ設定シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ地上權者、永小作權者又ハ地役權者ハ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第二十二條 整理施行地ノ上ニ存スル地役權ハ耕地整理施行ノ後仍從前ノ土地ノ上ニ存ス

第二十三條 耕地整理施行ノ爲地役權者カ其ノ權利ヲ行使スル利益ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ地役權ハ消滅ス  
 耕地整理施行ノ爲從前同一ノ利益ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル地役權者ハ其ノ利益ヲ保存スル範圍内ニ於テ地役權ノ設定ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 第十九條及第二十條ノ規定ハ地上權、永小作權又ハ地役權ニ之ヲ準用ス

第二十五條 第十九條及第二十條ノ規定ハ地上權、永小作權又ハ地役權ニ之ヲ準用ス

第二十六條 第十九條及第二十條ノ規定ハ地上權、永小作權又ハ地役權ニ之ヲ準用ス

第二十七條 第十九條及第二十條ノ規定ハ地上權、永小作權又ハ地役權ニ之ヲ準用ス

第二十八條 第十九條及第二十條ノ規定ハ地上權、永小作權又ハ地役權ニ之ヲ準用ス

第二十九條 第十九條及第二十條ノ規定ハ地上權、永小作權又ハ地役權ニ之ヲ準用ス

第二十四條 前六條ノ規定ニ依ル貸借ノ解除、地上權若ハ永小作權ノ拋棄、地役權ノ拋棄若ハ設定又ハ借賃、地代、小作料若ハ地役ノ對價ノ減額、拂戻若ハ増額ノ請求ハ第三十一條第四項ノ告示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條 整理施行地又ハ之ニ存スル建物ニシテ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ第二十七條、第二十八條第三十一條第一項第二項又ハ第四十五條第二項ノ規定ニ依リ拂渡スヘキ金錢アルトキハ整理施行者ハ其ノ金額ヲ供託スヘシ但シ關係人ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ整理施行地又ハ之ニ存スル建物カ訴訟ノ目的タリ又ハ整理施行地區ニ編入後訴訟ノ目的ト爲リタル爲訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

先取特權者、質權者、抵當權者又ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規定ニ依リ供託シタル金錢ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十六條 第三條ノ規定ニ依ル整理施行者カ其ノ事業ノ爲借入レタル金額及其ノ利息其ノ他耕地整理ノ施行ニ依リ生シタル債務ニ付テハ共同施行者連帶シテ其ノ責ニ任ス但シ第二十九條第一項ノ場合ヲ除クノ外規約ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ於テ共同施行者ト稱スルハ帝室及國ヲ包含セス

第二十七條 整理施行者ハ耕地整理施行ノ爲必要アルトキハ整理施行地區内ノ工作物又ハ木石等ヲ移轉シ、除却シ又ハ破壊スルコトヲ得但シ之ニ依リ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ

第二十八條 第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又ハ耕地整理組合員ハ耕地整理施行ノ爲受ケタル損害ニ對シ第七條、第八條又ハ前條ノ場合ヲ除クノ外補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 第三條ノ規定ニ依ル耕地整理施行ノ爲他人ニ加ヘタル損害ノ補償ニ付テハ共同施行者連帶シテ其ノ責ニ任ス

第三十條 整理施行地ニ付權利ヲ有スル者耕地整理施行ノ認可若ハ整理施行地區變更ノ認可又ハ耕地整理組合ノ設立若ハ組合地區變更ノ認可ノ告示アリタル後ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ得シテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタルトキハ之ニ關スル損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得

前項告示ノ後ニ於テ土地ニ付權利ヲ取得シタル者ハ從前ノ權利者ノ爲シ得ヘキ範圍内ニ於テノ損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條 換地ハ從前ノ土地ノ地目、面積、等位等ヲ標準トシテ之ヲ交付スヘシ但シ地目、面積、等位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル部分ニ關シテハ金錢ヲ以テ之ヲ清算スヘシ

特別ノ事情ノ爲前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルモノノ處分ニ關シテハ規約ノ定ムル所ニ依ル

前二項ノ規定ニ依ル處分ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ告示スヘシ

第三十二條 前條ノ規定ニ依ル處分ハ整理施行地ノ全部ニ付工事完了シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條 整理施行地ニ以上ノ市町村、大字又ハ字ニ涉ル場合ニ於テ一筆ノ土地ノ區域ハ二以上ノ市町村、大字又ハ字ニ涉リテ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十四條 數筆ノ土地ヲ分合シテ換地ヲ交付スル場合ニ於テ既登記ノ土地ニ對スル換地ハ各筆毎ニ之ヲ割當ツヘシ

第三十五條 本法中土地所有者ノ數ヲ計算スル場合ニ於テハ共有者ハ之ヲ一人ト看做ス但シ共有者ノミ共同シテ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ第五十一條、第五十二條、第五十四條、第六十條第二項、第六十一條第二項、第七十條第二項又ハ第七十三條第二項中土地ノ面積又ハ地價ハ共有者ノ持分ニ依リ之ヲ定ム

第三十六條 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ依リ耕地整理ニ關スル書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ整理施行者、耕地整理組合ノ創立委員又ハ監督官廳カ公告ヲ爲ストキハ其ノ公告ノ日ヲ以テ書類ヲ發送シタルモノト看做シ二十日ヲ經過スルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ヲ送付ヲ了リタルモノト看做ス

第三十七條 第三十一條第三項ノ認可ヲ受ケタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク既登記ノ土地及建物ニ付登記ヲ申請スヘシ

第三十八條 整理施行地區内ノ土地及其ノ上ニ存スル建物ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第三十九條 共同施行又ハ耕地整理組合ニ依ル耕地整理ノ事業ニシテ郡、市町村又ハ水利組合ニ依リ施行スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ特別ノ情アル場合ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業ヲ郡、市町村若ハ水利組合ニ引繼キ又ハ耕地整理組合ヲ普通水利組合ニ變更スヘシ

前項ノ規定ニ依ル引繼又ハ變更アリタルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三條第五項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條 監督官廳ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ本法ノ規定ニ依ル職權ノ一部ヲ下級監督官廳ニ委任スルコトヲ得

第四十一條 本法中府縣、郡、市町村、郡長、市町村長、市役所又ハ町村役場トアルハ府縣制、郡制、市制、町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

第二章 耕地整理組合

第一款 總則

第四十二條 耕地整理ヲ施行スル爲必要アルトキハ耕地整理組合ヲ設立スルコトヲ得

第四十三條 耕地整理組合ハ整理施行地ヲ以テ其ノ地區トス

第四十四條 左ニ掲クル土地ハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ第一號乃至第三號ノ土地ニ付テハ主務官廳又ハ公共團體ノ認許、第四號乃至第八號ノ土地ニ付テハ土地所有者、關係人及建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 御料地、國有地  
二 官ノ用ニ供スル土地  
三 府縣、郡、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地  
四 名勝地、舊蹟地  
五 古墳墓地、墳墓地  
六 社寺境内地  
七 鐵道用地、軌道用地  
八 建物アル宅地

第四十五條 特別ノ價值又ハ用途アル土地ハ土地所有者及關係人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ之ヲ編入スルニ非サレハ耕地整理ヲ適當ニ施行スルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

土地收用法第四十七條乃至第四十九條、第五十一條乃至第五十四條、第五十六條、第五十八條、第六十條及第六十一條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ組合ノ設立又ハ地區變更ノ認可ノ告示ヲ以テ土地收用法第十九條ノ規定ニ依ル公告又ハ通知ト看做ス

第一項但書ノ場合ニ於テ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ其ノ土地ニ付工事ノ施行ヲ拒ムコトヲ得但シ第九十二條第一項ノ規定ニ依リ決定ヲ得タル金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 耕地整理組合設立ノ認可アリタルトキハ其ノ地區内ニ土地ヲ所有スル者ハ總テ之ヲ組合員トス但シ第十一條第一項ノ土地ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條 耕地整理組合ノ名稱中ニハ耕地整理組合ナル文字ヲ用ウヘシ耕地整理組合ニ非サルモノハ耕地整理組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第四十八條 組合員又ハ組合員タルヘキ者ニシテ組合ノ地區又ハ第五十二條ニ依リ指定シタル地區所在ノ市町村若ハ其ノ鄰接市町村ニ住所若ハ居所ヲ有セサル者又ハ土地ノ共有者ハ耕地整理ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サシムル爲組合ノ地區又ハ第五十二條ニ依リ指定シタル地區所在ノ市町村若ハ其ノ鄰接市町村ニ住所若ハ居所ヲ有スル者又ハ共有者中ノ一人ヲ以テ代表者ト爲シ之ヲ組合又ハ創立委員ニ通知スヘシ

前項ノ代表者ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
第四十九條 前條ノ委任ノ終了ハ組合又ハ創立委員ニ通知アル迄之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
第五十條 第四十八條第一項ノ手續ヲ爲ササル土地共有者ニ對スル書類ノ

送付ハ其ノ一人ニ對シ之ヲ發送シタル時ニ於テ完了シタルモノト看做ス  
第二款 組合ノ設立及解散

第五十一條 耕地整理組合ヲ設立セムトスルトキハ組合ノ地區タルヘキ區域内ノ土地所有者總數ノ三分ノ二以上ニシテ其ノ區域内ノ土地ノ總面積及總地價ノ各三分ノ二以上ニ當ル土地所有者ノ同意ヲ得テ設計書及規約ヲ作り地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五十二條 地方長官ハ組合ノ地區タルヘキ區域内ノ土地所有者ノ總數ノ十分ノ一以上ニシテ其ノ區域内ノ土地ノ總地價ノ十分ノ一以上ニ當ル土地所有者ノ具申ニ依リ耕地整理組合ノ設立ヲ必要ト認ムルトキハ假ニ組合ノ地區ヲ指定シ創立委員ヲ命シ且其ノ旨ヲ告示スヘシ

第五十三條 創立委員ハ設計書案及規約案ヲ作り組合員タルヘキ者ノ總會ニ付スヘシ  
第七十一條ノ規定ハ前項ノ總會議ニ之ヲ準用ス

第五十四條 前條ノ總會議ノ議事ハ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ニシテ且組合地區内ノ土地ノ總面積及總地價ノ各三分ノ二以上ニ當ル土地所有者ノ同意ニ依リ之ヲ決ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員タルヘキ者ノ代理人ヲ許スコトヲ得

第五十五條 設計書及規約ノ議決ヲ經タルトキハ創立委員ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ  
第五十六條 耕地整理組合ハ第五十一條又ハ前條ノ地方長官ノ認可ニ依リ成立ス

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ組合設立ノ旨ヲ告示スヘシ  
組合ハ前項ノ告示アル迄其ノ成立ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス  
第五十七條 組合創立ニ關スル費用ハ組合設立ノ後組合ノ負擔トス

第五十八條 組合ハ左ノ事由ニ依リ解散ス但シ第二號ノ場合ニ於テ還了セサル組合債アルトキハ此ノ限ニ在ラス  
一 規約ニ定メタル事由ノ發生  
二 目的タル事項ノ完成又ハ完成ノ不能  
三 總會ノ議決  
四 合併

五 事業ヲ郡、市町村又ハ水利組合ニ引繼キタルトキ  
六 普通水利組合ニ變更シタルトキ  
七 組合員一人ト爲リタルトキ  
八 監督官廳ノ處分  
前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ第三號又ハ第四號ニ該當スルトキヲ除クノ外其ノ旨ヲ告示スヘシ  
第五十九條 組合ニ於テ設計書若ハ規約ノ變更、組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ヲ爲サムトスルトキハ之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ總會ノ議決ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ組合債ヲ負擔スルトキハ債權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ組合ノ解散、合併、地區ノ減少又ハ債務分擔ニ關スル規約ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス  
地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第六十條 組合ノ地區ヲ變更スル場合ニ於テ新ニ組合ノ地區ニ編入セラルヘキ土地アルトキハ組合長ハ編入區域ノ土地所有者ノ總會ヲ開キ其ノ議決ヲ前條ノ總會ノ議決ニ添附スヘシ

第五十三條及第五十四條ノ規定ハ前項ノ總會議ニ之ヲ準用ス

第六十一條 前條ノ總會議ハ編入區域ノ土地所有者ノ同意ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五十一條ノ規定ハ前項ノ同意ニ之ヲ準用ス

第六十二條 設計書若ハ規約ノ變更、組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ハ第五十八條第二項又ハ第五十九條第二項ノ告示アル迄之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第六十三條 組合ヲ合併シタルトキハ合併ニ依リ解散シタル組合ニ屬スル權利義務ハ合併後存續シ又ハ合併ニ依リ設立シタル組合ニ移轉ス

第六十四條 組合員一人ト爲リタル爲組合解散ノ場合ニ於テハ其ノ事業ハ一切ノ權利義務ト共ニ土地所有者ニ移轉ス

前項ノ土地所有者ハ之ヲ第三條ノ規定ニ依リ整理施行者ト看做ス

第六十五條 組合解散シタルトキハ第五十八條第一項第四號、第六號又ハ第七號ノ場合ヲ除クノ外清算ヲ爲スヘシ

組合ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第三款 組合ノ會議

第六十六條 別ニ規定アルモノノ外左ニ掲グル事項ハ總會ノ表決ヲ經ヘシ

一 第三十一條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲ス事

二 組合債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事

三 經費ノ收支豫算ヲ定ムル事

四 豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事

五 組合長、組合副長若ハ評議員ヲ選任シ又ハ解任スル事

六 組合費、夫役現品ノ分賦收入ニ關スル事

七 事業報告書及收支決算書ヲ承認スル事

八 工作物又ハ設備ノ維持管理方法ヲ定ムル事

九 訴訟、訴訟及和解ニ關スル事

十 規約ニ定メタル事項

十一 其ノ他組合長ニ於テ重要ナリト認メタル事項

第六十七條 總會ハ規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ評議員會ニ委任シ又ハ組合長ヲシテ專決セシムルコトヲ得

評議員會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十八條 總會ノ表決ヲ經ヘキ事件ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ召集スル暇ナシト認ムルトキハ組合長ハ專決處分シテ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ但シ設計書、規約若ハ組合地區ノ變更又ハ組合ノ解散若ハ合併ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

組合長前項ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ其ノ處分前評議員會ノ同意ヲ得

ルコトヲ要ス但シ評議員ヲ置カサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六十九條 總會ハ總組合員ヲ以テ之ヲ組織ス

第七十條 總會ハ組合長之ヲ召集ス

組合員總數ノ五分ノ一以上ニ當ル者又ハ組合地區内ノ土地ノ總面積若ハ總地價ノ五分ノ一以上ニ當ル者ヨリ會議ノ目的及其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ召集ヲ請求スルトキハ組合長ハ十四日以内ニ之ヲ召集スヘシ

第七十一條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ五日前ニ會議ノ日時、場所及目的ヲ記載シテ各組合員ニ通知ヲ發スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ニ於テハ期間ヲ二日迄短縮スルコトヲ得

第七十二條 組合員ハ各一箇ノ表決權ヲ有ス但シ規約ヲ以テ表決權總數ノ五分ノ一ヲ超過セサル範圍内ニ於テ一人ニ付二箇以上ノ表決權ヲ有セシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ第七十三條第二項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第七十三條 總會ノ議事ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外組合員ノ半數以上出席シ出席者ノ表決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五十四條ノ規定ハ第五十九條又ハ第六十六條第一號、第二號若ハ第五號ノ事項ノ表決ニ之ヲ準用ス但シ命令又ハ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條 組合員ハ總會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ表決權ヲ行フ者ハ出席者ト看做ス

第七十五條 第三十二條但書ノ規定ニ依リ第三十一條ノ處分ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ其ノ處分ヲ爲サムトスル土地ニ關スル組合員ノ總會議ヲ以テ總會ト看做ス

第七十六條 組合ハ命令ヲ定ムル所ニ依リ組合員ノ選舉シタル議員ヲ以テ組織スル組合會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得

第七十七條 總會ニ關スル規定ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前二條ノ規定ニ依ル組合員ノ總會議又ハ組合會ニ之ヲ準用ス但シ組合會ニ於テハ組合ノ解散、合併又ハ地區ノ變更ノ議決ヲ爲スコトヲ得

第四款 組合ノ管理

第七十八條 組合ニ組合長一人及組合副長一人又ハ數人ヲ置ク

組合長又ハ組合副長ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス但シ特別ノ事情アルトキハ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ得

組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官必要ト認ムルトキハ職權ヲ以テ組合長又ハ組合副長ヲ指定スルコトヲ得

地方長官前二項ノ規定ニ依リ認可ヲ與ヘ又ハ指定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

組合長又ハ組合副長ノ就任若ハ解任ハ前項ノ告示アル迄之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得

第七十九條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ管理ス

組合副長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス組合副長數人アルトキハ其ノ代理ノ順序ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第八十條 組合長ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八十一條 組合ニ評議員ヲ置ク但シ特別ノ事情アル爲メ地方長官ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

評議員ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス  
評議員ハ組合長ノ諮詢ニ應ジ並業務及財産ノ狀況ヲ監査ス  
組合長ハ規約ノ定ムル所ニ依リ評議員ヲシテ組合ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第八十二條 組合長ハ設計書、規約、組合員名簿、會議ノ議事録其ノ他組合ニ關スル書類及帳簿ヲ事務所ニ備ヘ置クヘシ

組合員又ハ利害關係人ヨリ前項ノ書類又ハ帳簿ノ閱覽ヲ求メタルトキハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五款 組合ノ財務  
第八十三條 組合ノ費用ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス夫役現品ノ分賦及之ニ代ルヘキ金額ニ關スル規定ハ規約中ニ之ヲ定ムヘシ

第八十四條 組合員ニシテ組合費又ハ第三十一條第一項第二項ノ規定ニ依リ支拂フヘキ金銭ヲ滯納スルトキハ市町村ハ組合長ノ請求ニ依リ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス

前項ノ場合ニ於テ組合ハ其ノ徵收金額中百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ  
第一項ノ徵收金ハ組合地區内ノ土地ニ關シ市町村、水利組合其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有ス

前三項ノ規定ハ組合員カ夫役現品ニ代ルヘキ金銭ヲ滯納スル場合ニ之ヲ準用ス

第八十五條 組合ニ於テ負債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ負債ハ起債ノ時ヨリ十五年以内ニ之ヲ還了スヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ限リ二十年迄延期スルコトヲ得

第八十六條 組合ニシテ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ皇室及國ヲ除クノ外組合員ハ之ニ付連帶無限ノ責任ヲ負擔ス但シ耕地整理施行ノ爲メ他人ニ加ヘタル損害ノ補償ヲ除クノ外規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三章 監督  
第八十七條 耕地整理ハ第一次ニ郡長、第二次ニ地方長官、第三次ニ主務大臣之ヲ監督ス但シ整理施行ノ區域郡市若ハ數郡ニ涉リ又ハ市内ニ止ル場合ニ於テハ第一次ニ地方長官、第二次ニ主務大臣之ヲ監督ス

第八十八條 主務大臣又ハ地方長官ニ於テ會議ノ表決又ハ整理施行者ノ行爲カ設計書、規約又ハ法令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ會議ノ表決ヲ取消シ、組合長若ハ組合副長ヲ解任シ、評議員若ハ組合會議員ノ改選、事業ノ停止若ハ組合ノ解散ヲ命ジ又ハ整理施行ノ認可ヲ取消スコトヲ得

可ヲ取消スコトヲ得  
第八十九條 監督官廳ハ整理施行者ヲシテ耕地整理事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ、書類、帳簿、出納又ハ工事ヲ検査シ、設計書又ハ規約ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第九十條 監督官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ認可申請ニ對シ申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ認可ヲ與フルコトヲ得

第九十一條 第三條ノ規定ニ依リ耕地整理ノ施行者ハ整理施行地區ノ變更ニ異議アル關係人第四十四條若ハ第四十五條ノ規定ニ違反シテ耕地整理組合ノ地區ニ編入シタル土地ノ所有者若ハ關係人又ハ第三條第二項但書若ハ第五十九條第一項但書ノ規定ニ依リ異議アル債權者ハ各耕地整理施行ノ認可若ハ整理施行地區變更ノ認可ノ告示、耕地整理組合ノ設立若ハ組合地區變更ノ認可ノ告示又ハ第三條第四項若ハ第五十九條第二項ノ規定ニ依リ當該事項ノ告示アリタル日ヨリ三十日以内ニ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ訴願アリタル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ裁決アル迄目的タル土地ニ付耕地整理ノ施行ヲ停止スヘシ

第九十二條 第四十五條第二項ノ規定ニ依リ補償金ニ付協議調ハサルカ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十三條 總會、總會又ハ組合會ノ招集手續又ハ表決カ違法ナル場合ニ於テ之ニ對シ不服アル者ハ其ノ表決ノ日ヨリ十四日以内ニ地方長官ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

前項異議ノ申立アリタル場合ニ於テ監督官廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ利害關係人ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ表決又ハ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第九十四條 監督官廳ノ處分ニシテ本法中他ノ條項ニ於テ地方長官ノ告示ヲ必要トスル事項ニ相當スルモノニ付テハ地方長官ハ之ヲ告示スヘシ

整理施行者ハ前項ノ告示アル迄其ノ受ケタル處分ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ監督官廳ノ命令シタル停止處分ノ解除ニ之ヲ準用ス

第四章 罰則  
第九十五條 耕地整理施行ニ關シ設ケタル標識ヲ移轉、汚損、毀壞又ハ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條 第三條ノ規定ニ依リ整理施行者又ハ耕地整理組合ノ組合長若ハ組合副長本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則  
第九十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治三十年法律第三十九號ハ之ヲ廢止ス但シ現ニ土地ノ區劃形狀變更ノ許可ヲ得タル者ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第九十八條 本法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニ付テハ以下數條ニ規定スルモノヲ除クノ外舊法ノ規定ヲ適用ス

第九十九條 本法第一條、第二條、第四條、第五條、第八條、第十條、第十七條、第二十七條、第二十八條、第三十一條、第三十二條、第三十四條、第三十六條乃至第四十一條、第八十七條、第八十九條及第九十條ノ規定ハ本法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニ之ヲ適用ス

第一百條 本法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ得タル者ハ發起人又ハ整理委員ノ申請ニ依リ命令ヲ定ムル所ニ從ヒ之ヲ本法ニ依リ耕地整理組合ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ耕地整理組合ト爲シタルトキハ耕地整理ニ關スル從前ノ設計書又ハ規約ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ反セサル範圍内ニ於テ本法ノ規定ニ依リ設計書又ハ規約ト看做ス

第一項ノ規定ニ依リ耕地整理組合ハ耕地整理ニ關スル參加土地所有者共同ノ權利義務ヲ承繼ス

第一百一條 本法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ申請シ未タ之ヲ得ルニ至ラサル者ハ命令ヲ定ムル所ニ從ヒ之ヲ本法第五十一條ノ規定ニ依リ耕地整理組合設立ノ申請ト爲スコトヲ得

第一百二條 舊法又ハ明治三十年法律第三十九號ニ依リ爲シタル處分ニ對スル訴願ニ關シテハ各舊法又ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ依ル

〔政府委員押川則吉君登壇〕

○政府委員(押川則吉君) 唯今議題ニ上リマシタ、耕地整理法ノ改正ノコトニ付テ一應説明ヲ致シタト思ヒマス、現行ノ耕地整理法ハ明治三十三年ノ一月ヨリ施行致シタノデアリマシテ、其後十箇年ヲ經過シテ居リマス、此間ニ整理事業ノ實施ニ付キマシタノガ二千二百二十七箇所、段別ガ十二万五千餘町歩ニ達シテ居リマス、其實施面積ハ固ヨリ十分云フ譯ニハ參リマセヌケレドモ、御承知ノ如ク本事業ハ實施上障礙ノ多イコトデアリマシテ又費用モ隨分多大ナルモノヲ要スルノデアリマス、故ニ此結果モ寧ロ良好ト云フテ宜カラウト考ヘマス、然ルニ最近ノ調査ニ依リマスト云フト、尙耕地整理ヲ施行スベキ面積ハ頗ル多イト認ムルノデアリマシテ、又尙開墾ヲスベキ土地モ頗ル多イト思ヒマス、畑ヲ田ニ變ル必要ノアル處モ少ナカラスト思フノデアリマス、是等ノ土地ニ整理ヲ行ヒマシテ農産ノ増殖ヲ計ルト云フコトハ本日ノ急務ト考ヘルノデアリマ

スル、ソレ故ニ今回耕地整理法ノ改正案ヲ提出致シタ次第デアリマス、其最モ重要ナルコトハ第一ニ開墾若クハ地目變換ト云フコトニ耕地整理法ヲ適用致シタト云フコトガ、第一ノ要點デアリマス、ソレカラ次ニハ此耕地整理法ノ施行スル土地所有者ノ團體ニ法人ノ資格ヲ與ヘタト云フコトガ第二ノ要點デアリマス、ソレカラ整理ノ施行上ノ便ニ付キマシテ現行ノ法律ニ於テハ手續ガ多少掛ルノデアリマス、ソレ等ノコトヲ簡便ニ致シタト云フコトガ第三ノ要點デアリマス、是等ノ理由ヲ以テ今回改正案ヲ提出致シタ次第デアリマス、ドウゾ御協賛ヲ與ヘラレントコトヲ希望致シマス

○大岡育造君(本案ハ今即チ委員選定ノトキニナラセテ宜カラウト思ヒマス)

○議長(長谷場純孝君) 別ニ御質問ガナケレバ議事日程ノ第四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

第四 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉  
○大岡育造君 地方ノ關係ガ大分重ウゴザイマスルシ、澤山ノ諸君ガ成ルベク此コトヲ能ク知ツテ居ッダ方ガ宜カラウト思ヒマスカラ二十七名ノ委員ニ致シタト思ヒマス、議長指名ヲス

〔贊成ヤヤノ聲起ル〕  
○議長(長谷場純孝君) 二十七名デスカ

〔二十七名贊成ト呼フ者アリ〕  
○議長(長谷場純孝君) 今大岡君ノ動議即チ此耕地整理法改正法律案ハ、議長指名ノ委員二十七名ニ付託スルコト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕  
○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ、其通り決シマス——日程第五、第七、第九、第十一ハ關聯セル議案ナルニ依リ一括シテ議題トナスニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕  
○議長(長谷場純孝君) 御異議ハナシト認メマスカラ、第五、第七、第九、第十一ハ一括シテ議題ト致シマス——押川農商務次官

第五 特許法改正法律案(政府提出) 第一讀會

第七 意匠法改正法律案(政府提出) 第一讀會

第九 商標法改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十一 實用新案法改正法律案(政府提出) 第一讀會

特許法改正法律案

第一章 總則

第一條 新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付本法ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

第二條 自己ノ特許發明又ハ特許出願中ノ發明ニ付改良又ハ擴張ヲ爲シタル者ハ其ノ改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付追加特許ヲ受クルコトヲ得自己ノ特許發明又ハ特許出願中ノ發明ニ付他人ノ爲シタル改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テ特許出願中ノ發明カ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタルトキハ追加特許ノ出願ハ之ヲ獨立ノ特許出願ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ獨立ノ特許出願ハ追加特許出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三條 職務上又ハ契約上爲シタル發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ハ勤務規程又ハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ職務ヲ執行セシムル者又ハ使用者ニ屬ス

職務ノ執行又ハ契約ノ履行ニ依リ勤務中公務員又ハ被用者ノ爲シタル發明ニシテ職務上又ハ契約上爲シタルモノニ非サル發明ニ付發明前豫メ特許ヲ受クルノ權利又ハ特設權ヲ讓渡セシムルコトヲ定メタル勤務規程又ハ契約ノ條項ハ之ヲ無効トス

第四條 本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ左ノ各號ニ該當セサルモノヲ謂フ

一 特許出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用非ラレタルモノ  
 二 特許出願前容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國内ニ頒布セ  
 ラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ  
 第五條 發明カ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ之ヲ新規ナルモノト看做ス  
 一 發明カ試驗ノ爲前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル時ヨリ二年以内  
 ニ特許ヲ出願シタルトキ  
 二 同一發明ニ關スル特許出願中若ハ實用新案登錄出願中又ハ其ノ特許  
 權若ハ實用新案權ノ存續中其ノ發明カ前條各號ノ一ニ該當スルニ至  
 リタルトキ

第六條 左ニ掲グル發明ニ付テハ之ヲ特許セス  
 一 飲食物、嗜好物  
 二 醫藥、其ノ調合法  
 三 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ  
 第七條 特許出願カ二以上ノ發明ヲ包含スルトキハ之ヲ分割スルコトヲ得  
 此ノ場合ニ於テハ最初出願ノ時ニ於テ各出願ヲ爲シタルモノト看做ス  
 第八條 政府、道、府縣若ハ政府ノ認可ヲ得タルモノノ開設スル博覽會、共  
 進會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設若ハ官許ノ  
 萬國博覽會ニ出品スル發明ニ付テハ其ノ開會ノ日ヨリ六月以内ニ特許ヲ出願  
 シタルトキハ開會ノ日ニ於テ出願シタルモノト看做ス  
 前項ノ規定ハ命令ヲ以テ前項ノ出品ニ付豫メ届出ツヘキコトヲ規定シタ  
 ル場合ニ於テ其ノ届出ヲ怠リタル者ニ對シ之ヲ適用セス

第九條 同一發明ニ付各別ニ特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者二人以上アル  
 トキハ最先ニ發明ヲ爲シタル者ニ限リ特許スルコトヲ得  
 又ハ發明ノ前後不明ナルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタル者ニ限リ特許スル  
 シ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ  
 特許セス  
 特許權發生後二年ヲ經過シタルトキハ最先ニ與ヘタル特許ニ限り有效ト  
 ス

第十條 特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコ  
 トヲ得ス  
 特許ヲ受クルノ權利ノ承繼ハ特許出願前ニ在リテハ特許ヲ出願シ特許出  
 願後ニ在リテハ出願人ノ名義變更更ノ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者  
 ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協  
 議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ對抗スルコトヲ得ス

第十一條 特許出願ノ發明カ公益ノ爲普及ヲ要スルモノナルトキ又ハ軍事  
 上必要ナルモノ若ハ秘密ヲ要スルモノナルトキハ特許ヲ與ヘス又ハ制限  
 ヲ附シテ特許ヲ與フルコトヲ得  
 發明カ軍事上必要ナルモノ又ハ秘密ヲ要スルモノナルトキハ其ノ發明ニ  
 付特許ヲ受クルノ權利ハ政府ニ於テ之ヲ收用スルコトヲ得  
 前二項ノ場合ニ於テ政府ハ相當ノ補償金ヲ支給ス

第十二條 帝國内ニ在ラサル者ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外帝  
 國內ニ住所又ハ居所ヲ有スル代理人ニ依ルニ非サレハ特許ニ關スル出願、  
 請求其ノ他ノ手續ヲ爲シ又ハ特許權若ハ特許ニ關スル權利ヲ主張スルコ  
 トヲ得ス  
 前項ノ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ代理人ハ特ニ授ケラ  
 レタル權限ノ外本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ因リ手續並特  
 許ニ關スル民事訴訟、私訴及告訴ニ付本人ヲ代表ス

第十三條 前條第二項ノ特許權者又ハ特許權ニ關シ登録シタル權利ヲ有ス  
 ル者ノ代理人ノ選任若ハ變更又ハ其ノ代理權ノ變更若ハ消滅ハ登録ヲ受  
 クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
 前項ニ該當スルモノヲ除クノ外特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ  
 爲ス者ノ代理人ノ變更又ハ其ノ代理權ノ變更若ハ消滅ハ特許局ニ届出ツ  
 ルニ非サレハ之ヲ以テ特許局ニ對抗スルコトヲ得ス

第十四條 特許ニ關スル代理人數人アルトキハ特許局ニ對シテハ共同又ハ  
 各別ニ本人ヲ代表ス  
 第十五條 特許局長ニ於テ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキ  
 ハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得  
 特許局長又ハ審判長ニ於テ當事者又ハ其ノ代理人カ手續又ハ演述ヲ爲ス  
 ル能力ナシト認ムルトキハ特許辯理士ヲ以テ代理セシムヘキコトヲ命ス  
 ルコトヲ得  
 前二項ノ命令アリタル後第一項ノ代理人又ハ第二項ノ當事者若ハ代理人  
 ノ特許局ニ對シテ爲シタル行為ハ之ヲ無効ト爲スコトヲ得  
 第十六條 特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理業ハ特許辯理士ニ非サレハ之  
 ヲ行フコトヲ得ス  
 特許辯理士ノ資格、登録、監督、懲戒等ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定  
 ム

第十七條 數人共同シテ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者又  
 ハ特許權ノ共有者ハ特許局ニ對シ各人互ニ代表スルモノトス但シ特ニ代  
 表者ヲ定メ特許局ニ届出タルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 第十八條 特許第二項ノ規定ハ前項但書ノ代表者ニ之ヲ準用ス  
 第十九條 特許權者ニシテ帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ第十二條ノ代理  
 人ノ住所又ハ居所、其ノ代理人ナキモノニ在リテハ特許局ノ所在地ヲ以テ  
 民事訴訟法第十七條ノ財產所在地ト看做ス

第二十條 特許局長ハ外國又ハ遠隔若ハ交通不便ノ地ニ住居スル者ノ爲職  
 權ヲ以テ又ハ請求ニ依リ特許局ニ對シ手續ヲ爲スヘキ法定ノ期間ヲ延長  
 スルコトヲ得  
 第二十一條 特許ニ關シ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者ニシテ法定又  
 ハ指定ノ期間ヲ懈怠シタルトキハ其ノ出願、請求其ノ他ノ手續ハ之ヲ無  
 効ト爲スコトヲ得  
 法定又ハ指定ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ於テ特許局長又ハ審判長有恕ス  
 ヘキ障礙ニ因リモノト認ムルトキハ其ノ障礙ノ止ミタル後十四日以内ニ  
 限リ請求ニ依リ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得但シ期間滿了後一年ヲ  
 經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ效力ヲ生ス

第二十三條 特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ效力ヲ生ス

第二十四條 特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ效力ヲ生ス

第二十五條 特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ效力ヲ生ス

第二十六條 特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ效力ヲ生ス

第二十七條 特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ效力ヲ生ス

ヘキ時期ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第二十二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ權利義務ハ其ノ特許權又ハ特許ニ關スル權利ト共ニ移轉ス

本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續ハ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ承繼人ニ對シ其ノ效力ヲ有ス  
第二十三條 特許局ニ事件ノ繫屬中ニ於テ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ移轉アリタルトキハ承繼人ニ對シテ手續ニ續行スルコトヲ得

第二十四條 本法ニ規定スルモノノ外特許局ニ繫ル手續ノ中斷、中止及續行ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 特許ニ關スル證明、特許證ノ複本、書類ノ謄本、圖面ノ調製又ハ書類ノ閱覽若ハ謄寫ヲ要スル者ハ其事由ヲ疏明シ特許局長ニ之ヲ請求スルコトヲ得但シ特許局長ニ於テ秘密ヲ要スト認ムルモノハ之ヲ許可セズ

第二十六條 軍事上秘密ヲ要スル發明ニ付テハ本法ニ規定スルモノノ外命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十七條 外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

特許ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章 特許權

第二十八條 特許權ハ登錄ニ依リ發生ス

特許權者ハ物ノ特許發明ニ在リテハ其ノ發明ニ係ル物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有シ方法ノ特許發明ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及其ノ方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

新規ナル同一ノ物ハ同一ノ方法ニ依リテ製作シタルモノト推定ス  
同一發明ニ關シテハ特許權ハ其ノ出願前ノ出願ニ係ル實用新案權ニ依リ制限ヲ受クルモノトス

第二十九條 特許權ノ效力ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス  
一 研究又ハ試驗ノ爲ニスル特許發明ノ應用

二 特許出願ノ際現ニ善意ニ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ若ハ設備ヲ有スル者又ハ其ノ承繼人ノ特許發明ノ實施

三 單ニ帝國内ヲ通過スル運輸具及其ノ裝置

四 特許出願ノ際ヨリ帝國内ニ在ル物及第一號又ハ第二號ニ依リ製作シタル物

第三十條 特許權ノ存續期間ハ十五年トス但シ特許權カ分割セラレ又ハ追加特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタルトキハ其ノ存續期間ハ原特許權發生ノ翌日ヨリ起算ス

前項ノ期間ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ三年以上十年以下之ヲ延長スルコトヲ得

第三十一條 冒認シタル他人ノ發明ニ付受ケタル特許權ヲ無効トシ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタルトキハ其ノ特許權ハ無効トナリタル特許權發生ノ

日ニ於テ發生シタルモノト看做ス  
第三十二條 特許權ハ制限ヲ付シ又ハ付セスシテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十三條 特許權ノ移轉、拋棄ニ依リ消滅若ハ處分ノ制限又ハ特許權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十四條 追加特許權ハ原特許權ニ附隨スルモノトス  
第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ原權利ノ範圍内ニ於テ特許發明ヲ實施スルノ權利ヲ有ス

一 特許カ第四十八條ノ規定ニ依リ無効ト爲リタル場合又ハ同一發明ニ對スル二以上ノ特許中其ノ一カ無効トナリタル場合ニ於テ善意ナル

原特許權者  
二 前號ノ原特許權ニ付善意ニ使用又ハ實施ノ權利ヲ得テ登錄ヲ受ケタル者

第三十六條 前條ノ權利ハ特許發明實施ノ事業ト共ニスル場合ニ限り移轉スルモノトス  
第三十七條 第三十五條ノ權利ハ其ノ發生後一年以内ニ登錄ヲ受クルニ非サレハ消滅ス

第三十八條 特許發明カ他人ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ使用スルニ非サレハ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ特許權者又ハ實用新案權者正當ノ理由ナクシテ其ノ使用ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ特許發明ノ使用ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ使用セラルヘキ發明ノ特許權發生ノ日ヨリ三年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ特許發明ヲ使用セラルル者其ノ使用ヲ必要トスル相手方ノ特許發明ニ付使用ヲ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ相手方カ正當ノ理由ナクシテ其ノ使用ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ他人ノ特許發明ヲ使用スル者ハ特許權者、實用新案權者其ノ他特許權又ハ實用新案權ニ關シ登錄シタル權利ヲ有スル者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

第三十九條 前條ノ規定ニ依リ他人ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ使用セムトスル者ハ補償金ノ支拂又ハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス但シ審決又ハ判決確定前ト雖其ノ審決又ハ判決ニ依リ補償金ヲ供託シタルトキハ其ノ使用ヲ爲スコトヲ得

第四十條 特許權者ハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得  
前項ノ實施許諾ヲ得タル者ハ特許權者ノ承諾アルニ非サレハ其ノ實施權ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ發明實施ノ事業ト共ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條 特許發明ニ付使用ノ許諾、審決、判決又ハ實施許諾ヲ得タル者ニシテ其ノ登錄ヲ受クルトキハ其ノ使用權又ハ實施權ハ爾後其ノ特許權ヲ取得シタル者又ハ其ノ特許權ヲ目的トシテ設定シタル質權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第四十二條 特許權者特許發明ノ明細書又ハ圖面ノ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ特許權改訂ノ許可ヲ受クルコトヲ得

特許權者特許發明ヲ分割シテ二以上ノ特許權ト爲サムトスルトキハ特許權分割ノ許可ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ各部分カ特許出願ノ當時獨立シテ新規ノ發明ヲ爲ササルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ場合ニ於テハ改訂又ハ分割前ノ發明ノ要部ヲ變更スルコトヲ得

特許權ノ改訂及分割ハ登録ニ依リ其ノ效力ヲ生ス

第四十三條 特許權ハ其ノ制限付讓渡ヲ受ケタル者、實施許諾ヲ得タル者又ハ質權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ之ヲ改訂シ又ハ拋棄スルコトヲ得ス

第四十四條 軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナル場合ニ於テハ特許權ハ之ヲ制限シ又ハ政府ニ於テ之ヲ收用シ、特許ハ之ヲ取消シ又ハ政府ニ於テ其ノ發明ヲ實施スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ政府ハ相當ノ補償金ヲ特許權者又ハ特許發明ヲ使用若ハ實施スルノ權利ヲ有スル者ニ支給ス

第四十五條 先取特權又ハ質權ハ本法ニ依リ受クヘキ補償金其ノ他特許權ノ對價又ハ特許發明ノ使用若ハ實施ニ對シテ受クヘキ金錢若ハ金錢以外ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第四十六條 特許權ノ收用アリタルトキハ其ノ特許發明ニ關スル特許權以外ノ權利ハ消滅ス

第四十七條 正當ノ理由ナクシテ特許權發生後三年以上其ノ發明ヲ帝國内ニ於テ適當ニ實施セス又ハ三年以上其ノ實施ヲ中止シタル場合ニ於テハ特許局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四十八條 權利確認ノ査定若ハ之ニ對スル審決確定シ又ハ判決アリタル爲出願カ特許又ハ許可スヘキモノト決定シタルトキハ其ノ牴觸スル發明ニ係ル特許ハ之ヲ無効トス

第四十九條 特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 特許カ第一條乃至第三條、第六條、第九條、第十條第二項又ハ第二十七條ノ規定ニ反シタルトキ

二 特許カ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シテ與ヘラレタルトキ

三 特許權ノ分割シタル部分カ特許出願ノ當時獨立シテ新規ノ發明ヲ爲ササルトキ又ハ特許權ノ改訂若ハ分割カ第四十二條第三項ノ規定ニ反シタルトキ

四 發明ノ明細書ニ其ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ記載セス又ハ其ノ實施ヲ不能若ハ困難ナラシムル爲必要ナラサル事項ヲ故意ニ記載シタルトキ

特許又ハ許可ハ特許權消滅後ト雖之ヲ無効ト爲スコトヲ妨ケス

第五十條 特許無効トナリタルトキハ特許權ハ初メヨリ存在セサルモノ

ト看做ス  
特許ノ取消アリタルトキハ特許權ハ以後其ノ效力ヲ失フ

第五十一條 特許權ハ相續人ナキトキハ消滅ス

第五十二條 特許カ取消サレ若ハ無効トナリ又ハ特許權カ拋棄ニ依リ消滅シタル場合ニ於テ追加特許權アルトキハ其ノ追加特許權ハ獨立ノ特許權ト爲ル

前項ノ場合ニ於テ獨立ノ特許權ト爲リタルモノニ係ル追加特許權アルトキハ其ノ追加特許權ハ獨立ト爲リタル特許權ノ追加特許權ト爲ル

前二項ノ場合ニ於テハ六十日以内ニ變更ノ登録ヲ受クルニ非サレハ第一項ノ特許權又ハ前項ノ追加特許權ハ消滅ス

第三章 登録、特許證、公報、特許標記及特許料

第五十三條 特許局ニ特許原簿ヲ備ヘ特許權及之ヲ目的トスル質權ノ設定、變更、移轉、消滅、處分、制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス

第五十四條 特許スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ特許原簿ニ登録シ特許證ヲ下付ス特許權ノ改訂又ハ分割ヲ許可スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキ亦同シ

第五十五條 特許局ハ特許發明ノ明細書及特許公報ヲ發行シ特許發明及之ニ關スル必要ナル事項ヲ記載スヘシ但シ秘密ヲ要スル特許發明ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 特許權者又ハ特許發明ニ付實施ノ權利ヲ有スル者ハ其ノ特許ニ係ル物ニ特許標記ヲ付スヘシ物ノ性質ニ依リ之ヲ付スルコト能ハサルトキハ其ノ容器、包裝等ニ之ヲ付スヘシ

特許權者ハ特許發明ニ付使用若ハ實施ノ權利ヲ有スル者又ハ第二十九條第一號若ハ第二號ノ應用若ハ實施ヲ爲ス者ニ對シテ特許標記ヲ付スルコトヲ請求スルコトヲ得

特許標記ヲ付スルコトヲ怠リタル爲特許ニ係ル物ナルコトヲ知ラスシテ其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテハ要價ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

前三項ノ規定ハ特許ニ係ル物ノ一部ヲ分離シテ販賣又ハ擴布スル場合ニ於テ其ノ分離シテ販賣又ハ擴布スル物ニ之ヲ準用ス

第五十七條 特許權ノ登録ヲ受クル者及特許證主ハ特許料トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年分 登録ヲ受クルトキ一時 金二十圓

二 第四年乃至第六年分 毎年 金十圓

三 第七年乃至第九年分 毎年 金十五圓

四 第十年乃至第十二年分 毎年 金二十圓

五 第十三年乃至第十五年分 毎年 金二十五圓

特許權存續期間延長ノ登録ヲ受クル者及其ノ特許證主ハ特許料トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ  
一 第一年乃至第三年分 登録ヲ受クルトキ一時 金百五十圓  
二 第四年乃至第六年分 毎年 金七十圓  
三 第七年乃至第十年分 毎年 金百圓  
追加特許權ノ登録ヲ受クル者ハ追加特許料トシテ登録ヲ受クルトキ每件

一時金十五圓ヲ納付スヘシ  
 特許權存續期間延長ノ場合ニ於テ追加特許權アルトキハ第二項第一號ノ  
 特許料ニ每件金三十圓ヲ加フ  
 第四項ノ規定ハ國ニ屬スル特許權ニ付之ヲ適用セス  
 第五十八條 毎年ノ特許料ハ其ノ翌年分ヲ前納スヘシ但シ數年分ヲ前納ス  
 ルコトヲ妨ケス  
 特許料又ハ追加特許料ヲ納付スヘキ者カ發明者又ハ其ノ相續人ニシテ之  
 ヲ納付スルノ實力ナシト認ムル場合ニ於テハ前條第一項第一號ノ特許料  
 又ハ追加特許料ハ二年以内其ノ納付ヲ猶豫シ又ハ之ヲ減免スルコトヲ得  
 第五十九條 利害關係人ハ特許料又ハ追加特許料ヲ納付スヘキ者ニ代リ之  
 ヲ納付スルコトヲ得

第六十條 既納ノ特許料及追加特許料ハ之ヲ還付セス  
 第六十一條 特許料ノ納付ヲ怠リタルトキハ特許ヲ取消スコトヲ得追加特  
 許料ノ納付ヲ怠リタルトキ其ノ追加特許ニ付亦同シ  
 第四章 審査及再審査  
 第六十二條 特許ノ出願又ハ特許權ノ改訂若ハ分割許可ノ出願アリタルト  
 キハ審査官ヲシテ之ヲ査定セシム  
 前項ノ査定ハ第六十三條ノ場合ヲ除クノ外特許スヘキヤ否又ハ許可スヘ  
 キヤ否ヲ決定ス

第六十三條 審査官ハ出願ニ係ル發明カ他人ノ出願ニ係ル發明又ハ特許發  
 明ト抵觸スト認メタル場合ニ於テハ發明抵觸ノ査定ヲ爲スヘシ但シ特許  
 又ハ許可ヲ拒絕スヘキ他ノ理由アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 第六十四條 發明抵觸ノ査定確定シ又ハ審決アリタルトキハ審査官ヲシテ  
 出願者ノ權利確認ノ査定ヲ爲サシム  
 前項ノ場合ニ於テ特許局長ハ出願者又ハ特許權者ヲシテ權利ニ關スル始  
 末書ヲ差出サシムヘシ  
 前項始末書ノ差出アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ相手方ニ送達シ答辯書  
 ヲ差出サシムヘシ

第七十一條 第二項及第七十六條ノ規定ハ權利確認ノ査定ニ之ヲ準用ス  
 權利確認ノ査定ニ於テハ出願者カ特許又ハ許可ヲ受クヘキ正當權利者ナ  
 リヤ否ヲ決定シ其ノ出願ニ對スル許否ヲ表示スヘシ  
 第六十五條 第六十二條第二項ノ査定又ハ發明抵觸ノ査定ニ不服アル者ハ  
 査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ  
 請求スルコトヲ得  
 再審査ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審査官ヲシテ更ニ之ヲ  
 査定セシム

第六十六條 査定ニハ理由ヲ付スヘシ  
 第六十七條 審査又ハ再審査ニ關シ必要ナル場合ニ於テハ職權ヲ以テ又ハ  
 當事者ノ申立ニ依リ證據調ヲ爲スコトヲ得  
 證據調ニ關シテハ民事訴訟法中證據調ニ關スル規定ヲ準用ス但シ特許局  
 ニ於テ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ  
 得ス  
 證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所其ノ他區裁判所ノ事務ヲ

行フ官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得  
 第六十八條 本法ニ規定スルモノノ外審査又ハ再審査ニ關スル書類ニシテ  
 送達スヘキモノ及送達ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第五章 審判、抗告審判及出訴  
 第六十九條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外  
 左ニ掲クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得  
 一 第四十九條ノ規定ニ依ル特許又ハ許可ノ無効  
 二 特許權ノ範圍ノ確認  
 審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限り之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官  
 ハ前項第二號ノ審判及第三條、第九條又ハ第十條第二項ノ規定ニ反スト  
 ノ理由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第七十二條 審判ハ審判官三人ノ合議ニ依リ之ヲ行フ  
 合議ハ過半數ニ依リ之ヲ決ス  
 審判長ハ審判官中ノ上席者ヲ以テ之ニ充ツ  
 審判長ハ各審判事件ニ關スル事務ヲ掌理ス  
 第七十三條 審判官ハ各審判事件ニ付之ヲ指定ス  
 審判官中審判ニ干與スルニ故障アル者アルトキハ其ノ指定ヲ解キ更ニ他  
 ノ審判官ヲ以テ之ヲ補充ス  
 第七十四條 審判官ハ左ノ場合ニ於テ審判ニ干與スルコトヲ得ス  
 一 當事者カ自己又ハ親族ナルトキ  
 二 當事者ノ法定代理人若ハ保佐人タルトキ又ハ法定代理人若ハ保佐人  
 タリシトキ  
 三 其ノ事件ニ付當事者ノ代理人タルトキ又ハ代理人タリシトキ  
 四 其ノ事件ニ付利害關係ヲ有スルトキ  
 五 其ノ事件ニ付審査官トシテ審査ニ干與シタルトキ  
 第七十五條 審判長ハ職權ヲ以テ又ハ當事者ノ申立ニ依リ口頭審理ヲ爲ス  
 コトヲ得  
 口頭審理ハ之ヲ公開ス但シ公益又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ此ノ限  
 ニ在ラス  
 第七十六條 請求人又ハ被請求人カ法定若ハ指定ノ期間内ニ手續ヲ爲サス  
 又ハ期日ニ出頭セサルトキハ審判長ハ審判ヲ進行スルコトヲ得  
 第七十七條 審判ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ハ其ノ審判ノ終結スル迄  
 請求人又ハ被請求人ノ一方ヲ補助スル爲スル者ハ其ノ審判ニ參加スルコトヲ得  
 參加人ハ其ノ參加ノ時ニ於ケル審判ノ程度ヲ妨ケサル限リ審判ニ關スル  
 總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ補助スル當事者ノ行爲ト抵觸スルモ



第四百條 本法施行前受ケタル特許ニ關スル第三年分迄ノ特許料ニ付テハ舊法ノ規定ニ依ル

前項ノ特許料ヲ除クノ外本法施行前二年分以上前納シタル特許料ニ付テハ其ノ未タ納期ニ至ラサルモノニ限リ本法ニ依リ納付スヘキ特許料ニ比シテ殘餘アルトキハ順次之ヲ後年分ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ還付ス

第五條 舊法ニ依リ利害關係人以外ノ者ノ爲シタル審判ノ請求ハ本法施行ノ爲メ其ノ效力ヲ失フコトナシ

意匠法改正法律案

意匠法

第一條 物品ニ應用スヘキ形狀、模樣、色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ナル工業的意匠ヲ案出シタル者ハ本法ニ依リ意匠ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條 職務上又ハ契約上爲シタル意匠ニ付登録ヲ受クルノ權利ハ勤務規程又ハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ職務ヲ執行セシムル者又ハ使用者ニ屬ス

第三條 本法ニ於テ新規ト稱スルハ左ノ各號ニ該當セサルモノヲ謂フ  
一 登録出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用非ラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二 登録出願前容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

三 同一物品ニ應用スヘキ意匠ニシテ自己ノ登録意匠ノミニ類似スルモノハ新規ト看做ス

第四條 左ニ掲グル意匠ニ付テハ之ヲ登録セズ  
一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀又ハ模樣ヲ有スルモノ  
二 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

第五條 同一物品ニ應用スヘキ同一又ハ類似ノ意匠ニ付各別ニ登録ヲ受クルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタルモノニ限リ登録ス其ノ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登録セズ

第六條 意匠ノ登録ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

登録ヲ受クルノ權利ノ承繼ハ登録出願前ニ在リテハ登録ヲ出願シ登録出願後ニ在リテハ出願人ノ名義變更ヲ届出ルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ對抗スルコトヲ得ス

第七條 實用新案ノ登録ノ出願ヲ爲シ登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ實用新案ニ係ル意匠ニ付登録ヲ出願シタルトキハ實用新案ノ登録ヲ出願シタル日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

第八條 意匠權ハ登録ニ依リ發生ス  
意匠權者ハ登録出願ノ際指定シタル物品ニ付業トシテ其ノ意匠ヲ應用シ又ハ之ヲ應用シタル物品ヲ販賣若ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス  
同一物品ニ應用スヘキ互ニ類似スル意匠ノ意匠權ハ最先ニ發生シタル意匠權ト合體スルモノトス  
同一又ハ類似ノ意匠ニ關シテハ意匠權ハ其ノ出願前ノ出願ニ係ル實用新案權ニ依リ制限ヲ受クルモノトス

第九條 意匠權ノ存續期間ハ十年トス  
第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ原權利ノ範圍内ニ於テ登録意匠ヲ實施スルノ權利ヲ有ス

一 同一又ハ類似ノ意匠ニ對スル二以上ノ登録中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於テ善意ナル原意匠權者  
二 前號ノ原意匠權ニ付善意ニ實施ノ權利ヲ得テ登録ヲ受ケタル者  
特許法第三十六條及第三十七條ノ規定ハ前項ノ權利ニ之ヲ準用ス

第十一條 意匠權ハ其ノ意匠ヲ應用スル物品ニ依リ分割シテ之ヲ移轉スルコトヲ得  
第十二條 意匠ノ登録カ第一條、第二條、第四條、第五條、第六條第二項又ハ第二十三條ノ規定ニ反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ登録カ登録ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シ爲シタルモノナルトキ亦同

第十三條 登録スヘシト査定アリタルトキハ意匠原簿ニ登録シ意匠登録證ヲ下付ス  
第十四條 登録スヘシト査定ヲ受ケタル者又ハ意匠登録證主ハ意匠料トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年分 登録ヲ受クルトキ一時 金三圓  
二 第四年乃至第十年分 毎年 金二圓

同一物品ニ應用スヘキ互ニ類似スル意匠ニ付テハ其ノ内ノ一ハ前項ノ意匠料ヲ、其ノ他ハ各意匠ニ付一時金一圓ヲ納付スヘシ

第十五條 意匠ノ登録ヲ出願スル者ハ各意匠ニ付命令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ意匠ヲ應用スヘキ物品ヲ指定スヘシ

第十六條 意匠登録ノ出願ヲ爲ス者ハ出願中及登録後三年以内其ノ意匠ヲ秘密ニセムコトヲ請求スルコトヲ得  
第十七條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ査定セシム  
第十八條 審査官ハ第四條、第五條、第六條第二項及第二十三條ノ規定ニ依リ出願ニ係ル意匠カ登録スヘキモノナリヤ否ニ付査定スヘシ但シ第一條

又ハ第二條ノ規定ニ該當セサルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ理由トシテ  
 登錄拒絶ノ査定ヲ爲スヘシ

第十九條 登錄拒絶ノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得  
 前項ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審査官ヲ更ニ之ヲ査定セシム

前條但書ニ依ル査定ニ不服アル者再審査ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ  
 審査官ハ其ノ理由ニ付テモ亦審査スヘシ

第二十條 審判ハ左ニ掲クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得  
 一 第十二條ノ規定ニ依ル登錄ノ無効

二 意匠權ノ範圍ノ確認  
 審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限り之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官ハ前項第二號ノ審判及第二條、第五條又ハ第六條第二項ノ規定ニ反スト  
 ノ理由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 審判ノ審決ニ不服アル者ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條 特許法第八條、第十二條乃至第十五條、第十六條第一項、第十七條乃至第二十五條、第二十九條、第三十二條、第三十三條、第四十條、第四十一條、第四十三條、第四十五條、第四十九條第二項、第五十條、第五十一條、第五十三條、第五十六條、第五十八條第一項、第五十九條乃至第六十一條、第六十六條乃至第六十八條、第七十條乃至第七十九條、第八十二條、第八十三條第一項、第八十四條、第八十五條及第八十七條乃至第九十一條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

第二十三條 外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外意匠權又ハ意匠ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得

第二十四條 他人ノ登錄意匠ト同一若ハ類似ノ意匠ヲ業トシテ同一ノ物品ニ應用シタル者又ハ其ノ物品ヲ業トシテ販賣若ハ擴布シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ登錄意匠ト同一若ハ類似ノ意匠ヲ應用シタル同一ノ物品ヲ業トシテ輸入シタル者又ハ其ノ物品ヲ業トシテ販賣若ハ擴布シタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ所爲ヲ以テ意匠ノ登錄ヲ受ケタル者

二 登錄意匠ヲ應用セサル物品又ハ其ノ容器、包裝等ニ意匠登錄ノ標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ其ノ物品ヲ販賣若ハ擴布シタル者

三 登錄意匠ヲ應用セサル物品ヲ販賣又ハ擴布スル爲廣告、看板、引札等

ニ其ノ物品カ登錄意匠ヲ應用シタルモノナルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第二十六條 第二十四條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決言渡前被害者ヨリ請求アリタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付スル言渡ヲ爲スヘシ

損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被害者ハ其ノ差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第二十八條 特許局ヨリ證人、鑑定人、又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 特許辯理士ニ非シテ意匠ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則  
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條ノ規定ハ本法施行前無効ト爲リタル意匠ノ登錄ニ關シテハ之ヲ適用セス

特許法第九十九條、第一百二條第二項、第一百五條及第一百六條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

商標法改正法律案

第一條 自己ノ生産、製造、加工、選擇、證明、取扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲商標ヲ專用セムトスル者ハ本法ニ依リ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

登錄ヲ受クルコトヲ得ヘキ商標ハ文字、圖形、記號又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ス

商標ハ之ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登錄ヲ受クルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル商標ニ付テハ之ヲ登錄セス

一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ

二 國旗、軍旗、勳章、褒章、記章若ハ外國ノ國旗ト同一又ハ類似ノモノ

三 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

四 同一商品ニ慣用スル標章ト同一又ハ類似ノモノ

五 世人ノ周知スル他人ノ標章ト同一又ハ類似ニシテ同一商品ニ使用スルモノ

六 白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「シエネヴァ」十字ノ稱號若ハ文字ト同一又ハ類似ノモノ

七 政府、道、府縣若ハ政府ノ認可ヲ得タルモノノ開設スル博覽會、共進會又ハ外國ニ於ケル官設博覽會若ハ官許ノ萬國博覽會ノ賞牌、賞狀

若ハ褒狀ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ但シ其ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ヲ受領シタル者カ其ノ商標ノ一部トシテ之ヲ使用セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス

八 他人ノ肖像、氏名、商號又ハ法人若ハ組合ノ名稱ヲ有スルモノ但シ其ノ承諾ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

九 登錄失効後一年ヲ經過セサル他人ノ商標ト同一又ハ類似ノモノ但シ其ノ登錄失効前一年以上使用セザリシ商標ト同一又ハ類似ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 同一商品ニ使用スヘキ同一又ハ類似ノ商標ニ付各別ニ登錄ヲ受クルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタルモノニ限リ登錄ス其ノ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登錄セス

第四條 商標ノ登錄出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リ移轉スルモノトス

第五條 商標權ハ登錄ニ依リ發生ス

第六條 商標權ノ效力ハ普通ニ使用セララルル方法ヲ以テ自己ノ氏名、商號、法人若ハ組合ノ名稱ヲ表示シ又ハ其ノ商品ノ普通名稱、產地、品位、品質、效能、用途、製法、時期、數量、形狀若ハ價格ヲ表示スルモノニ及ハス但シ商標登錄後惡意ヲ以テ同一ノ氏名、商號、法人若ハ組合ノ名稱ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 商標權ノ存續期間ハ二十年トス

第八條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リ移轉スルモノトス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ特許局長ハ職權ヲ以テ又ハ利害關係人ノ請求ニ依リ商標ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

一 商標權者其ノ登錄商標ニ世人ヲ欺瞞スヘキ附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキ

二 商標權者正當ノ事故ナクシテ帝國内ニ於テ登錄後其ノ商標ヲ使用セシメテ一年ヲ經過シ又ハ其ノ使用中止シテ三年ヲ經過シタルトキ

三 商標權ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ依ルモノヲ除クノ外一

年以内ニ商標權移轉ノ登錄ヲ請求セザルトキ外國ノ登錄商標トシテ登錄ヲ受ケタルモノニ付テハ前項第二號ノ規定ヲ適用セス

第十條 商標權者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ商標權ハ消滅スルモノトス

第十一條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄カ第一條乃至第三條、第四條第二項又ハ第二十二條ノ規定ニ反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十二條 登錄スヘシトノ査定又ハ審決アリタルトキハ之ヲ商標原簿ニ登錄シ商標登録證ヲ下付ス

第十三條 特許局ハ商標公報ヲ發行シ登錄商標及之ニ關スル必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第十四條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル際每件商標料金二十圓ヲ、聯合商標ニ在リテハ每件金十圓ヲ納付スヘシ

第十五條 商標ノ登錄ヲ出願スル者ハ各商標ニ付命令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スヘシ

第十六條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ査定セシム

第十七條 登錄スヘカラストノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ更ニ審査ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 審判ハ左ニ掲グル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一 商標權ノ範圍ノ確認  
二 審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官ハ前項第二號ノ審判及第二條第八號及第九號、第三條又ハ第四條第二項ノ規定ニ反ストノ理由ニ依リ前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十二條 外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外商標權又ハ之ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

商標ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 他人ノ登錄商標若ハ之ヲ付シタル容器、包裝等ヲ同一商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

二 他人ノ登錄商標若ハ之ヲ付シタル容器、包裝等ヲ同一商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ交付、販賣シ又ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

三 同一商品ニ使用シ又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ他人ノ登錄商標ヲ偽造又ハ模造シタル者

四 同一商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ偽造若ハ模造ノ商標ヲ交付、販賣シ又ハ之ヲ同一商品ニ使用シタル者

五 偽造若ハ模造ノ商標ヲ使用シタル同一商品ヲ交付、販賣シ又ハ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

六 他人ノ登錄商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ使用シタル商品ヲ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ輸入シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

七 他人ノ登錄商標ヲ偽造又ハ模造スル爲其ノ用具ヲ製作、交付、販賣若ハ所持スル者

八 同一商品ニ關シ他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノモノヲ營業ニ用井ル廣告、看板、引札、物價表又ハ其ノ他ノ取引書類ニ使用シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ所爲ヲ以テ商標ノ登錄ヲ受ケタル者

二 登錄ヲ受ケサル商標ニ登錄標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シ之ヲ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付若ハ販賣シ又ハ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

三 登錄ヲ受ケスシテ登錄標記又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル商標ヲ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者

第二十五條 第二十三條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決言渡前被害者ヨリ請求アリタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付スル言渡ヲ爲スヘシ

損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被害者ハ其ノ差額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十七條 證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 特許辯理士ニ非スシテ商標ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

舊法ニ依リ登錄ヲ受ケタル商標ニ付テハ其ノ存續期間内ハ本法第二條第六號乃至第八號ノ規定ヲ適用セス第九條ニ定ムル期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

特許法第九十九條、第百五條及第百六條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

實用新案法改正法律案

實用新案法

第一條 物品ニ關シ其ノ形狀、構造又ハ組合ハセニ係リ實用アル新規ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ本法ニ依リ實用新案ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第二條 職務上又ハ契約上爲シタル實用新案ニ付登錄ヲ受クルノ權利ハ勤務規程又ハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ職務ヲ執行セシムル者又ハ使用者ニ屬ス

職務ノ執行又ハ契約ノ履行ニ依ル勤務中公務員又ハ被用者ノ爲シタル考案ニシテ職務上又ハ契約上爲シタルモノニ非サル實用新案ニ付案出前豫メ登錄ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權ヲ讓渡セシムルコトヲ定メタル勤務規程又ハ契約ノ條項ハ之ヲ無効トス

第三條 本法ニ於テ新規ト稱スルハ左ノ各號ニ該當セサルモノヲ謂フ

一 登錄出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ帝國内ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用井ラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二 登錄出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

第四條 左ニ掲クル實用新案ニ付テハ之ヲ登錄セス

一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀ヲ有スルモノ

二 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ

第五條 同一又ハ類似ノ實用新案ニ付各別ニ登錄ヲ受クルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタルモノニ限リ登錄ス其ノ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登錄セス

第六條 實用新案ノ登錄ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

登錄ヲ受クルノ權利ノ承繼ハ登錄出願前ニ在リテハ登錄ヲ出願シ登錄出願後ニ在リテハ出願人ノ名義變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ對抗スルコトヲ得ス

第七條 實用新案ノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第八條 實用新案ノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第九條 實用新案ノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第七條 發明特許又ハ意匠登録ノ出願ヲ爲シ特許又ハ登録スヘカラストノ  
査定ヲ受ケタル者其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ  
其ノ發明又ハ意匠ニ係ル實用新案ニ付登録ヲ出願シタルトキハ發明特許  
又ハ意匠登録ヲ出願シタル日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

第八條 實用新案權ハ登録ニ依リ發生ス  
實用新案權者ハ其ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ  
擴布スルノ權利ヲ專有ス  
同一又ハ類似ノ考案ニ關シテハ實用新案權ハ其ノ出願前ノ出願ニ係ル特  
許權又ハ意匠權ニ依リ制限ヲ受ケルモノトス

第九條 實用新案權ノ存續期間ハ三年トス  
前項ノ期間ハ三年間之ヲ延長スルコトヲ得  
第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ原權利ノ範圍内ニ於テ登録實用新案  
ヲ實施スルノ權利ヲ有ス  
一 同一又ハ類似ノ實用新案ニ對スル二以上ノ登録中其ノ一カ無効ト爲  
リタル場合ニ於テ善意ナル原實用新案權者

二 前號ノ原實用新案權ニ付善意ニ實施ノ權利ヲ得テ登録ヲ受ケタル者  
特許法第三十六條及第三十七條ノ規定ハ前項ノ權利ニ之ヲ準用ス  
第十一條 實用新案ノ登録カ第一條、第二條、第四條、第五條、第六條第二  
項又ハ第二十一條ノ規定ニ反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘ  
シ登録カ登録ヲ受ケルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シ爲シタルモノナルト  
キ亦同シ

第十二條 登録スヘシトノ査定アリタルトキ又ハ實用新案權存續期間延長  
ノ請求アリタルトキハ實用新案原簿ニ登録シ實用新案登録證ヲ下付ス  
第十三條 特許局ハ實用新案公報ヲ發行シ登録實用新案及之ニ關スル必要  
ナル事項ヲ記載スヘシ但シ秘密ヲ要スル實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
第十四條 登録スヘシトノ査定ヲ受ケタル者ハ其ノ登録ヲ受ケル際每件登  
録料金十五圓ヲ納付スヘシ

實用新案權存續期間ノ延長ヲ請求スル者ハ每件登録料金三十圓ヲ納付ス  
ヘシ  
第十五條 實用新案登録ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ査定セシ  
ム

第十六條 審査官ハ第四條、第五條、第六條第二項及第二十一條ノ規定ニ依  
リ出願ニ係ル實用新案カ登録スヘキモノナルヤ否ニ付査定スヘシ但シ第  
一條又ハ第二條ノ規定ニ該當セサルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ理由ト  
シテ登録拒絶ノ査定ヲ爲スヘシ

第十七條 登録拒絶ノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三  
十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得  
前項ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審査官ヲシテ更ニ之ヲ查  
定セシム

前條但書ニ依ル査定ニ不服アル者再審査ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ  
審査官ハ其ノ理由ニ付テモ亦審査スヘシ  
第十八條 審判ハ左ニ掲クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得  
一 第十一條ノ規定ニ依ル登録ノ無効

二 實用新案權ノ範圍ノ確認  
審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限り之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官  
ハ前項第二號ノ審判及第二條、第五條又ハ第六條第二項ノ規定ニ反スト  
ノ理由ニ依リ前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス  
審査官ノ請求ニ依リ審判ニ關シテハ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得  
第十九條 審判ノ審決ニ不服アル者ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日  
以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 特許法第八條、第十一條第一項及第三項、第十二條乃至第十五  
條、第十六條第一項、第十七條乃至第二十六條、第二十九條、第三十二條、  
第三十三條、第四十條、第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十  
九條第二項、第五十條、第五十一條、第五十三條、第五十六條、第五十七條、  
第五十八條、第六十條、第六十六條乃至第六十八條、第七十條乃至第七十九條、  
第八十二條、第八十三條第一項及第八十四條乃至第九十一條ノ規定ハ實  
用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第二十一條 外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又  
ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外實用新案權又ハ實用新案ニ關ス  
ル權利ヲ享有スルコトヲ得ス  
實用新案ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ  
規定ニ從フ

第二十二條 實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ業トシテ偽造、模造シタル  
者又ハ偽造品、模造品ヲ業トシテ販賣、擴布若ハ使用シタル者ハ三年以下  
ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ト同一又ハ類似ノモノヲ業トシテ輸入シ  
タル者又ハ其ノ物品ヲ業トシテ販賣、擴布若ハ使用シタル者ハ罰前項ニ  
同シ

第二十三條 罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス  
前二項ノ罪ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下  
ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ所爲ヲ以テ實用新案ノ登録ヲ受ケタル者  
二 實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品又ハ其ノ容器、包裝等ニ實用新案登  
録ノ標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ其ノ物品ヲ  
販賣若ハ擴布シタル者

三 實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品ヲ販賣又ハ擴布スル爲廣告、看板、引  
札等ニ其ノ物品カ實用新案ノ登録ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハ  
シキ表示ヲ爲シタル者

第二十四條 第二十二條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決言  
渡前被害者ヨリ請求アリタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交  
付スル言渡ヲ爲スヘシ

損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被害者ハ其ノ  
差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得  
第二十五條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局  
又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルト  
キハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第二十六條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 特許辯理士ニ非スシテ實用新案ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第十條ノ規定ハ本法施行前無効トナリタル實用新案ノ登録ニ關シテハ之ヲ適用セス  
特許法第九十九條、第二百二條第二項、第二百五條及百六條ノ規定ハ實用新案ニ關シテ之ヲ適用ス

(政府委員押川則吉君登壇)

○政府委員(押川則吉君) 唯今議題ニ上リマシテ特許法、意匠法、商標法及實用新案法ノ此四ツノ法律ハ大同小異ノ法律デゴザイマシテ、茲ニ一括シテ説明ヲ致シタ  
イト思ヒマス、現行ノ特許法、意匠法及商標法ハ明治二十二年ノ制定デゴザイマシ  
テ、其當時改正條約ノ實施ノ際デゴザイマシテ其必要ニ應ズルメニ明治二十一年ニ  
制定セラレマシタ特許條例、意匠條例、商標條例、此三條例ニ改正ヲ加ヘテゴザイマ  
シテ、急場ノ要ニ應ジタノデゴザイマス、其後時勢ノ進運ニ伴ヒマシテ、改正補修ヲ要ス  
ル事項ガ少クゴザイマセヌ、又實用新案法ハ明治二十八年ノ制定デゴザイマシテ其實施  
ノ跡ニ依ッテ考ヘテ見マスルニ、不便ヲ感ズルコトガ少クゴザイマセヌ、ソレ故ニ今同特  
許法外ニ法ヲ改正ト共ニ是モ改正ヲ致スト云フ必要ガアル譯デゴザイマス、其改正ノ要  
點ハ第一ニ工業所有權者ノ權利ヲ確實ニスル、併セテ其負擔ヲ輕減スルト云フコトガ  
第一ノ要點デゴザイマス、第二ノ要點ハ私權ノ享有ト云フコトガ社會公衆ノ利益ヲ調  
和スルト云フコトガ第二ノ要點デゴザイマス、第三ノ要點ハ出願請求ノ手續ヲ簡易ニ致  
シマシテ真正ノ考案者及商工業者ノ保護ヲ勉メルト同時ニ不正競争ノ弊害ヲ防遏ス  
ルト云フコトガ第二ノ要點デゴザイマス、其他種々ノ改正ノ事項ハゴザイマスケレドモ、重要  
ト思ヒマスル事柄ハ是等今申上ケマシタ二ツノ事項デゴザイマス、ドウゾ此法律案モ御協  
贊ヲ願ヒタイト考ヘマス

○恆松隆慶君 本案ハ一括シテ議長指名二十七名ノ委員ニ付託アラントラ望ミ  
マス

○議長(長谷場純孝君) 本案即チ議事日程第五、第七、第九、第十一ヲ一括シテ  
議長指名二十七名ノ委員ニ付託スルコト云フ動議アリマスカ

○恆松隆慶君 サウデゴザイマス

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○議長(長谷場純孝君) 今恆松君動議ノ如ク、日程第五、第七、第九、第十一ハ  
一括シテ、議長指名二十七名ノ同一委員ニ付託スルコトニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ、其通り決シマス、日程第十三、  
十四、十五ハ同一委員ニ付託サレマシタノデ、併セテ委員長ヨリ報告ヲ致シマス、委員  
長漆昌巖君

第十三 國債ノ利子所得稅免除ニ關スル法 第一讀會ノ續(委員長)

(漆昌巖君登壇)

○漆昌巖君 唯今議題ニ上ッテ居リマス國債ノ利子所得稅免除ニ關スル法律案外  
二件ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、此案ハ案トシテハ至ッテ簡單ナル案デ  
ゴザイマスガ、其及ボス處ハ重大ナル問題トシテ現政府ノ財政計畫ノ隨ニタル即チ公債  
政略ニ關スル案デゴザイマスカラ、委員會モ七回開キマシテ國務大臣モ二度バカリ出  
席致シマシテ、委員諸君モ勉勵ニナリマシテ十分ノ質問モゴザイマシタ、而シテ此所得稅  
ヲ免除スルコト云フコトニ贊成ノ趣意ト政府ノ申分トハ即チ公債ノ聲價ヲ増進シテ海外  
ノ信用ヲ増シ、財政ヲ鞏固ニスルコト云フコトガ一大眼目ニナッテ居ルノデゴザイマス、免  
角是ニハ多數ノ諸君ガ御同意ニナッタノデアリマスガ(大聲ニ願ヒマス)ト呼フ者アリ)又  
多少反對ノ論者モ二三ゴザイマシタ、ソレハ少數意見ト云フ程デハゴザイマセヌガ、二三  
ゴザイマシタ、過去九年間ノ實際ニ依リマス、公債ノ所得稅ト云フモノガ、一箇年ニ二三  
萬圓ホドアリマス、又買收鐵道ニ今後交附スル公債ニ依ッテ政府ガ得ヤウトスルコト  
所得稅ガ買收鐵道ノ總額四億八千萬圓ノ内帝室ノ御所有公法人ノ所有、是ガ三千  
萬圓ホドアリマス、差引四億五千萬圓ホドニナル、サウスルツレガ四十五萬圓ホドノ所得稅  
ニナル、ソレヲ併セテ六十八萬圓ホドニナリマス、政府ガ此六十八萬圓ノ財源ヲ失フト云  
フコトハ甚ダ面白クナイガ、併ナガラ此財源ヲ失ッテモ此公債ノ聲價ヲ増進シテ財政ヲ鞏固  
ニスルコト云フ目的ガ大ナルモノデアラカラ、此財源ヲ失フト云フコトハ躊躇セヌト云フコトガ  
本案ノ趣意デアリマス、所デ反對論者ハ公債ノ利子所得稅ヲ免除スルハ富豪ヲ保護  
スルモノデ、甚ダ面白クナイト云フノガ其趣意デゴザイマス、所ガ此案ヲ採決致シマストキハ  
三名ニ對スル九名ノ多數ヲ以テ原案ノ通りニ可決致シマシタノデゴザイマス、ソレカラ日  
程ノ第十四、之ヲ御報告致シマスガ、登錄國債ノ擔保充用ニ關スル法律案、此案ハ  
全會一致ヲ以テ一人ノ異議ナク可決致シマシタカラ總テノ委員會ノ經過ハ速記録デ  
十分ニ御覽ヲ願ヒマス、日程十五、政府ニ對スル保證金其他ノ擔保ニ供シタル國債ノ  
ノ買入銷却ニ關スル法律案、此案ハ多少反對モアツタシテゴザイマス、是ニ贊成ノ諸君  
ノ大體ハ政府ガ既ニ勅令ヲ以テ總テ擔保保證金ニ取ルトコロノ國債ノ債權額ヲ取ル  
ト云フコトガ定ラテ居ル、即チ擔保流レノ場合ニ於テ減債基金——整理基金ヲ以テ百  
圓ノモノヲ百圓ヲ買入銷却シタイト云フノガ政府ノ案デゴザイマス、然ルニ反對ノ御方ハ  
是ハ少數意見ガ出テ居リマスガ、此法律ヲ成立スルト是カラハ、公債ノ時價ト債權トハ  
何レノトキデモ一割ト極メテ課デハナイガ、免ニ角九十圓内外ノ公債ヲ以テ百圓ノ擔保  
ニ入レテ擔保ヲ流サウトスル、サウスルト茲ニ一割カラノ利益ヲ見ルコトガアルカラシテ、此法  
律ガ成立ツト好商ヲシテ益、恩澤ニ浴セシムル弊害ガ生ズルカラ此案ハ同意スルコトハ  
出來ヌト云フノガ反對論者ノ之ガ大體ノ趣意デゴザイマス、デ此案ヲ採決スルニ當リマ  
シテ四人ニ對スル六人デ原案ハ可決致シマシテゴザイマス、併ナガラ少數意見ガ出テ居  
リマスカラ左様御承知ヲ願ヒマス、以上三案トモ結局原案ニ決シマシテゴザイマス、此段  
御報告致シマス

○議長(長谷場純孝君) 討論ト採決ハ十三、十四、十五各、別々ニ致シマス、而シ  
テ此日程ノ第十五ニ對シテハ少數者ノ意見ガ委員會カラ出テ居リマス、仍テ此少數意  
見ハ第十五ノ日程ノ場合ニ於テ御述べニナル方ガ便宜ヲラウト思ヒマスカラ其通り取計  
ヒマス、先ア日程第十三、國債ノ利子所得稅免除ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キ  
マス、高木正年君

○高木正年君 例ニ依リマシテ病氣ヲスカラ襟ヲ巻イテ居リマス、唯今報告ニナリマシ  
タ委員長ノ報告ニ對シテハ反對ノ意思ヲ表示セバナラヌノデアリマス、此問題ハ金額  
ノ上ヨリ申シマスルト昨年ニ於テハ僅ニ二十三萬圓、將來ニ於テハ所謂鐵道買収公債  
ガ公債トナシテ民間ニ下渡サル、トキニ於テ七十萬圓乃至九十萬圓ノ間ニ國庫ノ收入  
ヲ減ズルノデアルト云フノガ、政府ノ言フ所デアリマス、金額ノ上テハ餘リ多額ノ損失ヲ  
ハナイヤウデアリマスガ、此案ニ付テ政府ガ極力本會ヲ通過センコトヲ努メラル、點ニ  
付テモ頗ル此問題ガ重要視セラレ、ト云フコトハ明瞭デアル、有體ニ申シマスレバ、此法  
案ハ柱内閣ノ公債政略ノ實體ト申シテモ差支ガナイノデアリマス、先ツ政府ガ何ニ依  
テ此案ヲ重要視スルカ、又此案ヲ必要トスル條件ガ何デアルカト云フト、唯今委員長モ  
申サレタヤウデアリマス、第一ハ國債ニ關スル所得稅ヲ免除スル、從來免除公債ト免除  
セラレナイ公債トノ二種類アルガ、之ヲ整理シテ此所得稅ヲ免除スルハ公債整理ノ上ヨ  
リ必要トモアル、公債價格増進ノタメニモ必要デアル、今一ツハ此公債ヲ外國ニ流出ス  
ルニ付テハ從來ノ經驗ニ依リテ公債利子ニ所得稅ガ掛ルモノト掛ラヌモノトノ間ニ於テ  
外國人ノ好ヲ異ニスルガ故ニ、所得稅ヲ免除スルガ、即チ外資ノ輸入ノ一ノ捷徑デア  
ト、斯様ニ政府ハ明言シテ居ル、所ガ此政府ノ云フ所ガ果シテ此公債利子ヲ免除ス  
ルニ價値アリヤ否ヤト云フコトヲ研究セバナラヌノデアリマス、何ガ故ニ私ハ特ニ立ッ  
テ反對セバナラヌカ、國民ハ之ニ依リテ何故ニ反對セバナラヌカト申シマスルト、二元  
來此公債ノ利子ニ對シテ所得稅ヲ免除セラレテ居ル從來ノ公債ナルモノハ如何ナ  
ル種類デアルカト云ヘバ、戰時應急ノ場合ニ國民ガ己ノ財囊ヲ空クシテ國家ノタメ  
ニ其公債ノ將來如何ナルベキヤ否ヤヲ慮ルノ違ナク、唯義務ノ觀念ニ依リテ應ジテ、  
特殊ノ公債ニ對シテ特例ガ與ヘラレアルノデアリマス、若シ一般ノ公債ニ此所得  
稅ヲ免除スルトキニ於テハ、此特權ヲ得タル國債所有者ハ一方ニ於テハ、此特權ヲ  
シテ他ニ分ツト同様デアツテ、此間ニ於テ價格ノ上ニ多少ノ特典ヲ奪ハル、ト云フ  
ノモ事實ニ於テ間違ナイコトデアリマス、今一ツハ此公債利子所得稅免除ガ一般ノ  
財界ニ如何ナル影響ヲ及ボスカ、政府ハ謂ヘラク、公債ノ價格増進スレバ從ッテ一般  
ノ株券ノ價ノ上ニ於テ善影響ヲ及ボスノデアル、ソレ故ニ決シテ公債所有者ヲ曲庇スル  
ニアラズシテ一般ノ財界ニ利スル處甚ダ大ナリトハ政府ノ聲ヲ大ニシテ言フ處デアリマス、  
然ルニ先ツ狹キ範圍ニ公債其物ト同種類ナ所謂有價證券的ノモノニ付テ考ヘテ見テモ  
此公債ト免除セラレル公債ト、公債ノ價格ガ若シ上ルトスレバ、從ッテ從來アルトコロノ  
地方ニ於ケル府縣債、市町村債ノ如キモノガ從來ニ於テスラモ國債ニ對シテハ餘程ノ利  
増ヲシナケレバ募集ガ出來ズ、借替ノ出來ナイニ殊ニ國庫債券、國庫ノ所謂債券ニ  
付テハ特ニ斯様ヲ保護シ與ヘテ居ル同時ニ、一方ニ此保護キトコロノ所謂府縣債  
ノ如キモノ、從ッテ其以下ニ在ルトコロノ市町村債ノ如キモノモ一般ニ其影響ヲ受クベ  
キハ自然ノ道理デアルト云ハネバナラヌノデアリマス、此案ハ若シ我國ノ經濟界ガ非  
常ニ金利ガ高クナリテ公債ガドソソ下落スルトキデアツタナラバ、或ハ時ニ必要ガアルカモ  
知レヌノデアリマス、今ヤ金融ハ緩慢トナリ、預金ノ利率ハ五分以下ニ降ラントスルトキ  
ニ於テ、今日ノ公債ノ利回リト云フモノハ五分五厘以上ニ回テ居ルノデアリマス、之ニ加  
フルニ更ニ所得稅免除ヲ行ヘバ丁度五分利付即チ額面百圓ノ公債ニ於テ一厘ノ利ヲ  
増スト同ゴトニナル、公債ニ對スル所得稅ハ千分ノ二十デゴザイマスカラ、五圓ニ對シテ  
十錢ノ所得稅ヲ拂フタノモ拂ハザル即チ五圓ニ對シテ十錢ノ増打歩ヲ與ヘルト同一デア

リマスカラ、一厘ノ利率ヲ増スト同ゴトニナル、タメテスラ公債ニ向ッテ總テノ貨幣ガ流込  
マントスルトキニ於テ公債ノミニ斯様ヲ保護シ與ヘルトキニ於テハ、一般ノ有價證券ノ上  
ニ付テ必ヤ惡影響ヲ及ボスト云フコトハ火ヲ賭ルヨリモ明カナ事實デアリマス、殊ニ政府  
ガ言フ公債ノ利子ニ對スル所得稅ヲ免除スレバ外國人ハ從來ノ如キ選リ好ミヲシナイ  
デ、是等ノ公債モ好ミシテ海外ニ流出スルコトガ出來ルト言フノハ、是ハ事實ヲ誣ヒタルコ  
ト、言ハネバナラヌノデアリマス、外國人ノ所有スルトコロノ公債ハ決シテ非常ノ場合ニ募  
集シタ公債ノミナラス、其他ノ公債ニ在テ所得稅ヲ賦課セラレ、トコロノ公債モ外國ニ  
在ルトコロノ銀行ニ於テ倫敦、紐育、或ハ巴里等ノ如キ、日本銀行ノ代理店、若クハ  
正金銀行ノ支店ノアルトコロニ於テハ何レモ此利ヲ買入銷却ヲ爲シ居ルタメニ實際  
ニ於テ外國人ノ手ニ公債券ガ渡ルト同時ニ此利子ニ對シテハ所得稅ヲ免除セラレテ居  
ルト云フノハ實際デアリマス、此所得稅ヲ免除スルガタメニ公債ノ價格ノ暴騰スル、是ガ  
國ノ利益デアルト云フガ、曩ニ申シマシタ如ク若シ五厘ニ當ルトコロノ公債ニ對シテ其  
一厘ノ利増ヲ加フレバワレダケノ値打ノ上ルノハ當リマヘデアル、是ハ公債價格ノ増加ト云  
フコトニアラズシテ公債ニ對スル打歩ノ増スルガ其價格ノ上ルト云フコト、我邦ノ信用ガ  
是ダケ増加セラレタリトハ言フコトハ出來ヌノデアリマス、若シ今日ト云フ公債ノ五分アルモ  
若シ五厘上ゲテ之ガタメニ今日ノ公債ガ十數圓ノ價ガ上ツタト云フハ、是レ公債ノ利  
率ヲ増シタガタメニ上ツタルモノニシテ、公債其物ノ信用ヲ高メタ、メニ公債ノ價格ノ暴騰  
シタトハ言フコトノ出來ナイト同一ノ事實デアリマス、斯様ニ考來リマスレバ公債利子所  
得稅免除ト云フ法案ハ少シモ値打ガ無、唯徒ラニ國民ノ負擔ノ上ニ付テ八十萬圓  
ナリ、七十萬圓ナリノ金ヲ損シテ、一方ノ公債所有者ヲ曲庇スルコト云フノガ、本案ノ實  
體ト云ハネバナラヌノデアリマス、柱内閣ノ公債政略ト云フモノハ斯様ニ淺薄ナル、淺  
薄ナル、殆ド常識ヲ失シタルトコロノ公債政略デアルカト段々考ヘテ見マスルト、元來今ノ  
政府ノ公債政略ナルモノハ殆ド矛盾齟齬或ル點ニ於テハ全ク墮落セリト考ヘネバナラヌ  
點ガ多クアルノデアリマス、ソレハ何デアルカト云フト、私ハ殊ニ茲ニ研究スル必要ハ何デ  
アルカト謂ハ、私共國家ノ信用ヲ高ルルコト云フ點ニ付テ其希望ヲ持ツデアリマセウガ、私  
口現内閣ニ讓ラナイノデアリマス、國ノ經濟ノタメニ何人モ此希望ヲ持ツデアリマセウガ、私  
共ノ本來ノ考ヲ申シタナラバ、我邦ノ信用ヲ高メ隨テ公債價格ヲ増加スルト云フコト  
ハ斯ノ如キ小策ニアラズ、斯ノ如キ偏頗ナル保護ニアラズシテ、其根本ニ在リト云フコト  
ヲ考ヘテ居ルノデス、然ルニ柱内閣ノ公債政略ナルモノハ唯今申スガ如ク矛盾齟齬墮  
落ト云フガ如キ、總テニ最モ忌ムベキ狀態ヲ具ヘテ居ルカラ、ソレ故ニ斯ノ如キ極小策  
ナリトモ一時ノ便法ヲ以テ公債ノ價格ヲ維持セネバ、柱内閣ノ公債政略ガ實際ニ於テ  
通用シナイコトニナツタト云フコトハ頗ル悲ムベキコトデアリマス、何故矛盾齟齬ト謂フカ  
ト云ハ、政府ハ會内閣ヲ組織スルニ方テ公債ト云フ公債價還ニ付テハ務メテ抽籤  
ヲ以テ爲スベシ、從來ノ如ク未募集公債ヲ歲入ニ入レテ以テ財政ヲ彌縫スルガ如キ策ハ  
決シテ採ルベカラズト云フコトヲ明言シタノデアル、是ニ於テカ一般ノ財界ハ頗ル人意ヲ  
強ウシテ自然ニ公債ノ價格ヲ増加スルト同時ニ、他ノ經濟界ニモ最モ好キ所ノ反響ヲ  
與ヘタノデアツタ、然ルニ議會開ク前後ニ於テ政府ノ此明言ハ或ハ當分ト云ヒ、或ハ公  
債ノ募レナイガタメニ募ラナイノデアルト云フガ如キ、政府ノ言フ處ハ其事實ニ於テハ全  
然崩レテ參ツタト云フコトハ公債政略其物ノ最モ近キ間ノ歴史デアリマス、殊ニ甚シキハ  
未募集公債ハ歲入ニ組入レナイト明言シナガラ、政府ガ本年出シタトコロ、即チ四十二  
年度ノ豫算ニ大藏省雜入ノ處ニ於テ八百萬圓ノ所謂未募集公債ニ屬スベキモノヲ賣  
拂テ之ヲ歲入ニ入レテ居ルト云フコトハ、寧ロ公債政略ノ矛盾ト謂ハシヨリハ公債政

略ノ墮落ナリト私ハ明言スルニ憚ラヌデアリマス斯ノ如ク其根本ニ於テ誤リ、斯ノ如ク  
 財政ノ基礎ニ於テ鞏固ナラザルニ於テハ僅ニ此公債ノ利率ヲ少シバカリ免シタカト云フ  
 テモ、我邦ノ信用ハ之ニ依リテ恢復スルモノナシ、私共ハソレヨリ寧ロ政府ハ眞實誠、  
 國ノ財政ヲ改革シ産業ヲ振興シテ以テ徐ロ我國ノ財政ノ基礎ヲ固ウスル方カ、此公債  
 利子所得稅免除法案ヨリハ頗ル適當ナリト信ズルデアリマス、政府ハ動モスレバ國  
 家ハ裕ナラズト云フガ、此裕ナラザルトキニ於テハ八十萬、七十萬ノ國民ノ負擔ヲ增加ス  
 ルガ如キ案ヲ出スハ、政府者自身ニ說クトコロト全ク言葉ヲ異ニシテ居ルデアリマス、  
 何故政府ガ理由ナシト謂フカ、教育基金ニ於テ其利子ノ五十萬圓スラモ政府ハ出ス  
 コトヲ惜ムデアリマス、其他少キコトコロノ金額ニ於テ十分我邦ノ實業發達ノ上ニ  
 爲スベキコトヲモ國庫餘裕ナシト云フ言葉ノ下ニ政府ハ始終之ヲ付ケテ居ルデアリ  
 マセヌカ、斯ル狀態ニアリテ獨リ國債所有者而モ此國債ナルモノハ鐵道株券ガ公債  
 トナリ變ルモノデ、其前身ニ於テハ孰レモ所得稅ヲ課セラレテ居ルデアリマス、殊ニ近來  
 外國人ガ鐵道公債ニ目ヲ著ケテ、之ニ付テ多額ノ注文アリト云フコトハ昨年來屢々  
 言ストコロデアリマス、斯様ナ事實デアリマスルカ、此公債ニ對シテ所得稅ヲ免除セズト  
 モ、悠々綽々トシテ我邦ノ財政ヲ鞏固ニシ、之ヲ恢復スル途ハ他ニアルト思フガタメニ、殊  
 ニ此案ニ對シテ反對ノ意思ヲ表示スルデアリマス

○議長(長谷場純孝君) 岩下清周君

(岩下清周君登壇)

○岩下清周君 諸君、私ハ元來公債政策ト云フモノニ非常ニ重キヲ措キマス一人デ  
 ザイマス、隨テ唯今議題ニ上ツテ居リマストコロノ國債利子免除法案ニ付キマシテハ私  
 ハ全然贊成ヲ表スルデアリマス、此案ニ依リマシテ政府ガ國庫ニ失フトコロハ八九十  
 萬圓、百萬圓未滿ト申スコトデゴザイマス、是ハ今日ノ財政ニ於テ甚ダ好マシカラヌコト  
 ハ反對論者ト御同感デゴザイマス、政府ニ於キマシテモ此際百萬圓近イ歳入ヲ失フト云  
 フコトハ、餘程困難ヲ感ゼラレタコトヲ私ハ考ヘマス、併ナカラ苟モ財政ヲ眞面目ニ  
 整理シ、我邦ノ發達ヲ圖ラウトシマスルノニハ、ドウ致シマシテモ、此國債ト云フモノカラ  
 整理ニ掛ラネバナラヌデアリマス、元來此一國ノ信用、一國ノ殖産興業ノ發達ノ程  
 度、或ハ金利ノ高下ト云フモノハ何ニ依リテ見ルカト言ヒマス、公債ニ依リテ見ルヨリ外  
 仕方ガナイデアリマス、ソレ故ニ國債ナルモノハ一國ノ信用ヲ代表スルモノデアアル、一  
 國ノ富ノ標準トナルベキモノデアアル、ソレ故ニ國債ノ廉價ノ如何ナルコトヲシテモ廉價ノ金ヲ  
 借リルコトモ出來ナイ、殖産工業ヲ發達サセルコトモ出來ナイデアリマス、ソレカラ此  
 政府ノ説明ニ依リマス、單ニ國債ノ聲價ヲ維持スルニアルト云フガケノコトデ、其他ヲ  
 言ハレマセヌガ、私共が見マストハ始メテ政府ガ此財政ノ困難ニ陷ツテ吾々ガ十年以  
 來唱ヘ來ツタコトコロノ覺ラレテ此案ガ出タラウト私共ハ推測ヲ致シマスデアリマス、  
 イマス、一體唯今反對論者モ國債カラ稅ヲ取ルト云フコトハ當リ前ノコトノヤウニ御考  
 ヤウデゴザイマスガ、私共ノ考ヘハ國債カラ稅ヲ取ルト云フコトガ其事ガ非常識ナ事柄ト  
 思フデアリマス(「ノウク」)「ノウク」ト仰シヤル御方モアリマスガ、私ノ知ツテ居ル限  
 リ世界各國何レノ國ニ於テモ自分ノ國債カラ稅ヲ取ルヤウナ非常識ナコトヲ遺ツテ居ル  
 國ハアリマセヌデアリマス(「アリマス」)ト呼フ者アリアルナラバ例ヲ舉ゲテ御覽ナサイ、  
 ソシテモハナイデアアル(「ナクテモ宜シイ」ト呼フ者アリ)ソレデ、此稅ヲ廢スルト云フコトハ  
 獨リ國債ノ聲價ヲ維持スルノミデハナイデアアル、日本人ガ非常識ナコトヲシテ居タノガ  
 常識ニ立歸タト云フコトヲ世間ニ知ラセルデアアル(「ノウク」)「マルデ政府委員」ト  
 呼フ者アリ)政府ガ僕ノ說ヲ採用シタノガ——唯今軍事公債ニハ特典ガ與ヘテアルト

云フ反對論者ノ御說デアツタガ、是ハ吾々ガ實際ニ稅ナドヲ御取リニナルト云フト公債  
 ハ高ク賣レマセヌゾト云フコトヲ忠告シタデアアル、ソレデ若シテ今時ニ所得稅ヲ掛ケタ公  
 債ヲ發行シタラバアノ時出來マシタ値段ヨリモ尙廉ク出來タデアリマス、諸君ノ御  
 參考マデニ各國ガドレ程此公債ト云フモノヲ保護シ、——人為的ニ保護シテ居ルカト云  
 フコトニ付テ、私ノ知ツテ居ル例ヲ少シ申上ゲタラバ反對論者モ十分ニ御分リニナルヤウ  
 思ヒマス(「分ツテモ反對スル」ト呼フ者アリ)最モ國家トシテ最モ財政鞏固ナル國ハ何處  
 デアリマセウカ、申スマデモナク北米合衆國ト私ハ思ウテ居ル、其國デハ公債ヲドウ致シ  
 マスカ、所得稅ナドハ無論取リマセヌゾト、此國デハ銀行ヲ立テルニハ必ズ公債ヲ持  
 セルデアリマス、而シテ此公債ニ對シテハ現今デハ百圓ノ公債ヲ持テ行ケバ百圓ノ紙  
 幣ヲ發行シテ與レルデアリマス、而シテ其他貯金銀行——是ハ御承知ノ通り州々ニ  
 依ツテ違ヒマスガ、若シ投資法ヲ指定シタ場合ニハ必ズ國債ヲ持ツコトガ法律ニ極  
 テ居リマス、ソレカラ信託會社ノ受託金、是ハ皆公債ニ投資セネバナラヌデアリマス、  
 其他アラユル方法ヲ以テ此國債ヲ保護シテ居リマス、ソレハドウ云フコトカト申シマス、御  
 承知ノ通亞米利加ハ新開國デアツテ非常ニ金利ガ高カッタデアアル、最初ハ日本ト同ジコト  
 ガアツタデアアル、五朱、六朱ト云フ高利ノ國債ヲ募ツタ時代モアツタデアリマス、所  
 公債政策ト云フコト十分力ヲ入レマシテ、サウシテ此海外ヨリ——即チ亞米利加申セバ  
 歐羅巴ヨリ廉價ノ金ヲ呼ンダデアリマス、ソレガ今日ノ亞米利加ノ盛大ヲ致シテ居ル所  
 以デアアルト私ハ思ウテ居リマス、又英吉利ニ至リマシテモ(「伊太利ノ例ハ如何デス」ト呼  
 フ者アリ)伊太利デモ稅ヲ課シテ居リマセヌ(「居リマス」ト呼フ者アリ)居リマセヌ、所得  
 稅ハ課シテ居リマセヌ、公債ニ稅ヲ課シテ居ル處ハアリマシテモ、ソレハ公債ニ利息ノ  
 アルト云フ處ニハアリマセヌ、サウ云フ處ハアリマセヌ(「英吉利ハ如何」ト呼フ者アリ)英  
 國ハ申告稅デゴザイマシテ直接ニ公債カラ稅ハ取ツテ居リマセヌデアリマス左様ナ次  
 第デ各國何レトモ此公債ト云フモノハ人為的ニ十分ニ保護シテサウシテ此國ノ利息ヲ  
 廉クスルト云フコトニ盡力ヲ致シテ居リマスデアリマス、諸君ハ殖産工業ヲ發達セシ  
 メヤウトカ、鐵道ヲ架ケヤウトカ、種々御注交ガアリマスガ、日本ノ國債ガ五朱ノ利息  
 ヲ取ツテ尙額面以下デアル限リ、如何ニ諸君ガ熱心ニ之ヲ希望サレテモ出來ルコトデハ  
 ナイデアリマス(「拍手起ル」)ドウシテモ此國債ハ飽マデ保護シ、飽マデ人為的ニ保護シ  
 イ保護シテ、之ヲ額面以上ニ爲シ、而シテ或ル時機ニ於テハ今日ノ五分ノ公債ヲ四分  
 ナリ若クハ三分五厘ナリニ整理スルト云フ時代ガ來ナケレバ、到底列強ノ間ニ立ツテ戰  
 フコトハ出來ナイデアリマス、ソレデ私ハ此案ニハ全然贊成ヲ表シマスデアリマス、  
 尙終リニ一言申シマスガ、殖産工業トカ、或ハ國富ヲ増進スルトカ云フコトヲ希望ナサル  
 御方ナラバ、必ズ此案ニ贊成ヲナサラウト思フ、又ナサラケレバナラヌデアアル、若シ  
 此案ニ贊成ナサラヌ方デアラバ殆ド人民ノ代表者タル資格ハナイモノト私ハ斷言  
 致シマス

○石橋爲之助君登壇

(石橋爲之助君登壇)

○石橋爲之助君 諸君、只今ハ桂内閣ノ財政上ノ御師匠サンデアリマス、岩下清周  
 君カラ段々ト御說教ヲ承リマシタ(「ソシテ馬鹿ナコトヲ言フ」ト呼フ者アリ)併ナカラ本  
 問題ハ如何ナルコトヲ議スルデアリマスカ、即チ國債ノ利子所得稅ヲ課スルヤ否ヤト  
 云フ問題デアリマス、即チ其問題ハ公債論ノ領分ト云フヨリモ、寧ロ租稅論ノ領分デ  
 アリマス、一昨日ノ本議場ニ於キマシテ或ル議員ノ御議論中ニ、天下何レノ租稅ガ惡  
 稅ナラザルモアランヤト云フ意味ノ話ヲ承ハリマシタガ、是ハ大ナル誤リデアリマス、所得  
 稅ト申シマスルモノハ租稅トシテハ善良ナル租稅デアリマス、殊ニ所得稅中第二種ノ所得

税ハ最モ善良ナル租税デアリマス、即チ第一種第二種ハ申告税デアリマス故ニ、問々  
 虚偽ヲ其間ニ挾ムコトノ出来ル餘地モアリマスルカナレドモ、第二種ノ所得税ニ至ラハ  
 眞正直ニ其所得ヲ露出シテ居ルデアリマス、尙此第二種ノ公債社債ノ利子ト云フモ  
 ノハ如何ナル人ガ負擔スルデアルカト云ハバ、中等以上ノ國民ガ負擔スルデアリマス、  
 サウシテ其税額ガドノ位ノ負擔アルカト云ハバ、極メテ輕微ノ負擔デアリマス、  
 テ、額面百圓ノ五分利付公債ニ對スル一年ノ負擔ガ僅ニ十錢デアリマス、斯ノ如キ性  
 質ヲ持ッテ居ルコト此第二種ノ所得税デアリマス故ニ、是ハ即チ租税ノ原則カラ  
 申シマスナラバ最モ其目的ニ適ッテ居ルコト善良ナル租税デアリマス、然ルニ其善良ナ  
 ルトコロノ租税ヲ廢シテ、一方ニハ自ラ働イテ儲ケタトコロノ所得ニハ税ヲ課シテモ、遊惰  
 ノ民ガ徒食シテサウシテ得ルコトコノ今ノ公債ノ利子ト云フヤウナ所得ニ之ヲ免稅スル  
 云フ理由ハ毫モナイデアリマス(ヒヤク)政府ハ彼ノ天下ニ驚々トシテ叫バレテ居リマ  
 スルトコロノ三種ノ惡税ヲ存シテモ尙比較的善良ナル本稅ヲ廢セシムルコト云フハ  
 實ニ冠履轉倒ノ甚シキモノデアリマス(拍手起ル)此問題ハ動モスレバ二十萬圓、若クハ  
 七八十萬圓ノ小問題デアアルカノ如ク言ハレマスケレドモ、決シテ左様ナ小問題デアアリ  
 マセズ、現在ハ二十萬圓デアアルカモ知レナイ、或ハ鐵道公債ガ發行セラレタナラバ七八  
 十萬圓ニ上ルカモ知レナイ、併ナガラソレナクニ止ルモノデアナイ此法律ガ存スル限リ未來  
 永劫國債ノ利子ニハ所得税ハ掛カラヌコトニナリマスカラ、非常ナル國家ノ歲入ヲ損ス  
 ル譯デアリマス、是等ハ即チ租稅論ノ原則ヨリシテ此國債ノ利子所得税ヲ免ズルコトノ  
 不可ナル理由デアリマス、次ニ第二ノ反對理由ヲ致シマシテ、私ハ現政府ノ財政策  
 ト根本的ニ意見ヲ異ニシテ居リマスカラ、其點カラ反對致シマシテ、私ハ現政府ノ財政策  
 公債ノ値上ト云フコト一點張リデアリマス、ソレダケヲ以テ財政整理ノ能事終レリト  
 考ヘテ居ルデアリマス、抑ハ公債ガ今日ノ如ク下落シタル原因ハ何所ニ存スルカ、此  
 公債ノ下落シタルノ引上ゲンガタメニイロクノ人爲ノ手段ヲ取ラントシテ居ル  
 一ハ五千萬圓以上ニ此償還額ヲ殖ヤサント云フヤウナ計畫モナシ、又區々タル小刀細  
 工ヲ以テ此様ナ案ヲ提出スルニ至ッタルデアリマスルガ、公債下落ノ原因ハサウ云フ處  
 ニアラズ、又サウ云フ方法ヲ以テ公債ノ價格ヲ眞ニ上ゲルコト云フコトハ出來ナイデアリ  
 マス、原因ハ如何ナル點ニアッタカト云フナラバ、是マデ政府ガ此公債ニ對シテ正直ニ抽籤  
 償還ノ途ヲ取ラナカッタノ大原因デアリマス、政府ハ此三千万圓ト云フコトノ資金  
 ヲ以テ、此公債ノ相場ガ廉イトキニ買ヒ、高イトキニ賣リ、政府自身ガ一種ノ「スベクレ  
 シヨ」ヲ行ヒテ居ルデアリマス、ソレガ即チ此公債ノ價格ヲ段々下落セシメタ所以デア  
 リマス、故ニ若シ之ヲ五千万圓以上トナシマシテモ此昔カラノ仕來リ——昔カラデハナイガ、  
 此過去ノ仕來リヲ以テ繼續スルト云フヤウナコトデアッタナラバ、如何ニ二千万圓ヲ增加  
 シテモ何等ノ效ヲ奏スルモノデアナイ、況ヤ區々タル此利子ノ所得税ヲ免ズル位ヲ以テ此  
 公債ノ價格ヲ引上ゲルコト云フコトハ到底出來ナイデアリマス、然ラバ如何ニスレバ此公  
 債ノ價格ヲ引上ゲルコトが出來ルカト云フナラバ、勿論公債ノ價格ノ上ボルコトヲ希望ス  
 ルノハ日本國民一人トシテ異論ノナイトコロデアリマス、如何ニシテ引上ゲルコトが出來  
 カト云フノガ問題ノ分ル、處デアアル、吾輩ノ信ズルコトハ、此救済策ノ積極的ノ方法ヲ  
 執ラナケレバナラズ、即チ民力ノ充實ト云フコトヲ圖ラナケレバナラズ、此日本國ノ信用ヲ  
 高メルト云フコトヲ根本カラ築キ上ゲナケレバ到底此公債ノ信用ヲ維持スルコトハ出來  
 ナイデアリマス(拍手起ル)國債ハ必シモ多キヲ憂ヘマセズ、若シ國債ノ少キガ其國ノ信  
 用ガ高イデアルト云フナラバ、世界ニ暹羅國ノ外ハアリマセズ、暹羅國ハ千九百五十年ト七  
 年ト僅ニ七千万圓程ノ外債ヲ募ッタノミテ大外債ト云フモノハ其他ニハアリマセズ、併

ナガラ彼ノ暹羅國ノ信用ノ程度如何ト云フコトヲ御考ヘニナレバ分リマス、必シモ國債ハ多  
 キヲ憂ヘマセズ、其國債ヲ消化シ得ラレバケノ國民ノ實力ガアレバソレ宜イデアリマ  
 ス、故ニ國民ノ實力ヲ増進スルコトヲ積極的ノ方針カラ考ヘマスナラバ、今茲ニ三千万  
 圓ノ償還金ヲ五千万圓ニ殖ヤス代リニ、其二千万圓ヲ以テ惡税ノ改廢ニ充テラナラバ、  
 確カニ民力ハソレニ依ッテ大ニ増進スルコトが出來ルデアリマス、區々タル本案ノ如キハ  
 一時ノ人氣取リデアアル、唯之ニ依ッテ一時此法案ガ若シ通過スルナラバ神經過敏ノ株  
 式會社ハ或ハ相場ガ騰ボルカモ知リマセズ、併ナガラソレハ一時ノ現象デアリマス、ソレ  
 ニ依ッテ益スルトコロノモノハ株屋銀行家ノミデアッテ我國民ハ却テ迷惑ヲ感ズルデアリ  
 マス(拍手起ル)又「ノウク」ト呼フ者アリ)以上ノ理由ニ依ッテ吾輩ハ斷乎トシテ此  
 法案ニ反對スルデアリマス

○議長(長谷場純孝君) 野田卯太郎君

(野田卯太郎君登壇)

(「モウヨセ」ト呼フ者アリ)

○野田卯太郎君 簡單ニ述ベマス、唯今子右橋君カラ沼ヤト御議論ガアリマシタガ要用  
 ノ處ダケ私ハ述ベテ、諸君ノ贊成ヲ求メマス、ト云フモノハ一體其御承知デアラウガ、我國  
 ニ於テハ公債ト云フモノヲ人民ガ賞ハナイ風ガアル、何ダカ借金證文ヲ買フヤウニアッテ  
 吾輩ガ少々金ヲ持ッテ居ルコト新シク出來ルコト會社ハ大抵失敗スルケレドモ、其株  
 券ガ何ダカ斯ウ心持ガ宜イト云フ風ガアル、論ヨリ證據、此度ハ戰爭ニ付テ渡シタトコ  
 ロノ一億五千万圓餘ノ公債ハ人民ガ保ツテヤラウト思ッテ居ル所ガ、案外ニモ賣ッテシ  
 マツ、ソレヲ賣ッテドウスルカト云フコトヲ見ルト、吾マハ親シク民間ニ居ル所見レバマス、  
 多クハ地所ヲ買フ、ソレヲ戰爭前マデハ私ノ地方ナドハ二三百圓位ノ價ノ地所ガ戰後  
 即チ公債ヲ撒布セラレタ後五百圓ニナツタ、此地所ノ上ゲルノモ宜イデス、此地所ノ價ガ  
 上ゲルノモ宜イガ、此地所ガ二百圓デアッテモ五百圓デアッテモ、ヤハリ取レシコシカ取  
 レナイ、米デモ麥デモサウダ、是モ餘リ價格ヲ上ゲ過ギレバ偏頗ニ其災ガ行ク、ト云フモノ  
 ハ小作米ガ上ゲル、此事ハ吾マハ好マナイトコロデアリマス、ソレデハ此公債ト云フモノガ無ケレ  
 バ宜イケレドモ、我國ニハ殘念ナトコトハ諸君ト共ニ協贊シタ戰時ノ公債、其他鐵道ノ  
 公債澤山ナ公債ガ出來タ、出來タ以上ハ之ヲ能ク按排フセネバ、唯今ノ申スヤウニ地  
 所ガ上リ過ギテ小作米ガ上ゲテ小民ニ災ヲ及ボス、ソレヲ經濟ノコトニ種々様々ノ變化ヲ  
 來シテ面白クナイ現象ヲ來タス、ソレヲ現内閣ガ標榜シテ居ル公債云々是ニ悉ク贊成モ  
 シマセヌガ、第一其公債ヲマア優遇スルガ宜カラウト思フ、公債優遇ハ即チ運用テス、之  
 ニ掛ケルベキ所得税ヲ免除シテ之ヲ優遇シテ一般ノ國民ニ此公債ヲ持タセル習慣ヲ作  
 ルガ諸君ト共ニ宜カラウト思フ、又此公債ノタメニ商賣上ニモ其偏頗ノ現象ガアル、私  
 國ニ歸ッテ——此度往ッテ來マシタガ、地方ニハ公債ガ餘リナイデス、地方ニ公債ガナイノ  
 ミナラズ地方ニハ持ッテ氣ガナイ(笑聲起ル)マア一時聞イテ呉レ(「謹聽々々」ト呼フ者アリ  
 拍手起ル)ソレ諸君ガ常ニ論ゼラレ、トコロノ貯金獎勵是モ關係ガアル、貯金獎勵ノ如  
 キハ政府ハ何ヲスル、何シテ獎勵スル、或者ハ彼ヲ以テ公債ヲ買ハシガタメニ政府ハ民  
 間ノ金ヲ取上ゲルコト云フマデ此處論ヲ諸君モアラウト思フ、彼ノ貯金ト云フヤウナモ  
 ノハ勿論惡イコトデアリカサセテモ宜シイ、宜シイガ、彼ハ預金ト云フモノニナッテ即チ其  
 預金政略ニナッテ財政ヲ亂ス、一ノ伏魔殿ト云フモノ宜カラウト思フ、ソレ貯金ノ代リニ  
 此公債ヲ其預金ノ人民ニ買ハシタナラバ是ハナカク、ヨイモノニナル話ダ(笑聲起ル)ト  
 云フモノハ地方ノ銀行ノ如キハ預金ヲ預ケ金ヲ預ケ、片端カラ其土地ノヤツカ又借ルト云フ譯ニ  
 ナッテ居ル、一方デ預ケ一方デ借ッテ居ル、ソレデ公債ヲ持ッテ往ッテ銀行カラ金ヲ借ッテ、

税ハ最モ善良ナル租税デアリマス、即チ第一種第二種ハ申告税デアリマス故ニ、問々  
 虚偽ヲ其間ニ挾ムコトノ出来ル餘地モアリマスルカナレドモ、第二種ノ所得税ニ至ラハ  
 眞正直ニ其所得ヲ露出シテ居ルデアリマス、尙此第二種ノ公債社債ノ利子ト云フモ  
 ノハ如何ナル人ガ負擔スルデアルカト云ハバ、中等以上ノ國民ガ負擔スルデアリマス、  
 サウシテ其税額ガドノ位ノ負擔アルカト云ハバ、極メテ輕微ノ負擔デアリマス、  
 テ、額面百圓ノ五分利付公債ニ對スル一年ノ負擔ガ僅ニ十錢デアリマス、斯ノ如キ性  
 質ヲ持ッテ居ルコト此第二種ノ所得税デアリマス故ニ、是ハ即チ租税ノ原則カラ  
 申シマスナラバ最モ其目的ニ適ッテ居ルコト善良ナル租税デアリマス、然ルニ其善良ナ  
 ルトコロノ租税ヲ廢シテ、一方ニハ自ラ働イテ儲ケタトコロノ所得ニハ税ヲ課シテモ、遊惰  
 ノ民ガ徒食シテサウシテ得ルコトコノ今ノ公債ノ利子ト云フヤウナ所得ニ之ヲ免稅スル  
 云フ理由ハ毫モナイデアリマス(ヒヤク)政府ハ彼ノ天下ニ驚々トシテ叫バレテ居リマ  
 スルトコロノ三種ノ惡税ヲ存シテモ尙比較的善良ナル本稅ヲ廢セシムルコト云フハ  
 實ニ冠履轉倒ノ甚シキモノデアリマス(拍手起ル)此問題ハ動モスレバ二十萬圓、若クハ  
 七八十萬圓ノ小問題デアアルカノ如ク言ハレマスケレドモ、決シテ左様ナ小問題デアアリ  
 マセズ、現在ハ二十萬圓デアアルカモ知レナイ、或ハ鐵道公債ガ發行セラレタナラバ七八  
 十萬圓ニ上ルカモ知レナイ、併ナガラソレナクニ止ルモノデアナイ此法律ガ存スル限リ未來  
 永劫國債ノ利子ニハ所得税ハ掛カラヌコトニナリマスカラ、非常ナル國家ノ歲入ヲ損ス  
 ル譯デアリマス、是等ハ即チ租稅論ノ原則ヨリシテ此國債ノ利子所得税ヲ免ズルコトノ  
 不可ナル理由デアリマス、次ニ第二ノ反對理由ヲ致シマシテ、私ハ現政府ノ財政策  
 ト根本的ニ意見ヲ異ニシテ居リマスカラ、其點カラ反對致シマシテ、私ハ現政府ノ財政策  
 公債ノ値上ト云フコト一點張リデアリマス、ソレダケヲ以テ財政整理ノ能事終レリト  
 考ヘテ居ルデアリマス、抑ハ公債ガ今日ノ如ク下落シタル原因ハ何所ニ存スルカ、此  
 公債ノ下落シタルノ引上ゲンガタメニイロクノ人爲ノ手段ヲ取ラントシテ居ル  
 一ハ五千萬圓以上ニ此償還額ヲ殖ヤサント云フヤウナ計畫モナシ、又區々タル小刀細  
 工ヲ以テ此様ナ案ヲ提出スルニ至ッタルデアリマスルガ、公債下落ノ原因ハサウ云フ處  
 ニアラズ、又サウ云フ方法ヲ以テ公債ノ價格ヲ眞ニ上ゲルコト云フコトハ出來ナイデアリ  
 マス、原因ハ如何ナル點ニアッタカト云フナラバ、是マデ政府ガ此公債ニ對シテ正直ニ抽籤  
 償還ノ途ヲ取ラナカッタノ大原因デアリマス、政府ハ此三千万圓ト云フコトノ資金  
 ヲ以テ、此公債ノ相場ガ廉イトキニ買ヒ、高イトキニ賣リ、政府自身ガ一種ノ「スベクレ  
 シヨ」ヲ行ヒテ居ルデアリマス、ソレガ即チ此公債ノ價格ヲ段々下落セシメタ所以デア  
 リマス、故ニ若シ之ヲ五千万圓以上トナシマシテモ此昔カラノ仕來リ——昔カラデハナイガ、  
 此過去ノ仕來リヲ以テ繼續スルト云フヤウナコトデアッタナラバ、如何ニ二千万圓ヲ增加  
 シテモ何等ノ效ヲ奏スルモノデアナイ、況ヤ區々タル此利子ノ所得税ヲ免ズル位ヲ以テ此  
 公債ノ價格ヲ引上ゲルコト云フコトハ到底出來ナイデアリマス、然ラバ如何ニスレバ此公  
 債ノ價格ヲ引上ゲルコトが出來ルカト云フナラバ、勿論公債ノ價格ノ上ボルコトヲ希望ス  
 ルノハ日本國民一人トシテ異論ノナイトコロデアリマス、如何ニシテ引上ゲルコトが出來  
 カト云フノガ問題ノ分ル、處デアアル、吾輩ノ信ズルコトハ、此救済策ノ積極的ノ方法ヲ  
 執ラナケレバナラズ、即チ民力ノ充實ト云フコトヲ圖ラナケレバナラズ、此日本國ノ信用ヲ  
 高メルト云フコトヲ根本カラ築キ上ゲナケレバ到底此公債ノ信用ヲ維持スルコトハ出來  
 ナイデアリマス(拍手起ル)國債ハ必シモ多キヲ憂ヘマセズ、若シ國債ノ少キガ其國ノ信  
 用ガ高イデアルト云フナラバ、世界ニ暹羅國ノ外ハアリマセズ、暹羅國ハ千九百五十年ト七  
 年ト僅ニ七千万圓程ノ外債ヲ募ッタノミテ大外債ト云フモノハ其他ニハアリマセズ、併

ナガラ彼ノ暹羅國ノ信用ノ程度如何ト云フコトヲ御考ヘニナレバ分リマス、必シモ國債ハ多  
 キヲ憂ヘマセズ、其國債ヲ消化シ得ラレバケノ國民ノ實力ガアレバソレ宜イデアリマ  
 ス、故ニ國民ノ實力ヲ増進スルコトヲ積極的ノ方針カラ考ヘマスナラバ、今茲ニ三千万  
 圓ノ償還金ヲ五千万圓ニ殖ヤス代リニ、其二千万圓ヲ以テ惡税ノ改廢ニ充テラナラバ、  
 確カニ民力ハソレニ依ッテ大ニ増進スルコトが出來ルデアリマス、區々タル本案ノ如キハ  
 一時ノ人氣取リデアアル、唯之ニ依ッテ一時此法案ガ若シ通過スルナラバ神經過敏ノ株  
 式會社ハ或ハ相場ガ騰ボルカモ知リマセズ、併ナガラソレハ一時ノ現象デアリマス、ソレ  
 ニ依ッテ益スルトコロノモノハ株屋銀行家ノミデアッテ我國民ハ却テ迷惑ヲ感ズルデアリ  
 マス(拍手起ル)又「ノウク」ト呼フ者アリ)以上ノ理由ニ依ッテ吾輩ハ斷乎トシテ此  
 法案ニ反對スルデアリマス

○議長(長谷場純孝君) 野田卯太郎君

(野田卯太郎君登壇)

(「モウヨセ」ト呼フ者アリ)

此銀行ハ日本銀行ニ割引スルト地方ノ利ガモチツト下ガル、サウ云フコトハ地方デハ一向行ハレテ居ラス、ソコテ中央ノ經濟界ハ發達シテ居ルケレドモ地方ハ發達シテ居ラス、諸君ト共ニ此富ノ平均ガ偏頗ニナルト云フコトヲ憂ヘテ居ル、然ラバ此公債ヲ地方ノ人民ニ能ク持タセテサウシテ貯金スル金ガアレバ公債ヲ買ウト云フコトヲ此議員ガ皆チツト煽動シタラバ、人民モチツトハ公債ヲ持ツダラウト思フ、ソレハ嘘チヤナイ眞面目デス(能ク分ツテ居ル謹聽々々)ト呼フ、斯ノ如キコトヲシテ而シテ地方ノ經濟ヲ圓滑ナラシメ、而シテ始メテ事業ト云フモノガ廣ク日本ニ行ハレルヤラウト思フ、ソレアルノニ其公債ノ唯七十萬圓カ幾ラカカ免除スルガ惜シトカ、ソナモハ金持ノ所得稅ダト云フカドコソシナ大キナ金持ガアルカ、吾々ハ總テノモノガ此公債ヲ尊重シテ而シテ此公債ヲ運用スルコトニナラナケレバ此公債ト云フモノハ決シテ價ヲ持タヌ(拍手起ル)ソコテ吾々ハ此案ニ贊成シタ所以デス、而シテ(敢テ拓殖會社ノ理事ニナッタ御禮デヤアルマイ)ト呼フ者アリ)ソレテ(笑聲起ル)唯此七十萬圓ノ稅ヲ免ズルカラ是ハ金持ヲ保護スルノチヤノ何シヤト云フケレドモ、尤モ此公債ヲ買フ者ハ五十圓買ウテモ金持ハ金持ダ、連モ金ヲ持タヌ者ガ公債ヲ買フコトハ出來ヌガ(笑聲起ル)此公債ト云フモノヲ廣ク人民ニ持タセル方法ヲ立テナケレバナラス、此案ニ吾々ガ贊成スルコトハ公債優遇國民ヲシテ公債ト云フモノハ買フベキモノデアル、確實ナルモノデアルト云フコトヲ知ラセサヘスレバ此公債ハ上ガル、又經濟界モ圓滑ニナルト云フ譯デス、ドウカ諸君滿場一致ヲ以テ御贊成アラント希望致シマス

○恆松隆慶君 討論終結

(贊成々々)ノ聲起ル

○議長(長谷場純孝君) 討論終結ノ動議が出タ以上ハ先決問題デゴザイマスカラ討論終結ニハ既ニ定規ノ贊成ガアルト認メマスカラ、討論終結ノ動議ニ付テ採決ヲ致シマス、討論終結ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(長谷場純孝君) 多數、討論ハ終結致シマシタ、本案ノ第二讀會ヲ開クヤ百ヤト云フコトニ付テ採決致シマス、其採決ノ方法ニ付テハ既ニ二十七名ノ連署ヲ以テ衆議院規則第二十七條ニ依リ記名投票ヲ以テ採決アラント請フト云フ 請求ガアリマスカラ、即チ之ヲ採用致シマシテ、記名投票ヲ以テ採決致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御注意ニ申シテ置キマス、第二讀會ヲ開クベシト云フ諸君ハ白票ヲ御携ヘニナルヤウ、開クベカラスト云フ諸君ハ青票ヲ御携ヘニナルヤウ御注意ヲ致シマス——閉鎖

(書記氏名ヲ點呼ス)

○議長(長谷場純孝君) 投票漏ハアリマセヌカ——開鎖——開匣

(書記官投票ノ數ヲ計算ス)

○議長(長谷場純孝君) 投票ノ結果ヲ書記官長ヨリ御報告致シマス

(寺田書記官朗讀)

投票總數 一百十三

可トスル者 百五十九

否トスル者 五十四

(拍手起ル)

(參照)

本會ノ二讀會ヲ開クヘシトスル者

- |        |        |        |        |       |         |         |         |         |        |        |         |        |         |        |         |        |         |        |        |       |         |         |         |         |         |        |         |        |       |        |         |        |        |         |        |       |        |        |         |        |         |         |       |        |         |        |        |        |        |        |        |         |         |         |         |        |        |         |        |        |       |        |        |       |         |         |         |        |         |        |        |         |        |        |        |       |        |        |       |        |         |        |         |        |      |        |         |         |       |        |        |         |       |        |        |         |       |         |        |         |        |         |        |         |       |        |        |        |        |         |          |        |        |         |        |        |         |      |         |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |         |        |        |         |          |         |        |        |        |         |         |          |        |        |        |         |       |         |        |         |        |         |         |         |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|-------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|--------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|--------|-------|--------|---------|--------|--------|---------|--------|-------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|-------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|---------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|---------|---------|---------|--------|---------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|---------|--------|---------|--------|------|--------|---------|---------|-------|--------|--------|---------|-------|--------|--------|---------|-------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|-------|--------|--------|--------|--------|---------|----------|--------|--------|---------|--------|--------|---------|------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|---------|----------|---------|--------|--------|--------|---------|---------|----------|--------|--------|--------|---------|-------|---------|--------|---------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|
| 山根 正次君 | 須藤 嘉吉君 | 竹内 正志君 | 紫垣 一雄君 | 木村 良君 | 中野 豐次郎君 | 牧野 平五郎君 | 加治 壽衛吉君 | 豐增 龍次郎君 | 大岡 育造君 | 渡邊 修造君 | 川崎 安之助君 | 福井 準造君 | 木下 吉之丞君 | 山際 敬雄君 | 小澤 愛次郎君 | 日向 輝武君 | 宮古 啓三郎君 | 八木 逸郎君 | 早川 龍介君 | 澤田 寧君 | 佐竹 作太郎君 | 島田 保之助君 | 水品 右衛門君 | 柏原 左源太君 | 阿部 政太郎君 | 三浦 盛徳君 | 駒田 小次郎君 | 伊東 祐賢君 | 向坂 弘君 | 德田 讓甫君 | 中村 啓次郎君 | 原岡 永江君 | 町田 且龍君 | 古野 孫太郎君 | 三浦 覺一君 | 高田 露君 | 武滿 義雄君 | 高本 篤行君 | 阪本 彌一郎君 | 松本 軍治君 | 鈴木 總兵衛君 | 井上 角五郎君 | 川越 進君 | 岩下 清周君 | 村田 虎次郎君 | 森田 俊左君 | 加藤 恆忠君 | 肥田 景之君 | 伊藤 大八君 | 漆川 昌巖君 | 天川 三藏君 | 田中 龜之助君 | 中倉 萬次郎君 | 青柳 信五郎君 | 塚田 啓太郎君 | 東條 良平君 | 濱名 信平君 | 井上 傳作朗君 | 福岡 精一君 | 大橋 頼攪君 | 森 國造君 | 古井 由之君 | 立川 雲平君 | 村上 先君 | 戸狩 權之助君 | 鷺田 十三郎君 | 上出 長次郎君 | 木下 義之君 | 中沼 信一郎君 | 山田 桃作君 | 岩本 晴之君 | 夏井 保四郎君 | 太田 清藏君 | 熊本 壽人君 | 松田 源治君 | 高森 新君 | 柚木 慶二君 | 坂本 元明君 | 井光 輝君 | 松元 剛吉君 | 小野崎 耕夫君 | 山田 珠一君 | 稻茂 登三郎君 | 磯部 保次君 | 星 一君 | 松尾 寅三君 | 富田 幸次郎君 | 小橋 榮太郎君 | 菅原 傳君 | 岡崎 邦輔君 | 澤田 佐助君 | 中村 舜次郎君 | 古森 泰君 | 阪藤 金吉君 | 武藤 信藏君 | 小山田 信藏君 | 根本 正君 | 村井 善四郎君 | 春田 祐清君 | 鈴木 辰次郎君 | 手塚 正次君 | 花村 覺三郎君 | 齋藤 二郎君 | 高橋 嘉太郎君 | 長 晴登君 | 杉田 定一君 | 橋本 次六君 | 恆松 隆慶君 | 串本 康三君 | 河野 郁太郎君 | 大久保 弁太郎君 | 高山 長幸君 | 古賀 庸藏君 | 庄野 金十郎君 | 松田 正久君 | 坂元 英俊君 | 奧田 榮之進君 | 東 武君 | 稻村 辰次郎君 | 白井 哲夫君 | 奥田 柳藏君 | 内野 省吾君 | 木村 敏夫君 | 井上 敏夫君 | 米田 精一君 | 飯田 平吉君 | 石田 和夫君 | 鳩山 金藏君 | 西谷 泰藏君 | 岡田 泰藏君 | 有本 國藏君 | 神戶 松之輔君 | 田邊 熊一君 | 宮内 翁助君 | 佐藤 虎次郎君 | 飯田 新右衛門君 | 小林 庄一郎君 | 築山 和一君 | 清 盛太郎君 | 大野 久次君 | 吉田 虎之助君 | 佐々木 文一君 | 佐々木 鐵太郎君 | 大坂 金助君 | 西澤 定吉君 | 丹尾 頼馬君 | 松田 吉三郎君 | 河上 英君 | 麥田 宰三郎君 | 神前 修三君 | 橋本 久太郎君 | 細川 義昌君 | 藏内 治郎作君 | 野田 卯太郎君 | 有田 源一郎君 | 山岡 國吉君 | 肥後 幸盛君 | 大繩 久雄君 |
|--------|--------|--------|--------|-------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|--------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|--------|-------|--------|---------|--------|--------|---------|--------|-------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|-------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|---------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|---------|---------|---------|--------|---------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|---------|--------|---------|--------|------|--------|---------|---------|-------|--------|--------|---------|-------|--------|--------|---------|-------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|-------|--------|--------|--------|--------|---------|----------|--------|--------|---------|--------|--------|---------|------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|---------|----------|---------|--------|--------|--------|---------|---------|----------|--------|--------|--------|---------|-------|---------|--------|---------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|

本案ノ二讀會ヲ開クヘカラストスル者

犬養 毅君 鈴木久次郎君 齋藤宇一郎君 關 直彦君

竹田 文吉君 關 矢橋太郎君 長場龍太郎君 佐藤 貞雄君

藤代市之輔君 津久居 彦七君 高柳覺太郎君 藤井 善助君

松野祐次郎君 平島 松尾君 石郷岡文吉君 小山内 鐵爾君

國井 庫君 荒谷 桂吉君 添田飛雄太郎君 岡崎 佐次郎君

神保 東作君 福井三郎君 的野 半介君 箕浦 勝人君

武富 時敏君 島田 三郎君 大竹 貫一君 河野 廣中君

高木益太郎君 藏原 惟郭君 三輪 信次郎君 高木 正年君

石橋 爲之助君 梅 原 良君 櫻井 一久君 小寺 謙吉君

佐野 春五君 卜部 喜太郎君 關口 安太郎君 細野 次郎君

尾崎 行雄君 小川 平吉君 鈴木 寅彦君 守屋 此助君

西村 丹治郡君 坂本 金彌君 橋本 太吉君 金尾 稜嚴君

富島 暢夫君 佐々木安五郎君 山口 熊野君 才賀 藤吉君

村松 恆一郎君 加瀬 禮逸君

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ二讀會ヲ開クベシト云フコトニ決シマシタ

○大岡育造君 直チニ二讀會ヲ開キ二讀會ヲ省略シテ可決セラレンコトヲ希望致シマ

ス

○議長(長谷場純孝君) 直チニ二讀會ヲ開クト云フニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ、直チニ二讀會ヲ開キ、議案全

部ヲ議題ニ供シマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

〔異議ナシ〕委員長報告通りト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 大岡君ノ動議ニ讀會ヲ省略シ二讀會ニ於テ委員長ノ報

告通りニ御異議アリマセヌカ

國債ノ利子所得税免除ニ關スル法律案

〔異議ナシ〕御異議ナシト認メマスカラ、其通りニ決シマス、本案ハ是ニ

テ確定

○島田三郎君 此場合ニ國民ノ權利ニ關シテ緊急ナル質問ヲ呈シタイト思ヒマス、幸

ニ總理大臣ガ列席シテ居ラレレニ付テ此場合ニ御許シテ受ケタイ

○議長(長谷場純孝君) 日程ノ第十四、第十五ヲ終ルマデ御待ニナツテハ……

○島田三郎君 總理大臣ノ列席ノ時ヲ便利ト致シマスガ、若シ御許シニナラナケレバ

〔無用々々〕ト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 先ツ日程第十四ニ移リマス

○島田三郎君 唯今ノ請求ハドウナリマシタ、御許シニナラナケレバナラヌト云フコトヲハッ

キリ極リマセヌカ……

○議長(長谷場純孝君) 日程ノ第十四、第十五ヲ終ルマデハ許シマセヌ——日程第

十四、登錄國債ノ擔保充用ニ關スル法律案第一讀會ノ續ヲ開キマス

第十四 登錄國債擔保充用ニ關スル法律案 第一讀會ノ續(委員長)

〔異議ナシ〕又ハ「委員長報告通り」ト呼フ者アリ

○大岡育造君 直チニ二讀會ヲ開キ、讀會ヲ省略シテ可決セラレンコトヲ希望致

シマス、委員長報告通り

○議長(長谷場純孝君) 直チニ二讀會ヲ開クト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ハナシト認メマスカラ其通り決シマス、直チニ二讀會

ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 大岡君ノ動議ニ讀會ヲ省略シ二讀會ニ於テ確定ト云フコ

トニ御異議アリマセヌカ

登錄國債ノ擔保充用ニ關スル法律案

〔異議ナシ〕御異議ハナシト認メマスカラ、本案ハ是ニテ確定致シマシタ、日

程第十五、政府ニ對スル保證金其他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル法律

案第一讀會ノ續ヲ議題ニ致シマス、少數意見者ノ報告ガアリマスカラ、即チ少數意見

者ノ報告ヲ許シマス——守屋此助君

第十五 政府ニ對スル保證金其他ノ擔保ニ

供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長)

〔守屋此助君登壇〕

○守屋此助君 諸君、唯今ノ日程ニナツテ居リマシタル議案ニ付キマシテ委員會ニ於テ

ル少數者ノ意見ヲ御報告ニ及ビマス、少數者ノ意見即チ此案ニ對シテ反對ナリト云フ

ノデアリマス、テ其理由ガ四ツ程ゴザイマス、之ヲ茲ニ簡單ニ要旨ヲ取摘シテ御報告ニ及

ビマス、抑、擔保物ト云フモノヲ其擔保價格ヲ以テ之ヲ買入レルト云フヤウナコトヲス

ルト云フノハ、法律上ノ取除法デアアル、抑、擔保ト云フモノハ、法律上ノ一定ノ定義

ガアル、何ト致スカト云フト擔保物ハ其擔保物ヲ處分スルトキ、時價ニ依ツテ之ヲ處分

シ、之ヲ公賣ノ法ニ處スルト云フ事柄ガ普通ノ原則デアアル、其普通ノ原則ニ取除ヲ設ク

ルト云フノハ特別ナル理由ガナケレバナラナイ、然ルトコロガ政府ガ此度此法律ノ普通

ノ原則ニ反スル取除法ヲ設ケルト云フ事柄ノ理由トシテハ、何ヲ持ツテ來テ居ラレカト調

ベテ見マシレバ、公債保護ト云フ事柄ヲスルガタメニ此法ヲ以テ國債聲價ノ維持増進ヲ

圖ルト、斯ウ云フノデ、國債ノ價ヲ維持シテ並ニ増進スル此目的ノタメニ普通ノ法律ノ原

則ヲ破ツテ特別ノ法律ヲ拵ヘルトスウ云フノデアアル、然ルトコロガ吾々モ此公債ヲ保護シ

公債ヲ整理シスヤウナ事柄ヲスルト云フ事柄ノ熱心ノ程度ニ於テハ、政府ト何ゾ擇ム

トコロハナイ、否ナ以上ノ吾々、熱心ヲ有ツテ居ル、此法律ヲ拵ヘテハ何ゾ料ラン目的ト

方法ト相離斷スル、此法律ヲ拵ヘルガタメニ却テ國債ノ聲價ヲ維持増進スルコトガ出

來ナリト云フコトヲ考ヘルノデゴザイマス、其理由ノ一ト致シテ申シマスルノニハ日本帝國

ノ公債ハ、今ヤ二十一億程アル、今後五億ハカリノ公債ガ出ルトスルト二十七億ニ

ナル、是ダケノ公債ヲ有ツテ居ル此國ガ、僅々タル政府ガ保證ニ取ツタ中ノ公賣處分ニスル

ト云フモノハ擔保物ガ百ノ中一カニシカナイノデアアル、極ク此僅少ナ場合ニシテ市場

ニ出シテ——之ヲ市場ニ出テ公賣ニ出タトキニソレガタメニ日本帝國ノ公債ガ下落スルガ如キ、日本帝國ノ經濟ハ薄弱ナモノニアラズ、又之ヲ公賣ニ處セシテ政府ガ買上テルト云フ事柄ニスル、ソレガタメニ日本帝國ノ公債ノ相場ガ高クナルト云フ、斯ウヤウナ神經過敏ノ帝國ノ經濟ニアラズ、斯ウ云フ事柄ガ一ノ理由デゴザイマス、ソレカラモウ一ツノ理由ハ此公債ヲ今日或ハ五朱利ノ公債ハ今日ハ九十圓シテ居ル、今日ヨリ半年前ハ八十圓、七十八圓マデ下リテ居タ、五朱ノ公債ガ七十八圓ニ下リタトキニハ十二圓ノ開キガアツテ、二十二圓ノ開キガアツテ、今日ハ凡ソ十圓程ノ開キガゴザイマス、之ヲ納メテ公債ヲ保證金ニ納メテ置ク、擔保ニ納メテ置ク、納メタモノガ行政官ノ手都合ニ依リテ——都合ニ依リテ之ヲ公賣ニスルコトガ出來タリ、若クハ價格ヲ以テ買上ケルト云フコトガ出來ルト云フコトニナリテ居レバ、此間ニ此擔保提供者ハ奇利ヲ博スルト云フ事柄ノタメニイロクノ小策ヲ弄シ、此相場ノ開キノ利益ヲスルト云フ事柄ノタメニ脱稅ノ方法ヲ講ズルト云フ、爰ニ思ハベキ手段ヲ講ズルト云フ虞ガアル、左様ナ事柄ヲスル擔保提供者ニ餘地ヲ與ヘナイテモ宜シ、ツマリ百圓ノ公債證書ヲ額面百圓ノ擔保ヲ取ツテ、此公債ガ百五圓若クハ百十圓トナタトキニドウスル、政府ハ百五圓ヲ取ルコトガ出來ナイノハ分明ナ理窟アル、ソレナラバ九十五圓、九十圓、八十五圓、七十五圓ト下ガタトキニハ其時價ヲ以テ擔保品ヲ處分シテ本八二向ツテイツマデモ追徴シテ行ク、是ガ事理ノ分明ナルモノデアラカラ、左様ナ場合ニ納メテ納メテ納メテ納メテ納メテシムルト云フ、不正ノ利ヲ得セシムルト云フ事柄マデモシテ公債ノ相場ヲ、一般ノ公債ヲ維持スルト云フ小策ヲ弄スルニハ及バズ、此小策ノタメニ決シテ日本帝國ノ公債ノ價ガ保チモシナケレバ、公債ノ價值ガ上リモシナイ、是ガ第一ノ理由、第二ノ理由ハ此法律ノ文面ヲ見マスト、政府ニ對スル保證金其他ノ擔保トシテ提供シタ國債ヲ公賣スル場合ニ於テ、國債證券買入償却法ニ依リテ國債ノ最近ノ金額ヲ以テ之ヲ買入レ償却スルコトヲ得ル、斯ウ云フニ得ルデアラカラ、其場合ニ依リテ行政官ノ手心デ右ニテモ左ニテモ出來ル如クニ書イテアル、理由書ニ絕對ニ買上ケルヤウナ理由トナツテ居リマスガ、理由書ト法律ノ明文トノ方ハ違フ、理由書ハ絕對ニ買上ケル必要ガアルト讀メルデス、讀メマスガ併シ法律ハ理由書ガ確定スルノテナイ、法律ノ明文ニ規定スルノデアリマスカラ、此文章ニ依リテ云フト申ナル人ニ向ツテハ行政官ガ九十四、若クハ八十五圓シテ居ルモノヲ百圓トシテ買取ルコトモ出來ル、乙ナル人ニ向ツテハ公賣處分スル時分ニ八十圓ナラ八十圓、九十圓ナラ九十圓ノ時價デ公賣處分スル、其取捨採擇ノ權利ハ一ニ行政官ノ手心ニアル、是ガ法律ノ明文デアル、斯様ナ手心ヲスルト行政官ト擔保物提供者トノ間ニ請託ノ行ハレル虞ガアル風ヲ帝國議會ガ行政官ヲ監督シテ行ク上ニ於テ、法律ニ於テ行政官ガ不都合ヲセバ爲シ得ルコト云フ事柄ヲ法律ニ拵ヘテ置クヨリハ不都合ヲ爲スニ由ラシト云フ法律ヲ拵ヘテ置ク方ガ、諸君ト吾々ガ行政官ヲ監督スル上ニ於テ樂アル、斯ウ云フ理窟ガ第三ノ理由デアス、サウスルト是ニハ斯ウ云フコトヲ言フ人ガアル、左様ナ行政官ノ信シナイト云フ事柄ハ宜クナイカラ、之ヲ信シテレカラ任スガ宜カラウト、行政官ニ任スナドガ宜ケレバ帝國議會ハ監督權ト云フモノヲナクシテモ宜カラウト、又タツタ此間日本製糖會社ノ株券ヲ擔保ニ取ル事柄ヲ自ノ前デシテ居ル、行政官デハナイカ、其行政官ガ今日不法ヲ行フト云フ事柄ヲ自ノ前ニ見テ居ル今日、無論此人ニ向ツテハ百圓若クハ八十圓ヲ買取リ、百五圓若クハ百十圓ヲ乙ニ向ツテ公賣スルト云フ、此權利ヲ授ケテ置クト云フコトハ行政監督ノ權ヲ有ツテ居ル帝國議會ノ體面ニ關スルコトデアル、是ガ大體ノ理由デアゴザイマス、以上取捨採擇申上ケマスレバ公債價格ヲ維持シ、信用ヲ保ツ上ニ於テハ少數意見者モ亦無論熱心ナル

- 贊成者アリマスガ、帝國ノ公債ト云フモノハ斯ノ如キ小策ヲマデ弄セナケレバ價格ヲ保ツコトガ出來ナイ、相場ヲ上ケルコトガ出來ナイト云フヤウニ、帝國ノ一般ノ經濟界ハ危イ弱キ神經家ノ如キモノト見ルト云フ事柄ヲ、世界萬國ニ廣告シテサウシテ日本ノ公債ヲ維持シヤウト云フノハ、是ハ餘リ小策ニ過キタ愚策デアル、古人ガ言ウタ即チ苗ノ長ズ多助分苗ヲ拔クト云フ事柄ガアル、此公債價格ノ維持増進ノ方法ハ却テ公債ヲ價格ヲ落ス所以ニナルトモ上ケルヤウニハナラズ、帝國ノ公債ノ信用ヲ世界ニ廣メルデアラウ、如何ニモ廣メルノハ廣メルノデアラウガ、惡ルイノ廣メル、斯ウ云フ事ノ結果ニナル、是ニハ反對スベシ、クレトモ諸君ノ御了解ヲ願フテ置カケレバナラヌノハ、吾々ハ何處マデモ公債整理ニ反對致シマス、公債ノ價格ヲ維持スルニ付テ熱心ナ程度ニ於テハ一步タモ譲リマス、ヨリ以上斯様ナ愚案ヲ排スルト云フコトハ現政府並ニ之ヲ贊成スル諸君ヨリ、ヨリ以上公債ノ價格ヲ維持スルコトノ熱心者デアルト云フコトヲ御了解アラント祈リマス
- 議長(長谷場純孝君) 採決致シマス、一讀會ヲ開クベシト云フ方ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
- 起立者 多數
- 議長(長谷場純孝君) 多數——二讀會ヲ開クベシト云フコトニ決シマシタ
- 大岡育造君 直チニ二讀會ヲ開キ、二讀會ニ於テ三讀會ヲ省略シ、委員長報告通リ可決アラント希望致シマス
- 〔贊成者〕(聲起ル)
- 議長(長谷場純孝君) 大岡育造君ノ動議、直チニ二讀會ヲ開クト云フコトニ御異議アリマセヌカ
- 〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕
- 議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ其通り決シマス、直チニ二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス、而シテ三讀會ヲ省略シ……
- 政府ニ對スル保證金其他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入 第二讀會
- 御却ニ關スル法律案
- 議長(長谷場純孝君) 三讀會ヲ省略シテ委員會ノ報告通り御異議アリマセヌカ
- 〔異議ナシト呼フ者アリ〕
- 政府ニ對スル保證金其他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入 確定議
- 御却ニ關スル法律案
- 〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕
- 議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ其通り決シマス、本案ハ是ニテ確定致シマシタ、此場合御諮リヲ致シマス、生絲検査所擴張ニ關スル建議案、特別委員會ヲ委員長佐藤虎次郎君ヨリ本會ノ時間内ニ開キマイト云フ請求ガアリマス、許可シテ差支アリマセヌカ
- 〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕
- 議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ其通り決シマス——島田君ノ先刻ノ御發議ハ議事日程以外ノ事ニ付テ發言ヲスルト云フコトデアレバ議事日程ノ變更ヲ求メルノガ順序ニナリマセウ、此場合ニ若シ議事日程變更ヲ御求メニナルナラバ卒サ知ラズ、ソレデアゴザイマセヌケレバ又時機ヲ以テ御發言ニナリテハドウデアゴザイマセウカ
- 島田三郎君 斯ウ云フコトヲ議長ニ御照會ヲ請求致ス、國民ノ權利並ニ帝國議會

ノ體面ニ關シテ、本員ハ猶豫スベカラザル事柄ヲ此會ニ報告シテ、サウシテ國務大臣ノ答ヲ得タイノ精神デアリマス、國務大臣ガ幸ヒ列席シテ居ラレタカラ、本員ハ取敢ズ議長ニ先刻ノ發議ヲシテ、サウスルト此案ノ決議ニナラザル以前ニ國務大臣ガ席ヲ去ラレタ、茲テ本員ハ國務大臣ニ此席ニ出テ戴クコトノ趣意ヲ演壇ニ述ベマシテ、國務大臣ニ出テ戴クコトナラバ決議ヲシテサウシテ議長カラ照會シテ戴キタイ、其事柄ハ本院ノ體面ニ關係スルコトデアアル、ソレモ構ハヌト云フ御方ガアルナラバ、此機會ニ於テハ本員ハ致方ガナイ

○議長(長谷場純孝君) ソレハ議事日程ノ變更ヲ御求メニナルノガ議事上ノ順序デアラウト思ヒマス

○島田三郎君 サウスルト變更ヲ求メノ理由ヲ其處ニ述ベマス

(島田三郎君登壇)  
○島田三郎君 諸君、本員ハ先以テ諸君ニ本員ガ事ヲ好ムニアラザルモ、何分此儘ニ過行カレヌ事實ヲ本員ハ目撃シタデアリマス、其事實ノ大要ヲ御報告シテ斯ノ如キコトモ尙衆議院ノ御忍ビニナルカト云フ趣旨ヲ述ベテ、サウシテ總理大臣ニ出テ戴クコトノ趣意ヲ貫徹シタイノデ、之ヲ申スノデス(「謹聽々々」ト呼フ者アリ)ソレ故ニ其意味ヲ是カラ御話スル、御話ヲセヌト云フト諸君ノ御同意ヲ得難イト思ヒマス、事ヲ好マヌト云フコトダケヲ御斷リシテ置キマス、本員ハ此事ヲ實ハ此演壇カラ諸君ニ御諮リヨスルヤウナ機會ヲ作りタイト思ツタデアリマスガ(「ダカラ止メタラ宜イ」ト呼フ者アリ)ソレガ非常ニ必要ニナツテ來タデアリマス、昨日ニ稅調查委員會ノ節ニ(「ヤリ給ヘヤリ給ヘ」ト呼フ者アリ)總理大臣ガ出席シテ居ラレタニ付テ、總理大臣ニ斯様々ナ事實ガアルガ如何ニ御考ニナルカ、本員ハ御面談ニシタイノデアアルカラ特ニ委員長ノ許可ヲ得テ委員會ニ此問答ヲスルト申シタノ外ノコトデアナイ

○議長(長谷場純孝君) ドウゾ簡單ニ

○島田三郎君 地方ノ……

○元田肇君 發言ニ反對デアリマセヌガ、議事日程ヲ變更スルナラ、シテ伺ヒマス

○島田三郎君 其變更スルノハ必ズ諸君ニ變更スベキ問題デアアルカ、ソレトモ變更スルヤウナ必要ガナイカト云フ御判斷ヲ是非共請ハナケレバナラヌト云フタメニ言ハナケレバ、變更スル理由ガ出テ來ナイ譯デアリマス(「謹聽々々」ト呼フ者アリ)是ガクレ、モ本員ノ望ム所以デアリマス、是ハ黨派問題デアナイノデ變更ノ趣意ヲ述ベマスカラ御聽キ下サラヌ間ハ、罷々トシテ居レバ何時マデモ本員ハ此處ニ居リマス、諸君モ御止メニナラマデ何時マデモ私ハ此處ニ居ルノデアリマスカラ(「三時間デモ五時間デモ居レ」ト呼フ者アリ)守備ノカラ以テ退ケナイ以上ハ本員ハ此議論ヲ止メナイノデアリマスカラ、議長ヨリ外ニ本員ヲ退ケシムルモノハナイ(議場騒然)諸君ノ爲メニ警察モ無益ノ干渉ヲシテ、總代ハ五人ヨリ外ニ出スナト云フコトヲ地方委員ニ追ツテ本員ハ斷然追ツテ申シマス、斯ウ云ウヤウナ事實ガアツタニ付テ、一方ナラヌ警保局長ガ議員ノ兩名即チ細野君、木村君ノ此兩代議員ニ成ルメケ斯様ナルコトハ穩便ニシタイカラ、能ク地方ノ其關係ノ選舉區ノ方ニ注意ヲシテ欲シト云フコトデアッタニ付テ、細野代議員ガ其事務所ニ至ツテ能ク事情ノ貫徹スルヤウニ政府ヲ煩ハサヌヤウニト云フ(「新聞デ能ク見テ居リマスカラ分ツテ居ル」ト呼フ者アリ)コトヲ申シタデアリマスガ、其間ニ確ニ警察ガ左様ナコトヲヤツタト云フ事實ヲ目撃シタデアリマス、ソレ故ニ本員ガ總理大臣ニ向ツテ、總理大臣ハ左様ナルコトヲナサル、御考デアアルカ、ソレトモ是ハ間違デアアルカト云フタラバ間違デアルト云フコトヲ

明言セラレタデアリマスカラ、本員ハ左様ニ理解シテ居ラヌ、所ガ圖ラザリキ衆議院ノ受付ニ一ツノ騷擾ガ起リマシテ議長ハ五人ヨリ外ニイケナイト云フコトデ警察官ガ之ヲ制シテ居リマシタカラ、本員ハ議長ニ其事ヲ聞イタラ曾テ左様ナコトハナイト云フ、ソコテ議長ハ總代ノ總體ニ會フト云フコトデ二十名ノ總代ヲ議長ガ引イテ話ニナツタノヲ本員ハ見テ居リマス、何故ニ衆議院ノ管轄内マデモ警察官ガ斯様ナル不法ナルコトヲヤツテ(ヒヤク)議長ノ命デアルト云ウテ斯様ナコトヲシテ此議會ヲ辱メルノデアアルカト云フコトヲ本員ハ思ウ、議長ノ管轄内ニ斯ノ如キコトガアツタ、ソレ故ニ他ニモアルデアラウト本員ハ思ウテ居ラヌ、果シテアツタデアリマス、昨日此議席ニ列シテ居ラル、トコロノ大竹代議員、細野代議員玆ニ其他ノ村松代議員ノ二人ガ御出ニナツテ、途中デ又一ツノ僅カニ三四人間ニ問答ガアツタト云フノデ、サウニ云フコトヲスルト却テ人情ニ逆フカラ構ハヌ政友會ノ事務所ニ往クト云フ、陳情委員ナラ御出ニナツタラ宜カラウト云ツタラバ、忽チ斯ノ如キコトヲ云フモノハ拘束セヨト云フコトデ、遂ニ大竹代議員ト此警部巡查共ガ引イテ往カントシタデアリマス、是ニ於テ大竹代議員ハ別ニ抵抗シマセヌガ、誰ノ命ヲ受ケテ左様ナルコトヲヤルト云ツタラバ、上官ノ命ヲ受ケテヤルト云フ、是ハ巡查デアルト云フノデ其命令ヲ下シタ警部ニアルカト云ツタラバ、左様ナ命令ヲ下シタコトハナイト云フ、ソコデ大竹代議員デアルト云フコトヲ發見シテ彼等ガ手ヲ止メタデアリマスガ、斯様ニ人權ヲ蹂躪シテ議會ノ門前マデ斯様ナコトヲナスノヲ議長ノ命ナリト云ウテ議員ノ意ニアラザルコトヲナス警部ハ、確ニ議會ヲ辱メタモデアラウト思フ、然ルニ斯ノ如キ平和ノ人民ガ平和ノ行動ヲナスノヲ拘束スルト云フノハ確カニ國民ノ自由ヲ檢束スルノデアツテ、内閣ノ意思ニアラザルコトハ本員ハ委員會ニ於テ左様ニ確メタデアリマスカラ、總理大臣ノ出席ヲ求メテ此事ノ明白ナルコトヲ求メンガタメニ議事日程ヲ變更シテ此事ヲ議題トシテ、更ニ議長ヨリ總理大臣ニ此處ニ出テ貫ツテ斯ノ如キ不法ノ續キ行ハレテ、諸君ノ肩ノ上ニマデ左様ナコトノ起ラヌヤウニシタイガタメニ此緊急動議ヲ提出スルノデアリマス(拍手起ル)終リニ臨ンデモ亦議院ノ體面ニ妨ゲナイ國民ノ自由ヲ妨ゲナイト云フコトデアアルナラバ、諸君ハ緊急動議ヲ御取消ニナツテモ差支ナイガ、斯ノ如キ事柄ヲ議題トシテ此事實ヲ併セテ諸君ニ訴ヘ、サウシテ國民ニ之ヲ知ラシメテ明治二十二年以來二十年目ノ日本帝國、又斯ノ如キ、不體裁アツテ、サウシテ議會ハ之ヲ問ハズニ打過ギルコトハ本員深ク議會ノタメニ之ヲ嘆ズルガ故ニ、斯ノ如キコトヲ總理大臣ニ向ツテ此事ノ嘘ナランコトヲ本員ハ心ニ望ンデ、其タメニ緊急動議ヲ提出致シマス(拍手起ル)

○議長(長谷場純孝君) 鳩山和夫君

○島田三郎君 議長、議長

分リニクイ御方が多イヤウニ伺ハレマス、ソレテ其要領ハ此方カラ御尋致シマス、其要領ハ昨日織物業者ガ衆議院ノ門前ニ來タコトニ付テ、總理大臣ノ出席ヲ請ウテサウシテ質問シタイコトガアル、ソレガタメニ緊急動議即チ議事日程ノ變更ヲシテ、此場合ニ總理大臣ノ出席ヲ請ヒタイト云フ、此通リテスカ

○島田三郎君 サウデス、先ヅ決議ヲシナケレバ……  
○議長(長谷場純孝君) 免二角唯今ノ通リノ要旨デアリマスカラ議事日程ノ變更ト云フコトニハ即チ定規ノ贊成者ガアルヤウニ見受ケマス

〔贊成者〕「反對」ノ聲起ル  
○議長(長谷場純孝君) 贊成者ガアル以上ハ採決ヲ致シマス、島田君ノ日程變更ノ動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數  
○議長(長谷場純孝君) 少數、日程第十六、第十七ハ同一ノ提出者ナルニ依リ一括シテ議題トナスニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕「呼フ者アリ」  
○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ日程第十六、第十七ハ一括シテ議題ニ供シマス、獸畜市場法案外一件ノ第一讀會ヲ開キ議案ノ朗讀ハ省略致シマス、提出者森田俊左久君

第十六 獸畜市場法案(森田俊左久君外二名提出) 第一讀會  
第十七 獸疫豫防法中改正法律案(森田俊左久君外二名提出) 第一讀會

獸畜市場法案

第一條 本法ニ於テ獸畜ト稱スルハ牛馬羊豚ヲ謂ヒ市場ト稱スルハ牛馬羊豚ヲ蒐集シテ賣買取引スル場所ヲ謂フ

第二條 市場ヲ分テ常設市場、定期市場不定期市場及臨時市場ノ四種トス

第三條 市場ヲ設立セムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

第四條 行政官廳ハ常設市場ニ限リ主務大臣ノ認可ヲ得テ地區ヲ定メ市場ノ免許ヲ與フルコトヲ得

前項地區内ニ於テ販賣ニ供スル目的ヲ以テ獸畜ヲ地區外ヨリ搬入シ又ハ蒐集シテ賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第五條 常設市場ノ免許期間ハ二十箇年トス但シ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第六條 市場ニ於ケル賣買取引ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 行政官廳ハ市場ノ行爲命令ニ違反シ衛生上危害ヲ生シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 市場設立免許ノ取消  
二 市場ノ業務停止  
三 市場賣買物件一部ノ停止又ハ禁止

第八條 行政官廳ハ官吏ヲシテ市場ニ臨檢セシメ建物其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ外行政官廳ハ市場ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 本法第三條、第四條第二項ニ違反シタル者ハ二百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

下ノ罰金ニ處ス

附則

第十條 本法ハ明治四十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 本法施行前ニ認可ヲ得タル市場ハ本法施行ノ日ヨリ三箇年間ハ本法ニ依リ免許セラレタルモノト看做ス但シ既設ノ市場ハ命令ノ定ムル期日迄ニ行政官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス此ノ期日ヲ經ルモ仍認可ヲ申請セサルトキハ免許ノ效力ヲ失フ

獸疫豫防法中改正法律案

第十條第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五 乳汁賣買ヲ禁止シタルトキ 評價額三分ノ二

手當金額ハ第一ノ場合ニ於テハ一頭六十圓、第二ノ場合ニ於テハ一頭二百圓、第三ノ場合ニ於テハ一頭五百圓、第四ノ場合ニ於テハ總計五十圓、第五ノ場合ニ於テハ一頭三十圓ヲ超過スルコトヲ得

第十五條ノ二 清韓及西比利亞地方ヲ發シ又ハ通過シタル畜牛ノ輸入ヲ禁ス但シ屠殺ノ目的ヲ以テ檢疫委員ノ指示シタル屠殺場ニ於テ屠殺シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

(森田俊左久君登壇)

(拍手起ル)

○森田俊左久君 私ハ唯今御報告ニナリマシタ案ノ提出者ノ一人デゴザイマス、極ク簡單ニ提出ノ理由ヲ説明致シマス、我國ニイロクナ市場即チ「イチバ」ガ澤山ゴザイマス

ルガ、此市場ニ付キマシテハ未ダ完全ナル法律ガ無イノデゴザイマス、爲ニ去ル第十八議會以來度々本案ガ問題トナリマシテ或ハ可決トナリ、或ハ中止トナテ懸案ニナテ居ルコトデゴザイマシテ、諸君ハ既ニ此案ノ内容ハ御存ジテアラウト考ヘルノデアリマス、サリナガラ既往提出ニナテ居ル案ニ付キマシテハ「イロク」ナ市場ガゴザイマシテ「ブルス」テドヲ一

緒ニシテ一ノ法律ヲ取締ルト云フヤウナ案デゴザイマシタガタメニ、或ル論者ハ此澤山ノ市場ヲ一ノ法律ヲ以テ取締ルト云フコトハ多少事情ガ異ツテ居ルガタメニ宜シクナイト云フ反

對ノ御議論モアツタノデアリマシタメニ、今日マデ成案ニナラヌノデアリマスガ、就中此獸畜ニ關スル市場ハ多數アル市場ヨリ一層弊害ガ多イノデアリマス、ソレテ取分ケ此獸畜ニ關シテ其事ヲ緊急ト致シマシタガタメニ既往ノ案ヨリ取除ケマシテ此案ヲ制定シ、此弊

害ノ最モ多イ市場ノ取締ヲシ、一方牛疫ノ豫防ヲ致サウト云フ案デゴザイマス、宜シク御審議ノ上御贊成アラント願ヒマス、其次第二十七ノ日程ニナテ居リマスル獸疫豫防法中改正法律案、是ハ去ル明治二十九年ノ制定デゴザイマス、此獸疫ノ豫防法ト申シマスモノハ御存ジノ通りニ獸疫ガ發生シタ場合ニ、此豫防ヲ致シマスルノニハ必ズ

此畜類ノ撲殺ヲ以テ此豫防ノ實ヲ舉ゲルコトニナテ居ルノデアリマス、此撲殺ヲ致シマスル獸畜ニ對シテハ國家ハ相當ノ賠償ヲ致サンケレバナラヌノデアリ、其賠償價格即チ法律ノ面デハ手當金トナテ居リマスガ、實ハ賠償デゴザイマス、其賠償價格ガ其當時ト今日トハ物價ノ相違ガゴザイマスガタメニ、今日デハ非常ナル營業者ガ困難ヲ致シテ居ル

ノデアリマス、此點ニ付テハ營業者ハ或ル機會或ル方法ヲ以テ其筋ニ嘆願シテ居ルノデアリマシタレドモ、今以テ營業者ノ請願ヲ満足ニ目的ヲ達スルコトニナラヌノデアリマス、タメニ此手當金ノ増額ヲスルガタメニ法律ノ改正ヲ要スルコトデゴザイマス、

○森田俊左久君 提出者ノ一人デゴザイマス、極ク簡單ニ提出ノ理由ヲ説明致シマス、我國ニイロクナ市場即チ「イチバ」ガ澤山ゴザイマスルガ、此市場ニ付キマシテハ未ダ完全ナル法律ガ無イノデアリマス、爲ニ去ル第十八議會以來度々本案ガ問題トナリマシテ或ハ可決トナリ、或ハ中止トナテ懸案ニナテ居ルコトデゴザイマシテ、諸君ハ既ニ此案ノ内容ハ御存ジテアラウト考ヘルノデアリマス、サリナガラ既往提出ニナテ居ル案ニ付キマシテハ「イロク」ナ市場ガゴザイマシテ「ブルス」テドヲ一

緒ニシテ一ノ法律ヲ取締ルト云フヤウナ案デゴザイマシタガタメニ、或ル論者ハ此澤山ノ市場ヲ一ノ法律ヲ以テ取締ルト云フコトハ多少事情ガ異ツテ居ルガタメニ宜シクナイト云フ反對ノ御議論モアツタノデアリマシタメニ、今日マデ成案ニナラヌノデアリマスガ、就中此獸畜ニ關スル市場ハ多數アル市場ヨリ一層弊害ガ多イノデアリマス、ソレテ取分ケ此獸畜ニ關シテ其事ヲ緊急ト致シマシタガタメニ既往ノ案ヨリ取除ケマシテ此案ヲ制定シ、此弊害ノ最モ多イ市場ノ取締ヲシ、一方牛疫ノ豫防ヲ致サウト云フ案デゴザイマス、宜シク御審議ノ上御贊成アラント願ヒマス、其次第二十七ノ日程ニナテ居リマスル獸疫豫防法中改正法律案、是ハ去ル明治二十九年ノ制定デゴザイマス、此獸疫ノ豫防法ト申シマスモノハ御存ジノ通りニ獸疫ガ發生シタ場合ニ、此豫防ヲ致シマスルノニハ必ズ此畜類ノ撲殺ヲ以テ此豫防ノ實ヲ舉ゲルコトニナテ居ルノデアリマス、此撲殺ヲ致シマスル獸畜ニ對シテハ國家ハ相當ノ賠償ヲ致サンケレバナラヌノデアリ、其賠償價格即チ法律ノ面デハ手當金トナテ居リマスガ、實ハ賠償デゴザイマス、其賠償價格ガ其當時ト今日トハ物價ノ相違ガゴザイマスガタメニ、今日デハ非常ナル營業者ガ困難ヲ致シテ居ルノデアリマス、此點ニ付テハ營業者ハ或ル機會或ル方法ヲ以テ其筋ニ嘆願シテ居ルノデアリマシタレドモ、今以テ營業者ノ請願ヲ満足ニ目的ヲ達スルコトニナラヌノデアリマス、タメニ此手當金ノ増額ヲスルガタメニ法律ノ改正ヲ要スルコトデゴザイマス、

尙獸疫ノ豫防ハ最モ此畜産界ニ於キマシテ必要ナコトデゴザイマス、ケレドモ此獸疫ヲ全ク豫防致シマスルノニハ清韓若クハ西比利亞地方カラ參リマスルトコロノ牛畜ヲ禁止シマセヌケレバ、此獸疫ノ撲滅ヲ計ルコトガ出來ナイノデゴザイマス、タメニ十五條ノ次ニ一項ヲ加ヘテ譯テデゴザイマス、幸ニシテ本案ガ委員會ニ上リマシタナレバ十分ニ說明ヲ致ス考デゴザイマス、テ宜シク御審議ノ上御贊成アラントラ願ヒマス

○拍手起ル  
○板松隆慶君 十六、十七ノ問題ハ一括シテ議題トナシ、議長指名ノ九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ希望致シマス

○贊成(ト呼フ者アリ)  
○議長(長谷場純孝君) 板松君ノ動議即チ十六、十七ノ日程ノ法律案ハ議長指名ノ九名ノ特別委員ニ併セテ付託スルト云フニ御異議アリマセヌカ

○異議ナシ(ト呼フ者アリ)  
○議長(長谷場純孝君) 御異議ハナイト認メマスカラ、其通り決シマス——日程第十八、競馬法案ハ提出者ヨリ延期ノ申出ガアリマス、許可シテ御異議アリマセヌカ

○異議ナシ(ト呼フ者アリ)  
○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ、日程十八ハ延期スルコトニ致シマス——日程第十九、第二十八同一委員ニ付託シ且ツ關聯セル案デゴザイマスカラ一括シテ議題トナスニ御異議ハアリマセヌカ

○異議ナシ(ト呼フ者アリ)  
○議長(長谷場純孝君) 御異議ナイト認メマスカラ、委員長ノ報告ヲ許シマス、委員長立川雲平君 是ハ本日ハ延期ヲ願ヒタウデゴザイマス

○議長(長谷場純孝君) 第十九、二十共ニデスカ  
○立川雲平君 一題共ニデスカ  
○贊成(ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 第十九、二十ハ委員長ヨリ延期ノ請求ガデゴザイマス、御異議デゴザイマセヌカ  
○異議ナシ(ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ハナイト認メマスカラ 日程第十九、二十八延期スルコトニ致シマス、日程第二十一、關稅定率法輸入稅表中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀ハ省略致シマス、提出者森本駿君——而シテモウ一ツ御諮リヲ致シマス、提出者ヨリ日程第二十二燐寸輸出交付金下付ニ關スル建議案ヲ同時ニ說明致シタイト云フコトデゴザイマスガ、御異議ハアリマセヌカ  
○異議ナシ(ト呼フ者アリ)

第二十一 關稅定率法輸入稅表中改正法律案(森本 第一讀會)  
駿君外一名提出)

第二十二 燐寸輸出交付金下付ニ關スル建議案(森本 駿君外一名提出)

關稅定率法輸入稅表中改正法律案  
關稅定率法輸入稅表中左ノ通改正ス

一一〇 黃磷及赤磷 每斤 〇、一六  
一一一 青化剝篤亞斯及青化曹達 無稅

一二六ノ二 格魯兒酸剝篤亞斯 每百斤 一一、二六  
一二七 重格魯兒酸剝篤亞斯 同 一一、五三  
一七四 パラレキソワックス 同 〇、五四  
一 融解點攝氏五十度未滿ノモノ 同 一、三〇  
二 其ノ他 同

三七二 亞鉛 同  
二 板 同  
乙 其ノ他 同  
イ 二號板 同  
口 其ノ他 同

附則  
本法ハ明治四十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

燐寸輸出交付金下付ニ關スル建議案

燐寸ハ我カ重要輸出品ノ一ニシテ現ニ千萬圓内外ノ輸出アリ内地需用品ト併セテ毎年千二三百萬圓ノ製産高ニ及フト雖其ノ重要輸出品トシテ如キハ外品ノ競争激甚ニシテ我カ輸出高年ヲ逐フテ減退スルノミナラス支那ニ至リテハ外品ノ競争ニ加フルニ支那各地ノ燐寸製造業類ニ勃興スルアルヲ以テス若シ我カ燐寸業ヲ現狀ノ儘ニ放棄シ置カハ幾年ナラスシテ我カ燐寸輸出ノ跡ヲ絶ツニ至ルノ虞アリ此ノ如キハ國家經濟ノ發達ヲ阻害スルヤ論ヲ俟タス依リテ政府ハ毎年五百萬圓以上ノ燐寸ヲ輸出スル者ニ對シ輸出高千分ノ五十二相當スル輸出交付金ヲ下付シ以テ我カ産業ノ發展ニ資シ且從來發達シ來レル此ノ新事業ノ基礎ヲ確實ナラシムコトヲ望ム  
右建議ス

(森本駿君登壇)  
(拍手起ル)「簡單々々」ト呼フ者アリ)

○森本駿君 諸君、極ク簡單ニ諸君ノ希望通りニヤリマス、此關稅定率法輸入稅表中改正法律案ハ數種ノ稅目ニ付テ現行ハ無稅ニナツテ居ル品物デアリマス、其無稅ニナツテ居ル品物ヲ有稅ニシヤウ、是詰リ内地ノ補助ノ上ニ於テ關聯スルノデアリマシテ、即チ燐寸輸出交付金下付ニ關スル建議案ト聯帶致シマスカラ一括シテ說明ヲ述ベタイ希望ヲ述ベテ次第デアリマスガ、便宜ノタメニ燐寸輸出交付金下付ニ關スル建議案ノ方カラ說明ヲ致シマス、而シテ輸入稅表中改正法律案ニ論及シテ諸君ノ御贊成ヲ請ヒタイト思ヒマス、從來我燐寸ノ輸出業ト云フモノハ一時餘程盛シニナツテ居リマシタノデアリマスケレドモ、今日ニ於テハ輸出先キテ外國ノ競争若クハ輸出先キニ於テ燐寸ノ製造場ガ出來ルト云フヤウナ自國品ノ競争ト併セテ内地ノ燐寸ガ輸出スル時分ニ非常ナ打撃ヲ受ケテ遂ニ一時千萬圓以上ノ輸出ヲ居テ居タトコロノ燐寸ガ、四十一年度ノ如キハ八百四十萬圓ト云フヤウナ金額ニ減退シタト云フヤウナ事實ヲ以テ居リマシタノデスカ、是ハ我國ノ新事業トシテ折角千萬圓以上ノ輸出ヲ見タモノヲ八百萬圓臺マデ減退セシメタト云フコトハ、如何ニモ、遺憾ニ感ズルノデアルカラシテ、將來燐寸ヲ輸出スル場合ニ於テ五百萬圓以上ノ輸出ヲ取扱タモノニ對シテハ、輸出額ノ千分ノ五十ノ交付金ヲ下付シテ、我國產ノ發達ニ資スルヤウニスル方針ヲ政府ニ於テ執ラレンコトヲ希望スルト云フ建議案ヲ茲ニ提出致シタノデアリマス、即チ五百萬圓ト云フ輸出額ヲモノニ千分ノ五十ノ交付金ヲ下付スルト云フト、二十五萬圓ノ交付金ヲ下付スルト云

フコトニナル、現在ニ於テ煙草ヲ輸出スル場合ニ於テモ、交付金ヲ下付スルカラ、我國產ノ發達スルタメニ是タケノ獎勵ヲスルト云フ方針ヲ執ラレタト云フ建議ヲ茲ニ提出シマシタ、而シテ現在ニ於テ燐寸ノ輸出額ハ唯今申スガ如クニ一時千萬圓以上モ輸出シタノデアリケレドモ、四十一年ニハ八百萬圓臺ニ下リテ居ルヤウナ金額アルト云フコトヲ御承知ニナラセタラバ、此交付金ヲ五百萬圓以上ヲ輸出スルモノニ對シテ千分ノ五十ヲ下付スルト云フガタメニ要スル財源ハドウカト云フト、今日ノ財政ノ上ニ於テ以テ總令二十五萬圓ニ致シマシテモ、財源ニ困難ヲ感ズルノデアラウト云フコトヲ信ジマシテ、是ニ於テ關稅定率法輸入稅表中改正案ヲ提出致シマシテ、燐寸ノ原料ニ供セラレテ居ルトコロノ品物が今日ハ無稅ノ取扱ニナラセ居ルノデアリマスケレドモ、元來是等ノ品物ハ總テ有稅品デアッタノデアリマス、併ナガラ燐寸ノ保護ノ爲メニ之ヲ無稅品トシテ原料ハ無稅トシテ燐寸ヲ發達ヲ助ケル方針ヲ關稅定率法ヲ取ツタノガ即チ現行法デアル、然ラバ原料ガ無稅デアラハ、既ニ其保護ガ至ッテ居ルノハナイカト云フコトデアリマスケレドモ、之ヲ無稅ニシテ以來ノ實験ニ依ッテ見マスケレバ、原料ハ無稅ニナラタガ、其無稅ノ原料ヲ使用スルトコロノモノハ必シモ内地人ノミニ限ラズシテ、或ハ他國人ガ株主トナラセ居ルトコロノ燐寸製造會社ノ利益ニ歸スルト云フガ如キ實迹ヲ現ハシテ居ルガ現狀デアリマスケラシテ是ハ外國條約ニ於テ協定率ガ現存シテ居ル、協定率ガアルニモ拘ラズ、關稅定率法ハ、之ヲ無稅ニ致シタト云フノデアラカラシテ、其原料品ニ對シテハ協定率ノ額タケラ課スルト云フ方針ヲ執ツテ、其結果トシテ得ルトコロノ金額ガ約五六十萬圓ノ金額ニナラウト思ヒマス、五六十萬圓ノ金額ニナルノデアラカラシテ、此關稅定率法ガ行ハレタ結果トシテ、此國庫ノ收入スル金額ヲ財源トシテ五百萬圓以上ノ輸出スル燐寸ノ輸出ニ交付金ヲヤツテ國產ノ發達ヲ助ケルト云フ方針ヲ執ラレ、ヤウニシタイト云フ建議ヲ、政府ヲシテ之ヲ實行シタイト思フノデス、即チ關稅定率法輸入稅表中改正法律案ヲ提出シテ以テ法律ニ於テ協定率ノ金額タケラ稅ヲ取ルコトニシテ、之ヲ財源トシテ國產ノ發達ニ交付金ヲ與ヘルト云フ方針ヲ執ラレタイト云フ建議ヲ提出シテ、政府ハ此目的ヲ四十二年度ノ豫算ニ於テ實行セラル、ヤウニシタイト思フノデアラカラ、此關稅定率法輸入稅表中改正法案ヲ提出シ、他ノ一面ニ於テハ燐寸ノ交付金下付ニ關スル建議案ヲ提出シタ所以デアリマスケラシテ、何卒御審查ヲ經テ兩案共御贊同下サルコトヲ切望致シマス

○恆松隆慶君 森本君提出ノ二案ハ同一委員議長指名十八名ニ付託セラレレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷川純孝君) 恆松隆慶君ノ動議、即チ日程第二十一、第二十二ノ議案ハ同一委員議長指名十八名ニ併セテ付託スルト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル)

○議長(長谷川純孝君) 御異議ハナイト認メマスケラ、其通り決シマス——日程第二十三、商科大學設立ニ關スル建議案ヲ議題トシ、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス——提出者根本正君

第二十三 商科大學設立ニ關スル建議案(根本正君外五名提出)

商科大學設立ニ關スル建議案

本院ハ第二十三回及第二十四回議會ニ於テ國家大發展ノ機運ニ際シ商業界

ノ牛耳ヲ執ルヘキ有爲ノ人物ヲ陶冶スルハ焦眉ノ急務ナルヲ以テ政府ハ商業ニ關シ必要ナル各種ノ科目ニ付最高等ノ教育機關ヲ設置スヘキコトヲ建議シタリ然ルニ今ニ於テ之カ設備ヲ爲ササルハ本院ノ深ク遺憾トスルトコロナリ政府ハ宜ク建議ノ趣旨ヲ採納シ此ノ急務ニ應スヘシ

右建議ス

(根本正君登壇)

(「簡單々々」ト呼ビ拍手起ル)

○根本正君 紳士諸君、商科大學設立ニ關スル建議案ノ理由ヲ簡單ニ述ベマス、本件ニ付キマシテハ議會ノ開會ノ始メニ於キマシテ建議案ニスルヤウナ手數ヲ省クタメニ質問ヲ致シマシタ、故ニ細カシイコトハ申上ゲマセヌ、然ルニ政府ハ單ニ調査中デアルト云フ答デアツタ譯デアリマス、其時ノ質問中ニモ若モ精細ナル答辯ガナクッタラバ、已ムラ得ズ建議ニスルヤウナルデアラウト云フコトモ附加ヘテ置キマシタガ、此建議ハ即チ第二十三回及第二十四回ノ兩議會ニ於キマシテ滿場一致ヲ以テ可決シマシタ重大ナル問題デアリマス、尙此度ノ建議案モ各派ノ方ミガ署名シテ提出シタ譯デアリマス、此實業ノ進歩ト云フモノハ實ニ驚クベキ進歩デアリマス、然ルニ之ニ關スル最高ノ學校ト云フモノハナク誠ニ遲キトシテヤハリ二十年、三十年前ノ有様ニナラセ居リマス、故ニ此學校ハ是非我商業界即チ實業界發展ノタメニ最モ必要デアルト云フコトハ、皆サンモ御承知ノ通りデアリマス、茲ニ其事實ヲ簡單ニ申上ゲタイト思フ、明治元年ヨリ昨年マデ四十一箇年間ノ外國貿易ト云フモノヲ調査シテ見マスケレバ、其金額ト云フモノハ合計ニ於テ百一億七千七百圓ニ達シ居リマス、ソレハ此輸出ノ高ハ幾ラアルカト云ハバ四十七億九千九百萬圓アル、又輸入ノ高ハ五十四億八千六百圓アル、故ニ差引シマスケレバ云フトハ六億九千九百萬圓ト云フモノハ輸入超過ニナラセ居リマス、即チ殆ド七億圓ト云フ大金ガ輸入超過ニナラセ居リマス、即チ正貨ト云フモノヲ我日本帝國ヨリ外國ニ出シタ譯ニナラセ居リマス、斯ノ如キ有様デアリマス故ニ、此四十一箇年ノ間ニドウ云フ風ニ我日本帝國ノ外國貿易ガナラセ居ルカト云フコトヲ調査シテ見マスケレバ、先ヅ此年限ヲ三ツニ分ケル——此年限ヲ三ツニ分ケテ調べマス、商科大學ヲ起シ實業社會ノ牛耳ヲ執ル人ヲ作ルノ必要アルコトガ分ルノデアアル、會社ガ續々失敗シ、諸君ガ御迷惑ヲ受クルコトガアル、之ヲ防グニモ此商科大學ガ必要ナルデアアル、此貿易ガ最初ノ十四年間ガ六億八千二百萬圓、次ノ十四年間ガ十八億二千三百萬圓、最後ノ十二箇年ガ之ガ大キナ金額ニナラセ居リマス、而シテ最初ノ十四年間ニ於テハ七千七百六十四萬圓ノ輸入超過、次ノ十四年ガ七千二百四十二萬圓ノ輸入超過、最初ノ十四年ニ七千餘萬圓ノ輸入超過デアアルガ、次ニハ七千餘萬圓ノ輸出超過デアアル、明治元年カラ二十八年間ハ輸入超過デアアルガ、次ニハ七千餘萬圓ノ輸出超過デアアル、然レニ後ノ第三期ハ非常ナル輸入超過デアアル、六億九千三百七十七萬圓ノ輸入超過デアアル、斯ノ如ク最初ノ十四年間ト後ノ十二箇年間トノ外國貿易ヲ調べマスケレバ十倍以上ノ進歩發展デアアル、實業界ニテ之ヲ取扱フ實業家ハヤハリ右ノ明治十五年二十年アタリノ教育ノノ人が多クテ之ヲ支配スル人ガ不十分ノ智識ノ人ガ其結果ハ抑テ知ルベキデアアル、諸君モ新聞紙ヲ御承知ノ通りデアアル、故ニ我外國貿易ノ發展ノタメニ是非共國家發展上此根本ナル商科大學ヲ起サナケレバナラヌノデアアル、海軍ガ何故ニ世界ニ名譽ヲ得ルカ、陸軍ガ何故ニ世界ニ名譽ヲ得ルカ其理由ハ陸海軍ニハ共ニ大學校ガアツテ今日理想的ノ戰ヲスルコトガ出來タノデアアル、實業社會デモドウシテモ知識アル人物ヲ養成シナケレバナラヌノ商科大學ヲ起シ、此帝國ノ貿易ノ發展ヲ計ラナケレバナラヌ

○根本正君 紳士諸君、商科大學設立ニ關スル建議案ノ理由ヲ簡單ニ述ベマス、本件ニ付キマシテハ議會ノ開會ノ始メニ於キマシテ建議案ニスルヤウナ手數ヲ省クタメニ質問ヲ致シマシタ、故ニ細カシイコトハ申上ゲマセヌ、然ルニ政府ハ單ニ調査中デアルト云フ答デアツタ譯デアリマス、其時ノ質問中ニモ若モ精細ナル答辯ガナクッタラバ、已ムラ得ズ建議ニスルヤウナルデアラウト云フコトモ附加ヘテ置キマシタガ、此建議ハ即チ第二十三回及第二十四回ノ兩議會ニ於キマシテ滿場一致ヲ以テ可決シマシタ重大ナル問題デアリマス、尙此度ノ建議案モ各派ノ方ミガ署名シテ提出シタ譯デアリマス、此實業ノ進歩ト云フモノハ實ニ驚クベキ進歩デアリマス、然ルニ之ニ關スル最高ノ學校ト云フモノハナク誠ニ遲キトシテヤハリ二十年、三十年前ノ有様ニナラセ居リマス、故ニ此學校ハ是非我商業界即チ實業界發展ノタメニ最モ必要デアルト云フコトハ、皆サンモ御承知ノ通りデアリマス、茲ニ其事實ヲ簡單ニ申上ゲタイト思フ、明治元年ヨリ昨年マデ四十一箇年間ノ外國貿易ト云フモノヲ調査シテ見マスケレバ、其金額ト云フモノハ合計ニ於テ百一億七千七百圓ニ達シ居リマス、ソレハ此輸出ノ高ハ幾ラアルカト云ハバ四十七億九千九百萬圓アル、又輸入ノ高ハ五十四億八千六百圓アル、故ニ差引シマスケレバ云フトハ六億九千九百萬圓ト云フモノハ輸入超過ニナラセ居リマス、即チ殆ド七億圓ト云フ大金ガ輸入超過ニナラセ居リマス、即チ正貨ト云フモノヲ我日本帝國ヨリ外國ニ出シタ譯ニナラセ居リマス、斯ノ如キ有様デアリマス故ニ、此四十一箇年ノ間ニドウ云フ風ニ我日本帝國ノ外國貿易ガナラセ居ルカト云フコトヲ調査シテ見マスケレバ、先ヅ此年限ヲ三ツニ分ケル——此年限ヲ三ツニ分ケテ調べマス、商科大學ヲ起シ實業社會ノ牛耳ヲ執ル人ヲ作ルノ必要アルコトガ分ルノデアアル、會社ガ續々失敗シ、諸君ガ御迷惑ヲ受クルコトガアル、之ヲ防グニモ此商科大學ガ必要ナルデアアル、此貿易ガ最初ノ十四年間ガ六億八千二百萬圓、次ノ十四年間ガ十八億二千三百萬圓、最後ノ十二箇年ガ之ガ大キナ金額ニナラセ居リマス、而シテ最初ノ十四年間ニ於テハ七千七百六十四萬圓ノ輸入超過、次ノ十四年ガ七千二百四十二萬圓ノ輸入超過、最初ノ十四年ニ七千餘萬圓ノ輸入超過デアアルガ、次ニハ七千餘萬圓ノ輸出超過デアアル、明治元年カラ二十八年間ハ輸入超過デアアルガ、次ニハ七千餘萬圓ノ輸出超過デアアル、然レニ後ノ第三期ハ非常ナル輸入超過デアアル、六億九千三百七十七萬圓ノ輸入超過デアアル、斯ノ如ク最初ノ十四年間ト後ノ十二箇年間トノ外國貿易ヲ調べマスケレバ十倍以上ノ進歩發展デアアル、實業界ニテ之ヲ取扱フ實業家ハヤハリ右ノ明治十五年二十年アタリノ教育ノノ人が多クテ之ヲ支配スル人ガ不十分ノ智識ノ人ガ其結果ハ抑テ知ルベキデアアル、諸君モ新聞紙ヲ御承知ノ通りデアアル、故ニ我外國貿易ノ發展ノタメニ是非共國家發展上此根本ナル商科大學ヲ起サナケレバナラヌノデアアル、海軍ガ何故ニ世界ニ名譽ヲ得ルカ、陸軍ガ何故ニ世界ニ名譽ヲ得ルカ其理由ハ陸海軍ニハ共ニ大學校ガアツテ今日理想的ノ戰ヲスルコトガ出來タノデアアル、實業社會デモドウシテモ知識アル人物ヲ養成シナケレバナラヌノ商科大學ヲ起シ、此帝國ノ貿易ノ發展ヲ計ラナケレバナラヌ

○根本正君 紳士諸君、商科大學設立ニ關スル建議案ノ理由ヲ簡單ニ述ベマス、本件ニ付キマシテハ議會ノ開會ノ始メニ於キマシテ建議案ニスルヤウナ手數ヲ省クタメニ質問ヲ致シマシタ、故ニ細カシイコトハ申上ゲマセヌ、然ルニ政府ハ單ニ調査中デアルト云フ答デアツタ譯デアリマス、其時ノ質問中ニモ若モ精細ナル答辯ガナクッタラバ、已ムラ得ズ建議ニスルヤウナルデアラウト云フコトモ附加ヘテ置キマシタガ、此建議ハ即チ第二十三回及第二十四回ノ兩議會ニ於キマシテ滿場一致ヲ以テ可決シマシタ重大ナル問題デアリマス、尙此度ノ建議案モ各派ノ方ミガ署名シテ提出シタ譯デアリマス、此實業ノ進歩ト云フモノハ實ニ驚クベキ進歩デアリマス、然ルニ之ニ關スル最高ノ學校ト云フモノハナク誠ニ遲キトシテヤハリ二十年、三十年前ノ有様ニナラセ居リマス、故ニ此學校ハ是非我商業界即チ實業界發展ノタメニ最モ必要デアルト云フコトハ、皆サンモ御承知ノ通りデアリマス、茲ニ其事實ヲ簡單ニ申上ゲタイト思フ、明治元年ヨリ昨年マデ四十一箇年間ノ外國貿易ト云フモノヲ調査シテ見マスケレバ、其金額ト云フモノハ合計ニ於テ百一億七千七百圓ニ達シ居リマス、ソレハ此輸出ノ高ハ幾ラアルカト云ハバ四十七億九千九百萬圓アル、又輸入ノ高ハ五十四億八千六百圓アル、故ニ差引シマスケレバ云フトハ六億九千九百萬圓ト云フモノハ輸入超過ニナラセ居リマス、即チ殆ド七億圓ト云フ大金ガ輸入超過ニナラセ居リマス、即チ正貨ト云フモノヲ我日本帝國ヨリ外國ニ出シタ譯ニナラセ居リマス、斯ノ如キ有様デアリマス故ニ、此四十一箇年ノ間ニドウ云フ風ニ我日本帝國ノ外國貿易ガナラセ居ルカト云フコトヲ調査シテ見マスケレバ、先ヅ此年限ヲ三ツニ分ケル——此年限ヲ三ツニ分ケテ調べマス、商科大學ヲ起シ實業社會ノ牛耳ヲ執ル人ヲ作ルノ必要アルコトガ分ルノデアアル、會社ガ續々失敗シ、諸君ガ御迷惑ヲ受クルコトガアル、之ヲ防グニモ此商科大學ガ必要ナルデアアル、此貿易ガ最初ノ十四年間ガ六億八千二百萬圓、次ノ十四年間ガ十八億二千三百萬圓、最後ノ十二箇年ガ之ガ大キナ金額ニナラセ居リマス、而シテ最初ノ十四年間ニ於テハ七千七百六十四萬圓ノ輸入超過、次ノ十四年ガ七千二百四十二萬圓ノ輸入超過、最初ノ十四年ニ七千餘萬圓ノ輸入超過デアアルガ、次ニハ七千餘萬圓ノ輸出超過デアアル、明治元年カラ二十八年間ハ輸入超過デアアルガ、次ニハ七千餘萬圓ノ輸出超過デアアル、然レニ後ノ第三期ハ非常ナル輸入超過デアアル、六億九千三百七十七萬圓ノ輸入超過デアアル、斯ノ如ク最初ノ十四年間ト後ノ十二箇年間トノ外國貿易ヲ調べマスケレバ十倍以上ノ進歩發展デアアル、實業界ニテ之ヲ取扱フ實業家ハヤハリ右ノ明治十五年二十年アタリノ教育ノノ人が多クテ之ヲ支配スル人ガ不十分ノ智識ノ人ガ其結果ハ抑テ知ルベキデアアル、諸君モ新聞紙ヲ御承知ノ通りデアアル、故ニ我外國貿易ノ發展ノタメニ是非共國家發展上此根本ナル商科大學ヲ起サナケレバナラヌノデアアル、海軍ガ何故ニ世界ニ名譽ヲ得ルカ、陸軍ガ何故ニ世界ニ名譽ヲ得ルカ其理由ハ陸海軍ニハ共ニ大學校ガアツテ今日理想的ノ戰ヲスルコトガ出來タノデアアル、實業社會デモドウシテモ知識アル人物ヲ養成シナケレバナラヌノ商科大學ヲ起シ、此帝國ノ貿易ノ發展ヲ計ラナケレバナラヌ

○根本正君 紳士諸君、商科大學設立ニ關スル建議案ノ理由ヲ簡單ニ述ベマス、本件ニ付キマシテハ議會ノ開會ノ始メニ於キマシテ建議案ニスルヤウナ手數ヲ省クタメニ質問ヲ致シマシタ、故ニ細カシイコトハ申上ゲマセヌ、然ルニ政府ハ單ニ調査中デアルト云フ答デアツタ譯デアリマス、其時ノ質問中ニモ若モ精細ナル答辯ガナクッタラバ、已ムラ得ズ建議ニスルヤウナルデアラウト云フコトモ附加ヘテ置キマシタガ、此建議ハ即チ第二十三回及第二十四回ノ兩議會ニ於キマシテ滿場一致ヲ以テ可決シマシタ重大ナル問題デアリマス、尙此度ノ建議案モ各派ノ方ミガ署名シテ提出シタ譯デアリマス、此實業ノ進歩ト云フモノハ實ニ驚クベキ進歩デアリマス、然ルニ之ニ關スル最高ノ學校ト云フモノハナク誠ニ遲キトシテヤハリ二十年、三十年前ノ有様ニナラセ居リマス、故ニ此學校ハ是非我商業界即チ實業界發展ノタメニ最モ必要デアルト云フコトハ、皆サンモ御承知ノ通りデアリマス、茲ニ其事實ヲ簡單ニ申上ゲタイト思フ、明治元年ヨリ昨年マデ四十一箇年間ノ外國貿易ト云フモノヲ調査シテ見マスケレバ、其金額ト云フモノハ合計ニ於テ百一億七千七百圓ニ達シ居リマス、ソレハ此輸出ノ高ハ幾ラアルカト云ハバ四十七億九千九百萬圓アル、又輸入ノ高ハ五十四億八千六百圓アル、故ニ差引シマスケレバ云フトハ六億九千九百萬圓ト云フモノハ輸入超過ニナラセ居リマス、即チ殆ド七億圓ト云フ大金ガ輸入超過ニナラセ居リマス、即チ正貨ト云フモノヲ我日本帝國ヨリ外國ニ出シタ譯ニナラセ居リマス、斯ノ如キ有様デアリマス故ニ、此四十一箇年ノ間ニドウ云フ風ニ我日本帝國ノ外國貿易ガナラセ居ルカト云フコトヲ調査シテ見マスケレバ、先ヅ此年限ヲ三ツニ分ケル——此年限ヲ三ツニ分ケテ調べマス、商科大學ヲ起シ實業社會ノ牛耳ヲ執ル人ヲ作ルノ必要アルコトガ分ルノデアアル、會社ガ續々失敗シ、諸君ガ御迷惑ヲ受クルコトガアル、之ヲ防グニモ此商科大學ガ必要ナルデアアル、此貿易ガ最初ノ十四年間ガ六億八千二百萬圓、次ノ十四年間ガ十八億二千三百萬圓、最後ノ十二箇年ガ之ガ大キナ金額ニナラセ居リマス、而シテ最初ノ十四年間ニ於テハ七千七百六十四萬圓ノ輸入超過、次ノ十四年ガ七千二百四十二萬圓ノ輸入超過、最初ノ十四年ニ七千餘萬圓ノ輸入超過デアアルガ、次ニハ七千餘萬圓ノ輸出超過デアアル、明治元年カラ二十八年間ハ輸入超過デアアルガ、次ニハ七千餘萬圓ノ輸出超過デアアル、然レニ後ノ第三期ハ非常ナル輸入超過デアアル、六億九千三百七十七萬圓ノ輸入超過デアアル、斯ノ如ク最初ノ十四年間ト後ノ十二箇年間トノ外國貿易ヲ調べマスケレバ十倍以上ノ進歩發展デアアル、實業界ニテ之ヲ取扱フ實業家ハヤハリ右ノ明治十五年二十年アタリノ教育ノノ人が多クテ之ヲ支配スル人ガ不十分ノ智識ノ人ガ其結果ハ抑テ知ルベキデアアル、諸君モ新聞紙ヲ御承知ノ通りデアアル、故ニ我外國貿易ノ發展ノタメニ是非共國家發展上此根本ナル商科大學ヲ起サナケレバナラヌノデアアル、海軍ガ何故ニ世界ニ名譽ヲ得ルカ、陸軍ガ何故ニ世界ニ名譽ヲ得ルカ其理由ハ陸海軍ニハ共ニ大學校ガアツテ今日理想的ノ戰ヲスルコトガ出來タノデアアル、實業社會デモドウシテモ知識アル人物ヲ養成シナケレバナラヌノ商科大學ヲ起シ、此帝國ノ貿易ノ發展ヲ計ラナケレバナラヌ

○根本正君 紳士諸君、商科大學設立ニ關スル建議案ノ理由ヲ簡單ニ述ベマス、本件ニ付キマシテハ議會ノ開會ノ始メニ於キマシテ建議案ニスルヤウナ手數ヲ省クタメニ質問ヲ致シマシタ、故ニ細カシイコトハ申上ゲマセヌ、然ルニ政府ハ單ニ調査中デアルト云フ答デアツタ譯デアリマス、其時ノ質問中ニモ若モ精細ナル答辯ガナクッタラバ、已ムラ得ズ建議ニスルヤウナルデアラウト云フコトモ附加ヘテ置キマシタガ、此建議ハ即チ第二十三回及第二十四回ノ兩議會ニ於キマシテ滿場一致ヲ以テ可決シマシタ重大ナル問題デアリマス、尙此度ノ建議案モ各派ノ方ミガ署名シテ提出シタ譯デアリマス、此實業ノ進歩ト云フモノハ實ニ驚クベキ進歩デアリマス、然ルニ之ニ關スル最高ノ學校ト云フモノハナク誠ニ遲キトシテヤハリ二十年、三十年前ノ有様ニナラセ居リマス、故ニ此學校ハ是非我商業界即チ實業界發展ノタメニ最モ必要デアルト云フコトハ、皆サンモ御承知ノ通りデアリマス、茲ニ其事實ヲ簡單ニ申上ゲタイト思フ、明治元年ヨリ昨年マデ四十一箇年間ノ外國貿易ト云フモノヲ調査シテ見マスケレバ、其金額ト云フモノハ合計ニ於テ百一億七千七百圓ニ達シ居リマス、ソレハ此輸出ノ高ハ幾ラアルカト云ハバ四十七億九千九百萬圓アル、又輸入ノ高ハ五十四億八千六百圓アル、故ニ差引シマスケレバ云フトハ六億九千九百萬圓ト云フモノハ輸入超過ニナラセ居リマス、即チ殆ド七億圓ト云フ大金ガ輸入超過ニナラセ居リマス、即チ正貨ト云フモノヲ我日本帝國ヨリ外國ニ出シタ譯ニナラセ居リマス、斯ノ如キ有様デアリマス故ニ、此四十一箇年ノ間ニドウ云フ風ニ我日本帝國ノ外國貿易ガナラセ居ルカト云フコトヲ調査シテ見マスケレバ、先ヅ此年限ヲ三ツニ分ケル——此年限ヲ三ツニ分ケテ調べマス、商科大學ヲ起シ實業社會ノ牛耳ヲ執ル人ヲ作ルノ必要アルコトガ分ルノデアアル、會社ガ續々失敗シ、諸君ガ御迷惑ヲ受クルコトガアル、之ヲ防グニモ此商科大學ガ必要ナルデアアル、此貿易ガ最初ノ十四年間ガ六億八千二百萬圓、次ノ十四年間ガ十八億二千三百萬圓、最後ノ十二箇年ガ之ガ大キナ金額ニナラセ居リマス、而シテ最初ノ十四年間ニ於テハ七千七百六十四萬圓ノ輸入超過、次ノ十四年ガ七千二百四十二萬圓ノ輸入超過、最初ノ十四年ニ七千餘萬圓ノ輸入超過デアアルガ、次ニハ七千餘萬圓ノ輸出超過デアアル、明治元年カラ二十八年間ハ輸入超過デアアルガ、次ニハ七千餘萬圓ノ輸出超過デアアル、然レニ後ノ第三期ハ非常ナル輸入超過デアアル、六億九千三百七十七萬圓ノ輸入超過デアアル、斯ノ如ク最初ノ十四年間ト後ノ十二箇年間トノ外國貿易ヲ調べマスケレバ十倍以上ノ進歩發展デアアル、實業界ニテ之ヲ取扱フ實業家ハヤハリ右ノ明治十五年二十年アタリノ教育ノノ人が多クテ之ヲ支配スル人ガ不十分ノ智識ノ人ガ其結果ハ抑テ知ルベキデアアル、諸君モ新聞紙ヲ御承知ノ通りデアアル、故ニ我外國貿易ノ發展ノタメニ是非共國家發展上此根本ナル商科大學ヲ起サナケレバナラヌノデアアル、海軍ガ何故ニ世界ニ名譽ヲ得ルカ、陸軍ガ何故ニ世界ニ名譽ヲ得ルカ其理由ハ陸海軍ニハ共ニ大學校ガアツテ今日理想的ノ戰ヲスルコトガ出來タノデアアル、實業社會デモドウシテモ知識アル人物ヲ養成シナケレバナラヌノ商科大學ヲ起シ、此帝國ノ貿易ノ發展ヲ計ラナケレバナラヌ

ノデアル、既ニ七億万圓ノ金ハ外へ出テ居ルカラ之ヲ後來ニ戻スニ何ヲシテ其目的ヲ達スルカト云フト、適材ノ人ヲ拵ヘナケレバナラヌノデアル、東北ニ金山ガアリ九州ニ石炭ガアツテモ之ヲ支配スル人ヲ得ナケレバ國家ノ用ニナラヌ、横濱神戸等テ外國人ノ「ブローカー」即チ仲買人、獨逸人ナリ亞米利加人ナリ英吉利ナリ是等ノ者ニ口錢ヲ取ラレテ居ル、如何ニ大キナ貿易ヲシテモ人ガナイタメニ口錢ヲ外人ニ取ラレテ居ル、此人ヲ得ルニハ商科大學ヲ起サナケレバナラヌ、近來英國デモ益々大學ヲ盛ニシテ、獨逸テハ商科大學ガ五ツモアツテ益々盛ニナリ、其國ガ發展シテ居リヌ、亞米利加ノ各大學ニモ商科大學ガアリ、伊太利ニモ佛蘭西ニモアル「ハンガリー」ヤウナ處ニモ商科大學ガアル、我帝國ニ於テモ之ガ必要デアルト云フコトハ今日ノ輿論デアアル、然ルニ政府ガ冷淡故出來ルカ出來ヌカ分ラヌ所カラ、既ニ今日新聞ニモアルガ、高等商業ノ生徒ガ心配シテ千四百人ノ者ガ今ニモ一揆ヲ起サウト云フ有様デアアル、之ハ學生ガ惡ルイノデモナイ、校長ガ惡ルイノデモナイ、校長モ熱心、生徒モ熱心ノ餘リ茲ニ至リタノデアリマス、詰リ政府ガ輿論ヲ取ラヌカラデアル、政府ガ十分ニ盡力シタナラ校長モ生徒モ親睦シテ國家ノためニ大ニ發展ヲスルコトニナルノデアアル、サウスレバ是迄ノ七億万圓ノ輸入超過ト云フコトモ、後來外國へ輸出超過ノコトニナルト、眞ニ國家ノ發展ヲ實現スルニ至ルト思ヒマスカラ、ドウカ慎重ニ審議サレ帝國ノため御贊成アラント希望シマス

○恆松隆慶君 本案ハ議長指名、九名ノ委員ニ付託サレントラ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託スルコトニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ハナイト認メマスカラ其通り決シマス、次ハ日程二十四、戰闘員以外ノ殉難者遺族及廢疾者救濟ニ關スル建議案、議案ノ朗讀ハ省略致シマス、提出者野半介君

第二十四 戰闘員以外ノ殉難者遺族及廢疾者救濟ニ關スル建議案

戰闘員以外ノ殉難者遺族及廢疾者救濟ニ關スル建議案

日清日露ノ二大戦役ニ關シテ前後シテ國難ニ殉シタル志士ノ遺族ヲ救濟シ若ハ廢疾者ニ對シテ相當ノ救濟ヲ爲スヘ

右建議ス

〔的野半介君登壇〕

○的野半介君 私人戰闘員以外ノ殉難者遺族及廢疾者救濟ニ關スル建議案ヲ提出シタル一人デアリマス、簡單ニ其理由ヲ申述セマス、日清、日露ノ大戦争ニ於テ帝國軍人が忠勇義烈ヲ發揮シテ非常ナル功勞ヲ爲シタルコトハ炳シテ争フベカラザルコトデアリマス、此際ニ軍人以外ノ者テ戰争ヲ助ケテ非常ニ貢獻シタル人ガ不幸ニシテ燈ラタケレドモ、法規ノナイタメ其始末ガ出來ヌト云フ今日ノ有様テ遺族デアルトカ、廢疾者デアルトカ云フ者ノ状態ハ實ニ悲惨極マルコトニナリテ居ルノデアリマス、即チ此支那浪人トナッタ人ノ遺族ノコトニ付テハ、是非諸君ニ向テ御相談スルノ急務ナルコトヲ感スルノデアリマス一體日清戰争ノ如キモノニ於テ軍人が武勇ヲ發揮シ、勝利ヲ得タニ違ヒナイガ、日清戰争ヲシテ茲ニ至ラシメタ勳キハ何デアルカ、明治十年ノ戰争ニ於テ武器ヲ以テ政府ト戦フ力盡キ矢折レテ、到底武器ヲ以テ抵抗スルコトガ出來ヌ、ソコデ再ビ大部隊ヲ率イテ政府ト戦フコトヲ避ケテ、民權論ヲ藉テ政府ニ突込シテ諸君ト共ニ御同様ニ實際ニヤツタコトデアラウト思ヒマス、其一面ニ於テ確カ十五六年頃カラシテ最早小サ

キ日本ニ在リテ、日本ノ政治ニ向テ彼此言フヨリハ寧ロ廣キ亞細亞ノ改革家トシテ外ニ向テ勸ケト云フコトハ確カニ是ハ不平等家仲間ノ有志間ニ於テハ十分ノ努力メタコトデアラウト思ヒマス、サウシテ支那ト云フコトニ目ヲ著ケタカラシテ、連モ小サイ日本ノ政治ニ向テ彼此言フヨリモ寧ロ廣キ亞細亞ノ改革家トシテ勸ケト云フノ上カラシテ支那ニ向テ手ヲ著ケ、遠ニ學校ヲ起ストカ、或ハ支那ノ當局者ニ向テ迫ルトカ、或ハ新聞ヲ起ストカ云フガ如キ、種々ノ手段ヲ以テ支那ニ向テ支那四億ノ人口ガ途炭苦ニ陥ラセ居ルノヲ救フテ以テ世界平和ノ一ノ人道平和ノ上ニ資シヤウトシタコトハ諸君ト共ニ深ク感謝セネバナラヌコトデアラウト思ヒマス(簡單々々ト呼フ者アリ)私ハ初メテ下手デアアルカラシテ……(謹聽々々ト呼フ者アリ)ソレカラ明治十七年位カラ、初メテ支那ニ東亞學館ト云フモノヲ起スニ付テハ熊本ノ宗像政君ヤ、或モ廣重泰トカ、其邊ノ人ガ支那ニ向テ東亞學館ト云フモノヲ起シタコトガアル、ソレカラ續イテ平岡浩太郎ガ上海ニ向テ浪人俱樂部ヲ拵ヘタコトガアル、續イテ荒尾精ノ如キ貿易研究所ト云フモノヲ拵ヘタコトガアル、是等ノ人ガ支那ニ向テ非常ニ勳イテ支那ノ地理人情總テノコトニ通ズルヤウニマテ至ラシメテ、サウシテ明治政府ニ於テハ恐クハ戰争ノ用意ハナカッタウ、戰争ヲ爲サシムルニ至ラシメテ、サウシテ明政府ニ於テハ恐クハ戰争ノ用意ハナカッタウ、支那浪人ガ盛ニ戰争ノ議ヲ唱ヘテ……殊ニ金玉均ガ二十七年二月ニ殺サレタ砌ハ、モウ支那ニ向テデノコト、云フモノハ到底此儘ハイケナイカラシテ金玉均ニ對スルノ一義トシテモドウシテモ支那ト云フモノハ願望ニ盡デアアルカラ、叩折シシマ後ニ更ニ支那ヲ救フト云フ途ヲ講ズルノ外仕方ガナイト云フコトデ、以上カラシテ支那問題ト云フモノハ盛ニ唱ヘテ遂ニ當時ノ内閣、伊藤總理ナドト云フ人ハ最モ非戰論者デアッタニ拘ハラズ、先ツ一番ニ東亞學館ノ起ルト同時ニ浪人仲間デモ支那ニ向ヒ、朝鮮ニ向ヒ、世話シタト云フコトハ事實デアッタラウト思フ、ソレカラ支那戰争ト云フモノハアノ通りノ始末ニナツテシマツテ、サウシテ支那戰争ノ砌ニ於テ非常ニ盛ニ勳イタル人間ノ如キト云フモノハ恐クハ犬死ニナツテ居ル、石川伍一、山崎三郎、藤崎三郎、鐘崎三郎ノ如キ盛ニ勳イタル人間ハ大抵叩潰サレシマツテカラ、是ハ法規ヲ以テ其遺族ヲ救フコトガ出來ナイト云フ状態デアアル、潰サレタ儘ニナツテ居ル、是ハ諸君ノ力ヲ以テ諸君ト共ニ之ヲ救フノ道ヲ講ズルヨリ外仕方ガナイト思フ、ソレカラ日露戰争ニ於テモ湖北沔塞ノ野ニ走り込シテカラシテ盛ニ軍隊ヲ背面側ヨリシテ助ケタト云フコトハ、滿洲軍ヲ率井テ居ル人ハ之ヲ事實ニ認メタト云フコトハ諸君ノ記憶セラル、トコロデアラウト思フ、斯ル人ノ遺族ニ於テハ現在ドウデアアルカ、實ニ憐レムベキ状態ニナツテ居ルカラシテ、之ヲ以テ諸君ト共ニ法規ヲ拵ヘルカ相當ノ途ヲ拵ヘルコトガ、私ハ今日ニ於テ支那浪人ノ側カラ見テモ必要ト思フカラ諸君ニ向テ御頼ミスル者デアアル、私ハ話ヲ十分盡スコイガ出來ヌカラ、此邊テ之ヲ恆松君ニ御願申シテ(ヒヤク)

○恆松隆慶君 頼マレマシタカラ、本案ハ九名ノ委員ニ付託ニナラントラ願ヒマス、提出者モ満足デアライマセウ

○議長(長谷場純孝君) 恆松君ノ勸議、本建議案ハ議長指名ノ委員九名ニ付託ト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ハナイト認メマスカラ、其通り決シマス、日程第二十五、韓國橫貫鐵道敷設ニ關スル建議案ヲ朗讀トナシ、議案ノ朗讀ハ省略シマス、提出者金尾稜嚴君

第二十五 提出

韓國橫貫鐵道敷設ニ關スル建議案

韓國橫貫鐵道中京城若ハ平壤ヨリ元山ニ達スル鐵道ノ敷設ハ戰後經營上特ニ緊急ナリト認ム政府ハ之カ規畫ヲ建テ速ニ案ヲ具シ帝國議會ニ提出セラレムコトヲ望ム

右建議ス

(金尾稜嚴君登壇)

○金尾稜嚴君 本案提出ノ理由ヲ極メテ簡單ニ述ベマス、韓國ノ我日本帝國ノ保護權ニ歸シマシテ以來、統監府設置以來既ニ五箇年ヲ經過シテ居リマス、而シテ其功績ノ微々タル者ハ諸種ノ原因モゴザイマセウガ、一ニ韓國ニ於ケル交通機關ノ具備シテ居ナイト云フコトガ最モ大ナル原因デアラウト考ヘマス、諸君御承知ノ如ク韓國ハ道路ノ設備ハ不行居デアリマス、鐵道ハ漸ク釜山ヨリ京城ヲ經テ義州ニ達シマス、トコロノ京釜鐵道、京義鐵道トノ二線路、他ニ京城ヨリ仁川ニ岐レテ居リマス、枝線、又ハ三浪津ヨリ木浦ニ岐レテ居リマス、枝線、尙今日工事中ノモノガ鎮南浦、平壤間ノ鐵道デアリマス、韓國ノ西海岸即チ支那ニ對スル一帯ノ方面ニ於キマシテハ、先ヅ不完全ナガラモ唯今申上ケマス、鐵道ハ出來テ居リマス、韓國ノ東海岸即チ我母國ノ北陸、山陰ニ對シマス、地方ニ於キマシテハ、鐵道線路モアリマセヌノミナラズ、此韓國ノ西海岸ニ沿ヒマス、一帯ノ地方ト東海岸ニ沿ヒマス、一帯ノ地方ノ間ニ鐵道ノ連絡ヲ取レテ居リマセヌガ故ニ、今日ノ韓國ハ全ク半身不隨ノ有様ニナッテ居リマス、ソレ故近來多ク我日本帝國ノ同胞ガ入込ミマシテモ、交通ノ機關ガ不完全デゴザイマスカラ富源ノ開發スベキモノハ澤山アリマシテモ、之ヲ開發スルコトガ出來ナイ、多クノ人ハ入込ミマシテモ、商業モ之ガタメニ活氣ヲ帶ビナイ、約ルトコロ共原因ヲ申シマスルト全ク交通機關ノ缺ケテ居ルト云フコトニ最モ大ナル淵源ヲ有ッテ居ルデアラウト考ヘマス、此京城若クハ平壤ヲ經テ元山ニ達シマス、橫貫鐵道ハ韓國ノ經營戰後ノ經營中最モ緊急中ノ緊急ナルコトデアリマシテ、戰時テ申シマス、既ニ京城ト元山ノ間ハ殆ド土地ノ收用モ出來テ居リマシテ、兩端ヨリ既ニ工事ニ著手シテ居リマシタ、媾和條約ガ今五六箇月モ遅カッタデアリマセウナラバ、今日ハ既ニ間ニ鐵道ガ出來テ居ルニ違ヒナイ、ソレ故ニ軍事上ノ必要ト申シマス、コトニ付テハ今更改メテ申上ケルマデモナイ、又政治上カラ申シマス、今日韓國ニハ種々ノ暴徒ガ起リマシテ僅カナ警察隊ヲ以テ之ヲ鎮撫シマス、從テ鎮メレバ從テ起ル、斯ウ云フ有様、基ク處ハ何デゴザイマセウカ、是又ハハリ交通機關ノ缺ケテ居ルト云フコトカラ起ル、デゴザイマセウ、貿易上ノ點ニ於キマシテハ我母國タル日本帝國ノ北陸山陰ノ地方ト、韓國東海岸ニハ即チ日本海橫斷ノ航路モ是非早ク開カケレハナリマセヌ、是ガ開ケルト同時ニ韓國ノ東海岸ト西海岸ヲ連結シマス、唯今本案ヲ提出致シテ居リマス、トコロノ鐵道ハ最モ必要デアリマス、サウシテ此鐵道ハ或ハ京城ヲ經テ義州ニ向ヒマス、平壤ヲ經テ鎮南浦ニ臨ミ、又ハ義州ニ向ヒマス、南滿洲ト我日本帝國ノ山陰北陸ト聯絡ガ取レルト云フ最モ大切ナ線路デアリマス、ソレ故ニ段々是マデ政府ヘイロク、迫リマシテ、又政府ニ於テモ既ニ十分其必要ト云フコトヲ認メラレテ居リマス、尙イツマデモ抄取りマセヌ故ニ一昨年テゴザイマシタカ、鐵道會社ヲ起シテ政府ノ補助ヲ受ケテ許可ヲ得ルト云フコトニナッテ朝野有力ノ人ガ餘程贊成ニナッテ居リマス、伊藤統監ナドモ政府ガドウアッテモ出來ナイト云フコトナラ私設鐵道デモ許シタラ宜カラウト云フ意見デアッタヤウニ聞イテ居リマス、然

ルニ其後陸軍大臣ガ朝野ヲ觀察セラレマシタ其結果、私設鐵道ハ許可シナイト云フコトニナッテ云フコトヲ傳聞キマシテ、遂ニ鐵道會社ノ出願ハ今日マデ其儘ニナッテ居リマス、過日政府ニ質問シテ見マス、十分其必要ト云フコトヲ認メテ今取調中ナル、斯ウ云フ答デアリマス、イツマデモ取調中々々々ト云フコトヲ政府自ラ進シテヤルコトモシマセヌ、或ハ鐵道會社ノ出願ヲモ許可致シマセヌサウ云フ有様ニナルト韓國ノ經營ハ何レノ時ヲ待ツテ其目的ヲ達スルデゴザイマセウカ、要スルニ必要ハ必要ナルガ語リ金ノ問題デア、金ガナイカラ仕方ガナイト云ウテ居リマスナラ、何モ此儘ニ手ヲ束ネテ見テ居ルヨリ外ニ仕方ガナイノデゴザイマス、斯ノ如キ鐵道政策ナドハ所謂借金政策ヲ取リマシテモ一日モ早ク計畫ヲ立テマシテ日露戰爭ノ大主眼タル韓國ノ經營ヲ一日モ速ニ發展ノ途ヲ付ケテ、目的ヲ達スルト云フコトハ、政府モ國民モ力ヲ協セテヤラナケレバナラヌコト、考ヘマス、尙其當時取調ベマシタ物貨ノ集散ナドノコトニ付キマシテハ精シク調ベタモノガアリマス、之ヲ一々數字ヲ本會ニ於テ讀上ケ諸君ノ御倦厭ヲ來タスノハ、恐縮デアリマス、カライツレ精シクコトハ委員會ニ於テ御尋ニ對シ、御答スルコトニ致シマセウ、此案ハ各派ヨリ御提出者ガアリ、又御贊成モ各派トモ足並ヲ揃ヘテ御多數ノ御贊成ヲ得タノデスカラ、ドウカ宜シク御審査ノ上成立チマセウニ御贊成ノ程ヲ願ヒマス

○恆松隆慶君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託致シタイ……

○議長(長谷場純孝君) 九名デスカ

○恆松隆慶君 九名デスカ

○議長(長谷場純孝君) 唯今恆松君ノ動議、本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託シタイト云フコトデスカ、御異議アリマセウカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ、其通り決シマス——日程第二十六、豫算ノ款項改正ニ關スル建議案ヲ議題トナシ、議案ノ朗讀ヲ省略シマス、提出者田川大吉郎君

第二十六 豫算ノ款項改正ニ關スル建議案(田川大吉郎君提出)

豫算ノ款項改正ニ關スル建議案  
我カ歳出豫算編成ノ方針ハ往々費途別ノ處ナキニ非サルモ概シテ役所別ト爲レルカ如シ陸海軍省ノ軍事費モ一般ノ様式ニ據リ左案ノ如ク改定シ司法省ノ裁判所費ヲモ同シク左案ノ如ク區分セラルルヲ至當ト認ムルヲ以テ政府ハ來ル四十三年度ノ豫算ヨリ新ニ方針ヲ改メ提出セラレムコトヲ望ム

- 一陸軍省所管軍事費ヲ左ノ數項ニ區分ス  
軍隊費 軍備費 學校費 工廠費 病院費 監獄費 癘兵院費 特務機關費 守備費 駐屯費  
一海軍省所管軍事費ヲ左ノ數項ニ區分ス  
鎮守府費 艦隊費 軍需費 學校費 工廠費 病院費 監獄費 特務機關費 滿韓防備費  
一司法省所管裁判所費ヲ左ノ數項ニ區分ス  
大審院費 控訴院費 地方裁判所費 區裁判所費

○田川大吉郎君 豫算ノ款項改正ニ關スル建議ヲ致シマシタメ、其趣意ニ付テ二三

ノコトヲ申上テ置キマス、本來私ノヤウナ新參者ガ此問題ヲ提出致シマシタコトハ少シク大膽ニ過ギタル振舞アリマス、如何ニモ其通りト呼フ者アリケレドモ議會ノ歴史ヲ溯テ考ヘマスレバ、第十三議會、第十四議會、第十五議會ニハ既ニ本案ト同一趣意ノ建議案ガ提出サレテ居リマス、即チ當議會ニ存在セル傳來ノ精神ノ跡ヲ追ウテ此提案ヲ試ミマスルコトハ新參者ト雖モ憚ルベキデハナイト考ヘマシタ、ソレカラ豫算ノ款項ト稱シテ居リマスルケレドモ、一般ノ豫算ノ款項ニ對スル改正ヲ希望スルノデアアリマス、提出ノ建議案ノ内容ニ掲ゲテ置キマシタル通り、陸海軍並ニ司法ノ三省ニ涉リテ款項ノ改正ヲ求ムルノデアリマス、ソレニ拘ハラズ一般豫算ニ關スル疑アルガ如キ一般的ノ文字ヲ用井マシタノハヤハリ前來ノ記録ニ從ヒ、ソレガ多大ノ差支ナイト信スル限リ之ヲ製用スル方ガ便利デアラウト思フデアリマス、併シ改正ヲ求メマスル所以ノ趣意ハ當時ノ議會ノ人ミトハ聊異ニシテ居ル點ガアリマス、以前ノ記録ニ依テ考ヘマスレバ、陸海軍ノ款項ノ編成ガ過大ニ失スル、隨テ其款項ニ屬スル款項以下ノ費用ニ屬スル流用ノ範圍ガ廣キニ過ギルト云フコトガ改正ヲ希望セラル、所以ノ最モ大ナル趣意トナシテ居リマス、私モ此點ニ於テハ感同ジウスルモノデゴザイマスケレドモ、茲ニ建議ヲ致シマシタ趣意ハ其點ヨリモ、其點ヲ寧ロ第一ニ置キマシテ、第一ト致シテハ各省ノ款項ノ規定ノ間ニ統一ヲ缺イテ居ル、其不統一ヲ矯メタメニ此希望ヲ提出致シマシタノデス、ソレト本年始メテ豫算ヲ調査致シマスルニ當リ、各款項ノ間各省ニ涉リテ不統一ノ嫌ノアル點ハ幾ツモ發見致シマシテ、其一部分ニ付テハ豫算委員會ニ於テ質問ヲ試ミマシタコト云フコトデゴザイマス、私ハ政府ニ此改正ノ内意ノアル意思ニ應ジテ議會ノ力ヲ以テ更ニ陸海軍ノ豫算ニ對スル改正ヲ追テ、前年カラ此議會ニ存在シテ居リマシタコトノ希望ヲ、此機會ニ成達致シタイト希望スルノデアリマス、サウ希フノデアリマス、其區別ノ仕方ハ尙提案ノ中ニ精シク例示致シテ置キマシタ、例ヘバ陸軍省ノ軍事費一款トシテ七千有餘萬圓ノ巨額ヲ要求セラレテ居リマス、其内容ヲ軍隊費、軍衛費、學校費、工廠費、病院費、監獄費、廢兵院費、特務機關費、守備費、駐屯費——守備費ハ是ハ臺灣、樺太ニ對シ駐屯費ハ滿洲及朝鮮ニ對シテ——滿洲及朝鮮ニ對スル部分ヲ駐屯費ノ名ノ下ニ一括シテ樺太及臺灣ニ關スル部分ヲ、守備費ノ名ノ下ニ一括シテ、各ノ之ヲ款ニ立テタイ、斯ウ云フノガ私ノ提案ノ希望デアリマス、海軍省ニ於テモ略、是ト同様ナル區分ヲ爰ニ設ケテ居リマス、司法省ニ對シテハ從來裁判所費トシテ一款ノ下ニ要求セラレテ居リタモノヲ大審院費、控訴院費、地方裁判所費、區裁判所費ノ四款ニ分ケテ現ハシタイ、此司法省ノ分フ四款ニ分ケマスルコトハ從來ノ建議ト全ク趣旨ヲ同ジクシテ居ル、陸海軍ノ軍事費ヲ今申上テマシタ趣旨ニ依テ分チマスルコトハ十三、十四、十五議會ノ建議ノ趣旨トハ少シク趣キ異ニシテ居リマス、斯ツテ此不統一ヲ矯メタイト申シマスル私ノ趣旨ヲ更ニ明カニ致シマスルメ數言ヲ加ヘマスレバ、各省ノ豫算ノ編成ノ仕方ハ總テ役所別ニナツテ居リマス、一箇ノ役所ヲ標準ト致シマシテ一箇ノ役所ノアル處ニハ即チ一款トシテ經費ヲ要求ニナツテ居ル、然ルニ陸海軍省ニ於キマシテハ今申シマシタ軍事費ト云フ名ガ示シマスル如ク、是ハ費用別ニナツテ居ル、經費ヲ基本ト致シテ其費用ヲ要求セラレルコトニナツテ居ル、豫算ヲ編成スルニ當リマシテ費用別トシテ編成致シマスルカ、或ハ役所別ヲ標準トシテ編成致シマスルカ、其二ツノ方針ノ利害得失ニ付テハ議論ノアルコトデ私ハ必シモ役所別ヲ最善ノ方法トシテ認メテ居ル譯デアリマス、併ナガラ政府ガ既ニ役所別ヲ標準トシテ他ノ各省ノ豫算ヲ編成致シテ居リマス際ニ、陸海軍省ノ如キ最モ多クノ役所ヲ組織シテ居リマス

ロノ陸海軍省ガ、獨リ經費別ノ編成方針ヲ採ルト云フコトガ宜シクナイ、一ツノ政府トシテ議會ニ向テ要求スルニハ必ズ一定ノ標準ナカレバカラス、若シ役所別ノ編成方針ヲ政府ノ適當ト信スル方針ト致シマスナラバ、同ジク陸海軍省ニ向テモ其方針ヲ適用シテ編成シテ費ヒタイ、然ルニ他ノ各省ニ向テハ役所別ヲ標準トシテ豫算ヲ編成シ、陸海軍省ニ向テハ經費別ヲ標準トシテ豫算ヲ編成シマスル、是ガ即チ大ナル不統一デアル、此不統一ノ弊ヲ矯メテ諸君ト共ニ議會ノ豫算ニ對スル監査ノ便ヲ計リ又其監督ヲ嚴正ニシ、サウシテ以前ノ提案者ガ屢ニ試ミマシタガ如ク豫算ノ區域、豫算ノ組織ヲ成ルベク簡明ニ致シマシテ、且ツ其實際ノ費用ノ流用區域ヲ幾分カ制限致シタイ、斯ウ云フコトガ提案ノ目的デゴザイマス、提出ノ理由ノ中ニ編成審査ノ不便少ナシトセスト云フ文字ヲ用井テ居リマスガ、未ダ豫算ノ編成者デナイ私ガ編成ノ文字ヲ用井マシタコトニ向テハ、尙一言ノ辯解ヲ加ヘテ置キマス、是ハ政府自身ガ今日ノ豫算ノ編成ニ不便不自由ヲ感シテ居リ、之ヲ改良シタイト云フコトノ意思ヲ言明セラレマシタ場合デアアル故ニ、此文字ヲ用井マスルコトモ必シモ不適當デナカラウト信ジテ居リマスガ故ニ、編成ト審査ト兩方ノ不便ヲハ斯ノ如ク款項ノ改正ヲ企ツルコトニ依テ正ラ致シタイ、斯ウ希望致スノデアリマス、尙提出文字ノ幾ラカ圓熟ヲ缺イテ居ル所ガアツテ氣ニナリマスルケレドモ、是ハ大旨ノ御了解ニハ不足ナシト信ジマスルカラ、敢テ其誤謬ノ點ヲ訂正致シマセス、略、以上ノ如キ趣旨デアリマスルガ故ニ、願クハ審査ヲ遂ゲラレテ此案ガ成立致シマス、略、十分ノ審査ヲ圖ルコトガ出來ルヤウニ致シタイト切ニ希望致シマス

○恆松隆慶君 本建議案ハ議長指名、十八名ノ委員ニ付託セシムルコトノ動議ヲ提出致シマス

〔贊成〕(ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 恆松君ノ動議、本建議案ヲ議長指名ノ委員十八名ニ付託スルコトニ御異議ハゴザリマセスカ

〔異議ナシ〕(ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ其通り決シマス、日程第二十七、外交文書公表ニ關スル建議案ヲ議題トナシ、讀案ノ朗讀ヲ省略致シマス、提出者小川平吉君

第二十七 外交文書公表ニ關スル建議案(小川平吉君外一名提出)

外交文書公表ニ關スル建議案

外交ニ關スル文書ヲ公表シ外交ノ真相ヲ國民ニ明示セムコトヲ望ム

右建議ス

○議長(長谷場純孝君) 小川君ニ代テ服部綾雄君ガ說明致シマス

〔服部綾雄君登壇〕

○服部綾雄君 私ハ小川君ト共ニ外交文書公表ニ關スル建議案ヲ提出致シマシタ故ニ其理由ヲ此所ニ述ベマス、日清戰爭並ニ日露戰爭ノ當時ニ當リマシテ、國民一般ガ協力シテ海陸軍人ノ後援ニナツタル譯ハ、第一ニ軍事當局者ニ於テ出來得ル限り速ニ戰況ヲ詳シク國民ニ報ズルノ自由ヲ與ヘラレタルコトニモ依ルト思ヒマス、又新聞記者ノ從軍ヲ許サレテ戰況ノ實況ヲ詳シク國民ニ報ズルノ自由ヲ與ヘラレタルコトニモ依ルト思ヒマス、又宗教家其他ノ男女ノ特志家ヲハ慰問ノタメニ自由ニ戰地ニ出入スルコトヲ許サレテ、能ク其實況ヲ知ラシメテ之ヲ故國ノ人ニ報ズルコトノ便ヲ與ラレタルコトニモ依ルト思フ、平時ノ戰爭

即チ外交ニ於テモ亦同シク國民ノ後援ガナクテナラヌモノデアラナラハ、外交ノ實況ヲハ國民ニ知ラシムルコト云フノ必要ナルコトデアラト私ハ信ズルモノデアリマス、外務大臣ニ於テモ此必要ヲ認メラレテ居ルモノデアルニ相違ナイ、過日モ本院ニ於テ院內各派ノ代表者ト會見セラレテ日英博覽會ニ關シテ四十二年度總豫算追加案ヲ提出セラレシ際ニテハ、餘リ立入りテ質問セバ又成ルベク贊成セラレタキ者ノ希望ヲ述べラレテ、議院ノ贊成ヲ前以テ求メラレタルコトガアル、實ニ帝國ノ外交ハ日英ノ同盟ニ重キヲ置カレテ、之ヲ帝國外交ノ骨髄トシテ居ラレルコトハ、小村外相ノ言ニヨリテ明カナルモノデアリマス、ガ、私共又此日英博覽會ノ問題ニ付テイロ、ト尋ネテ見タイ疑問モアル、ナゼカナラハ實際ノ事情ニ明カニ知ラヌ、今日マテ此問題ニ付テイロ、ノ公文書ナドモ取交ハサレタコトガアルモノデアリマセウ、外交ニ關シテ實際ノ立場ヲ明カニシテ居ル吾ミデアラナラハ、大切ナル問題ガ議場ニ現ハレルトキニ戰時ニ於テ國民ガ軍人ノ後援トナッテ、喜ンデ其金ヲ出スニ躊躇セザリシガ如ク、帝國ノ臣民ハ喜ンデ外交當局者ノ後援トナルハ明カナルコトデアラト思フ、併ナガラ我國ニアテハ外交ノ公文書ヲ公示セラレザル結果議員モ國民モ世界一般ノ外交ナドト云フコトハ論ジマスルガ、實際我國ノ今日ノ外交ノ實況ヲ詳ニセザルガ爲ニ、大ニ彼國ト此國トノ關係ナドニ付テ先ヅ博覽會ノ如キモノ、問題ガ起リマシテモ是ヲ議スルニ誠ニ困ルコトガゴザイマス、甚ダシイ不便ガアルコトデアラ、願クハ當局者ニ於テハ帝國外交ノ成行、並ニ其現況ヲ明ニセシメテ國民ヲシテ帝國ノ外交ニ疑ヲ挾ムコトナク、其信用ニ障害ヲ與フル憂ナカラシメンガタメニ、政府ハ外交文書ヲバ公示シテ、一切ノ誤解ノ原因ヲ取除カレシムルコトヲ最モ得策ト認メマシテ、茲ニ此建議案ヲ提出シタル次第デアリマス、若シ諸君ノ贊同ヲ得テ此建議案ガ政府ノ容ル、トコロトナリマシタラハ、或ハ多少ノ金額ハ要スルコトデアラウト思ヒマスガ、是ハ喜ンデ支出セラレシコトヲ希望スル次第デアリマス、今日ハ米國ニ於テハセオドル、ルーズベルト氏ノ任期滿チテ退カレ、國政指導ノ任ヲ離レテ偉大ナル模範的士民ノ生活ニ入り又ウ非リアム、タフト氏ハロズベルト氏ノ繼續者トシテ北米合衆國ノ衆望ヲ擔ジテ、靜ニ元首ノ位置ニ就カレルノ日デアリマス、此國政ノ讓渡ノ今日ニ於テ爲セルトコロノ米國ハ長ク我國ト其親交ヲ續ケナケレバナラヌトコロノモノデアリマス、殊ニ鄰國ノ米國ノ事情ナドニ付テハ一層國民ヲシテ其事情ヲ明カナラシメズニ置キマシタナラハ大ニ將來悔ユルコトガアルデアラウト思フ此タフト氏ノ就職任期中兩國ノ親交ヲシテ益、厚カラシメンガタメニハ、特ニ日米間ノ公文書ノ如キハ吾ミ見タク思フコトデアリマス、此事ヲ加ヘテ遙ニ鄰國ノ政權ノ讓渡シアル此日ニ於テ私ハ之ヲ祝スルト同時ニ、此國ト我國トノ關係ヲ長ク平和ノ中ニ續ケンガタメニ外交ノ現狀ヲハ明カニ國民ガ知リマシテ當局者ノ後援ヲ長ク平和ノ中ニ續ケンガタメニ外交此文書ヲバ公示セラル、ノ道ヲ取ラレ、コトヲ希望スルノデアリマス

○議長(長谷場純孝君) 恆松君動議、本建議案ハ議長指名ナランコトヲ希望致シマス  
 ○議長(長谷場純孝君) 恆松君動議、本建議案ハ議長指名ノ委員九名ニ付託スルコトニ付テ御異議アリマセウカ  
 (異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ 其通り決シマス、議事日程第二十八、打狗築港速成ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、委員長齋藤珪次君

第二十八 打狗築港速成ニ關スル建議案 齋藤珪次君外四名提出 (委員長報告)

○齋藤珪次君 本案ノ審査委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、本案ハ御承知ノ通り

四十二年度ヨリ尙向フ五年間ゴザイマス、打狗ノ築港繼續事業ヲ一年間短縮致シタイト云フノ建議案アリマス、之ニ付テハ政府モ同意デアリマシテ寧ロ同意ト云フヨリモ、今日ノ臺灣ノ發達ノ狀況ニ照シテ職責上短縮ヲササナラヌト云フコトヲ自覺シテ居ルト、斯様申サル、ノデアリマス、併ナガラ二年ヲ短縮致シマスルニハ百四十萬圓ノ經費ヲ要スルシ、又一年ヲ短縮セントシテモ七十餘萬圓ヲ要スル次第デアリマス、目下臺灣特別會計ノ狀況ニ照シテ之ヲ直チニ引受ケテ斷行スルコトハ、請合フコトガ出來ナイ、サリナガラ此事タルヤ前申スガ如クニ職責トシテ爲スベキコトヲ自覺シテ居ル場合デアルガ故ニ、爲シ得ラル、トコロノ範圍ニ於テ此短縮ヲ實行致スコトニ致シタイト斯様ニ當局者モ明言致スノデアリマス、ソレガタメニ此建議案ニハ適當ナル更正案ヲ本議會ニ提出セラレシコトヲ望ムトアリマシタノヲ本期議會ナル 四字ヲ「帝國議會」ト云フ四字ニ改メマシテ、即チ本期ニ於テ訂正セザルモ來期ニ於テ訂正セラレテ相當ナリト認ムルト云フ修正ヲ致シテデアリマス、是デ何等異議ナク委員會ハ通過致シタ 次第デアリマス、ドウカ幸ニ御決定ヲ願ヒマス

○議長(長谷場純孝君) 委員長ノ報告通り御異議アリマセウカ  
 (異議ナシト呼フ者アリ)  
 ○議長(長谷場純孝君) 委員長報告通御異議ナイモノト認メマスカラ 本建議案ハ只今委員長ノ報告通り決定致シマス、日程第二十九、萬國癩癩病豫防會議ニ委員派遣ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、特別委員長山根正次君

第二十九 萬國癩癩病豫防會議ニ委員派遣ニ關スル建議案 山根正次君提出 (委員長報告)

○山根正次君 諸君私ハ諸國ニ於ケル萬國癩癩病豫防會議ニ日本ヨリ委員ヲ特派スルコトニ付テノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、委員會ハ全員悉ク出席ヲ致シマシテ、此案ハ全會一致ヲ以テ贊成ヲ致シタノデアリマス、政府委員トシテハ内務省ノ衛生局長ガ出席シテ是ニ對シテ希望デアラト云フコトヲ述べラレマシタ、併シ金ノコトハドウモ云フコトハ出來ナイカラト云フコトデアリマシテ、委員ノ請求ヲ大藏省ノ委員ニ出ルヤウニト云フコトデアリマシタガ、差支ガアデ丁度出ラレナカッタ、ソレデアリマス、委員ノ中ヨリ是ニ對シテハ委員長ガ交渉ヲシテサウシテ金ヲ出スヤウニスルヤウニト云フコトデアリマシタガ、政府委員ニ交渉ヲシマシタガ、直グ金ヲ出スト云フコトノ話ハ與ヘナイノデアリマスガ、先ヅ政府ニ於カレマシテモ贊成ガアルヤウナ具合ニコチラハ聽取ッタノデアリマス、是ヨリ私ハ暫クハ申シマセウケドモ、アナタ方ニ於カレマシテモ期ノ如キコトヲ能ク御開キニナッテ居ルト、將來此患者ニ付テノ同情ト云フモノガ起ッテ我國ニ於テ斯ノ如キ病氣ガアルト云フ時ニ於テハ、皆防グコトニ注意ヲシナケレバナラヌト云フコトノ要點ガ御分リニナラウト思ヒマス(委員會以外ノコトデスカ)ソレハ速記録ニアルカラ宜シカラウト呼フ者アリ)速記録アリマセウ、速記ハナシニ 少シ簡單ニ述ベタノデアリマス

少シ御聽取ヲ願ヒマス、諸君癩癩病豫防法ガ明治四十年二月法律第十一號ヲ以テ發布サレテ居リマセウ、是デ傳染病タルコトハ、確然シタノデアリマス、一般ノ人ガ之ニ對シテ注意ヲセバナラヌ、ノ拘ハラズ、熊本ヲ除イテハ、未ダ隔離所ガ香川縣ト此大阪未ダ隔離所ガ出來ナイト云フヤウナ有様デゴザイマス、斯ノ如キコトカラシテ此東京三病人ガ放置サレテアルト云フヤウナ有様デナカク、之ガ蔓延ラシツ、アルノデアリマス、陸軍省カラ費ヒマシタトコロノ統計ニ據リマスレバ三十八年 之ハ委員會デ皆申シタコ

トデアリマス、三十八年ニハ五百二十六人デアリマス、之ハ壯丁ノ検査デ五百二十六人デアリマス、之ニ女性ニモアルト云フコトモ考ヘネバナリマセヌ、殊ニ六師團ノ如キハ可哀サウニモ一師團デ百二十人ト云フ患者ガ出テ居リマス、千人ノ壯丁ノ中四人強ノ癩病患者ガアルト云フニ至ッテハ實ニ寒心セザル得ナイ次第デアリマス、外ノ表ハ速記ノ讓リマシテ申シマセヌガ、斯ク多數ノ壯丁ガ選兵ニ就キ此病ガアリマスル、ソレカラ内務省ニ三十八年ノ調査ノ統計ニ據リマスレバ各神社佛閣其他路傍ニ徘徊スル行路患者ノ數ハ實ニ三万七千四百二十一デアリマス、一定ノ居所ヲ有スルモ治療ノ資ノナクテハ實ニ諸君ハ驚ヲ喫セル、デアラウト私ハ信ズルデアリマス、サウシテ此病氣ハ誠ニ殘念ナコトハ印度「マカスカル」日本ハ世界デ一等國デアリマス、斯ノ如キノ一等國ハ甚ダ恥アル次第デアリマス、日本ニ於キマシテモ、以前ハ聖武帝ノ頃ニハ十分ニ此豫防ノ法ガ立ッテ、光明皇后ガ十八軒ノ奈良ノ長屋ヲ拵ヘテ隔離ガシテアツタ、又鎌倉北條時頼ノ時代ニ於テハ忍性律師ガ極樂寺ニ此癩病院ヲ設ケテ治療ヲサシテ居ッタデアリマス、又徳川時代ニ於テハ癩病ガ設ケラレテ隔離サレテ居ッタガ明治ノ昭代ニ於テハ却テ此隔離ガ疏カニナリテ癩病ヲ設ケテアツタノガ交通ノ便利ノタメニ四通八達ニナツタカラ彼方此方ヘ散漫ヲ致シタデアリマス、デアリマスルガ故ニ非常ニ危險ナル今日ノ場合ニナツタデアリマス、殊ニ武藤金吉カラ又前代關西ノ江原素六君カラ此事ヲ話シ吳レイト云フアデ、一昨ノ委員會ニ於テモ話シマシタガ、草津ノ温泉場ノ如キハ上町下町トノ區別ガアリマスガ、下町ニ於テハ四十餘戸ノ戶數ガアルガ、主人モ癩病、家内モ癩病、旅人宿ヲ營業シテ居ルモノガ十二戸デ四百餘人ノ癩患者ガ集ッテ居リマスルガ、是等ニ付テノ十分ナル方法ガ行ハレテ居ラス、交通機關ニ對シテ検査モナイシ、學校ニハ癩患者ノ子供ガ皆學校ニ通フテ居ル、サウシテモ癩ニ罹ルテ居ルコトノ醫者ガ外ノ癩病デナイ人ノ治療ヲシテ居ルト云フヤウナ有様デ、又ハ齒醫者ガ癩病デアツテ、サウシテ他ノ健康ナ人ノ齒ヲ治療シテ居ルト云フヤウナ危險ナ有様デアリマス、サウ云フヤウナ有様デゴサイマスルカラ、此病氣ハナカク蔓延ヲスルモノト思ハナケレバナリマセヌ、而シテ近頃ニ至リマシテ内務省ハ之ニ對スル豫防ノ訓令ガ法律ノ結果トシテ出テ居リマスグレドモ、マダ十分目的ヲ達スルコトハ出來ナイ有様デアリマス、然ルニ諸君此前申シマシタ如ク諾威ニ於テハ能ク此目的ヲ達シマシテ此不幸ナルトコロノ患者ヲ收容シテ、サウシテ之ニ治療ヲ加ヘ、サウシテ之ガ傳染病タルトコロノ病氣アルト云フコトヲ能ク知ラシメテ隔離ヲ行ヒマシタ結果、即チ癩菌ヲ發見致シマシタル當時ニ於テハ一年ニ二百人アツタ新患者ガ今日ハ三四百人位ニ減少シタデアリマス、日本帝國ハ一年ノ間ニ新患者ガ一千人モアリマセウカ長ク續キマスルト、兵隊ニ癩病患者ガ出ナケレバ筒ガ持タレヌト云フヤウナコトニナルカモ分リマセヌ、此諾威ノ消毒ノ能ク行ハレテ居ル處ヘ日本カラ特別ニ派遣ヲ致シマシテサウシテ此事ヲ能ク調ベマシタラバ大變ニ好イ目的ヲ後來ニ達シ、此不幸ナルトコロノ患者ノ治療ガ出來、隔離ノ方法又ハ患者ノ德義心ト云フヤウナコトノ模倣モ見テ日本ニ報告サレマシタラバ、大變ニ好イ結果ヲ見レデアラウ、人民ノ幸福ニ是ヨリ大ナルモノハナク思ヒマスカラ、滿場諸君ノ御贊同ヲ願ヒマス(拍手起ル)

(参照)

區別	實數	被檢者每千比例	實數	被檢者每千比例	實數	被檢者每千比例	實數	被檢者每千比例
第一	六八	〇・八三	六〇	〇・六九	四六	〇・五二	二四	〇・四四
第二	二五	〇・七九	二二	〇・七二	二五	〇・八〇	二二	〇・八三
第三	五七	一・六四	四三	一・二三	四〇	一・一三	四〇	一・五二

自明治三十八年 徵兵不合格中癩患者  
 至同 四十一年 徵兵不合格中癩患者  
 三十八年 二十九人  
 三十九年 四十年  
 四十一年 四十二年二月調

官報發外 明治四十二年三月五日 衆議院議事速記第十五號 萬國癩病豫防會聯

一	第 四	二七	〇・七九	二四	〇・七六	二二	〇・六七	一七	〇・六七
二	第 五	一八	〇・六二	二三	〇・九七	二四	〇・八九	二九	一・五九
三	第 六	二〇	四・一六	八七	三・〇二	八二	二・八九	七八	三・五五
四	第 七	二	〇・二九	四	〇・五八	四	〇・五五	八	〇・五〇
五	第 八	三七	一・三七	三六	一・七二	四五	一・六三	二五	一・三二
六	第 九	三二	一・二〇	二九	一・一九	二三	〇・九四	一五	〇・八三
七	第 十	二九	一・〇二	三六	一・三〇	二七	一・〇一	一九	〇・九一
八	第 十 一	五二	一・九二	三三	一・三一	四六	一・八二	二三	一・一三
九	第 十 二	五九	二・二一	三九	一・三八	四六	一・五〇	二八	一・三九
十	第 十 三								
十一	第 十 四								
十二	第 十 五								
十三	第 十 六								
十四	第 十 七								
十五	第 十 八								
十六	第 十 九								
十七	第 十 十								
十八	第 十 一								
十九	第 十 二								
二十	第 十 三								
二十一	第 十 四								
二十二	第 十 五								
二十三	第 十 六								
二十四	第 十 七								
二十五	第 十 八								
二十六	第 十 九								
二十七	第 十 十								
二十八	第 十 一								
二十九	第 十 二								
三十	第 十 三								
三十一	第 十 四								
三十二	第 十 五								
三十三	第 十 六								
三十四	第 十 七								
三十五	第 十 八								
三十六	第 十 九								
三十七	第 十 十								
三十八	第 十 一								
三十九	第 十 二								
四十	第 十 三								
四十一	第 十 四								
四十二	第 十 五								
四十三	第 十 六								
四十四	第 十 七								
四十五	第 十 八								
四十六	第 十 九								
四十七	第 十 十								
四十八	第 十 一								
四十九	第 十 二								
五十	第 十 三								

韓 東 洲 二 二・六八 二 一・三五  
 計 五二六 一・三七 四三六 一・二六 四三三 一・二二 四八一 一・一一  
 備考 明治三十八年乃至同四十年ニハ第十三師管乃至第十八師管ノ設置ナク又明治三十八、九  
 年ハ未ダ樺太關東洲及韓國ニ於ケル徵兵検査ヲ行ハス  
 ○鈴木力君 本員ノ我同胞ノ日本民族ノ清淨ナル血肉ノタメニ、滿腹ノ熱情ヲ以テ  
 本案ヲ贊成致シマス(拍手起ル)  
 ○議長(長谷場純孝君) 委員長報告ニ御異議ハアリマセヌカ  
 (「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)  
 ○議長(長谷場純孝君) 御異議ハナイト認メマス、委員長報告通り決シマス——日  
 程第三十乃至第三十三ノ請願ハ便宜上一件毎ニ委員長ノ報告ヲ爲サシメ、逐次議  
 題トナシテ之ヲ採決致シマス——次ニ日程第三十、三十一ハ同性質ノ請願ニ付キ一  
 括シテ議題ト致シマス、特別報告第十一號借地權救濟ニ關スル請願外一件ヲ議事ニ  
 付シマス、請願委員長立川雲平君

第三十 (特別報告第十一號)借地權救濟ニ關ス (委員長報告)  
 第三十一 (特別報告第二十號)借地ニ關スル請願 (委員長報告)  
 ○立川雲平君 御報告致シマス、特別報告第十一號借地權救濟ニ關スル請願、之  
 ハ野々山幸吉外九百九十三名ノ請願デアリマス、今一ツハ特別第二十號借地ニ關  
 スル請願之ハ五味道藏外三千二百九十九名、此二件ノ請願人ノ數ヲ併セマスルト五千  
 二百九十四人ノ請願デアリマス、請願ノ件數モ隨分多ウゴザイマスナレドモ、此案件ノ如  
 ク多クノ人が請願ヲ致シタコトハ最モ稀ニゴザイマス、而シテ之ハドウ云フ請願ノ趣旨  
 アルカト申シマスレバ、彼ノ都下ニ行ハレル所謂地震賣買ト云フ弊ニ堪ヘナイノテ、借地權ヲ  
 保護シテ與レイト云フ趣旨ニ外ナラヌノゴザイマス、而シテ此事ニ付キマシテハ當院ハ既  
 ニ法律ヲ制定致シマシテ、此法律ハ今ハ貴族院ノ審査中ニ係ラテ居ルノゴザイマス、是

マテノ慣例ハ請願ノ事件ニ致シマシテ既ニ請願ノ目的ガ到達ヲ致シテ居リマスルナラバ、態々請願委員長ハ茲ニ出テ報告ヲシテ、諸君ノ御採擇ヲ請フト云フコトハゴザイマセヌ、テゴザイマス。然ルニ此案件タルヤ實ニ其情實ノ切實ナルコトニハ請願委員四十五名ハ悉ク同情ヲ寄セタリテゴザイマス、而シテ今之ガ救済ノ法律案ガ出來テ居リマスケレドモ、上院ニ在リマスル以上ハ運命ハドウナルカ計ラヌノデアリマス、ソレ故ニ此案件ニ限ッテハ既ニ法律ハ制定セラレテ居リマシテモ、特ニ院議ニ附シテ滿場諸君ノ一致ノ御同意ヲ得テ以テ、今上院ニ在ルトコロノ彼ノ法律ノ運命ヲシテ、完カラシメント希望致シマスルガタメニ、特ニ茲ニ御報告致スコトヲ請願委員會ニ於テ決シマシタ次第デアリマス、此段御報告致シマス

○恆松隆慶君 委員長報告通り……

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○議長(長谷川純孝君) 日程ノ第三十、第三十一、特別報告第十一號借地權救濟ニ關スル請願特別報告第二十號借地ニ關スル請願、此兩案ハ唯今委員長報告通り採擇スルト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○議長(長谷川純孝君) 御異議ガナシト認メマスカラ採擇スルトコトニ決シマス、日程第三十二、第三十三ハ同シク關聯セルモノデアリマスカラ一括シテ、議題ト致シマス、特別報告第二十一號競馬ノ善後策急施ニ關スル請願及外一件ヲ讀ニ付シマス

第三十二

(特別報告第二十一號) 競馬ノ善後策 (委員長報告)

第三十三

(特別報告第二十二號) 競馬ノ善後策 (委員長報告)

○立川雲平君 諸君、今將ニ本日ノ會議ノ終ラントスルニ當リ競馬ニ關スル議題ヲ報告致シマス、必ズ諸君ハ簡單ナルコトヲ望マル、ニ相違ゴザイマセヌ、併ナガラ此競馬ノコトタルヤ一部ノ人ハ其事柄ノ野鄙ナルガタメニ内容ヲ知ラズシテ之ヲ擯斥セント欲シ、一面ノ人ハ其局ニ當テ多數ノ財產ヲ失ウト云フ場合テゴザイマスカラ、之ヲ救済スルトコトノ方法ヲ求ムルニ最モ急ナルノデアリマス、之ハ少シ長クナリマスカラ分リマセヌガ、御辛抱下サリマシテ、此競馬ノ内容ト此競馬ニ對スル政府ノ處置ニ付キマシテ、成ルベク詳密ニ報告ヲ致シタイト思ヒマスカラシテ、之ハ此段像メ御斷リヲ致シテ置キマス(謹聽謹聽)ト呼ブ者アリ) 諸君、我帝國ノ堅甲利兵ハ列國ニ對シテモ毫モ遜色ハゴザイマセヌ、唯恐ムラクハ軍馬ノ供給ト云フコトニ付テハ實ニ其局ニ當ル人ハ勿論、上下共ニ其不足ナルト云フコトハ、外國ニ對シテ劣ルトコトニ付テハ心配ヲ致シテ居リマス、畏レ多クモ 至尊陛下ニ於カレマシテ此點ニ付テハ深く憂慮ヲ惱メラレテ居ルト云フコトヲ承シテ居リマス、而シテ日露ノ大戰爭ハ吾人ニ多クノ教訓ヲ與ヘラレマシタ、唯最モ有益ナルモノハ此軍馬ノ不足ト云フコトデアアル、若シ軍馬ノ不足ト云フコトヲ以テ、忌憚ナク彼ノ日露ノ戰爭ノ平和ニナラザル先ニマテ思フ致シマシタナラバ、實ニ寒心スベキ想像ヲモ抱カネバナラヌノデアリマス、是ニ於テカ明治二十八年ノ十一月ドウシテモ我國ニ於テ馬匹ノ改良ト云フコトヲ致サネバナラヌ、之ハ戰後ノ經營ニ於ケル一大急務デアルト云フコトヲ當局ニ於テモ考ヘマシタ、而シテ之ヲ致シマスルニハ馬政局ト云フ一ツノ官署ヲ置クコト、或ニ全國ノ人ミヲシテ馬ト云フコトニ對スル思想ヲ涵養ヲ致サネバナラヌ、之ヲ致シマスルノハ競馬即チ此賭馬ト云フコトニ趣ヲ有ツテ、之ヲ國民ヲシテ競馬ニ趣味ヲ有ツヤウナ方法ヲ執ラネバナラヌト云フガタメニ、或ハ財團法人トシ、或ハ株式會社トシテ、サウシテ此各地ニ競馬會ヲ開イタノデアアル、此トキニ方テ廟堂ニ於テ一ツノ心配ヲ生ジタノデアアル、其廟堂ニ於テ心配ヲ生ジタノハ、何デアアルカト云ヘバ、競馬ヲ致シマスルニ付テ

ハ馬券ヲ販賣ヲセネバナラヌ、所謂馬券ヲ賣テサウシテ其勝者ニハ幾分ノ金ヲヤリ、其一部ハ會社ノ費用ニ充ルコトニナラネバナラヌ、此行爲タルヤ賭博ニナリハセマイカ、所謂金錢ヲ賭シテ輸贏ヲ期スルモノデアアル、刑法ノ禁止スルトコロデアリハシマイカト云フコトガ、廟堂ニ於テカニ心配ヲサレタ一ツデアアル、或ル大臣ハ法律ノ問フトコロニアラズト主張モ致シマシタラウ、或ル大臣ハ默許シヤウト云フコトヲ主張シタデアラウ、其内容ハ詳シ存ジマセヌケレドモ、此競馬ニ付テハ刑法ノ賭博ト見ルニ及バナヌモノデアアル、競馬會ヲ發賣シテ、初メテ競馬ガ盛ニナラ、競馬ヲシテ盛ニナラシムレバ、國民ヲシテ趣味ヲ有タシムルコト、國民悉ク趣味ヲ持ツニ至ツタナラバ、馬匹ノ改良ハ期シテ待ツベキモノデアアル、長其他ノ人ミガ此事柄ハ刑法ニ當ラナイモノデアアル、刑法ニ所謂賭博デアハナイト云フタメニ、ソレノ下僚ニ向テ通達ヲ致シタデアアル、之ハ賭博デアハナイカラ間違ッテ檢舉スルコトノナイヤウニト云フ通達ヲ致シマシタ、是ニ於テカ人民ハ安心ヲ致シマシタ、ソレガタメニ何十萬ト云フ金ヲ掛ケ、ソレガタメニ多クノ設備ヲ致シマシタ、サウシテ到ル處ニ競馬ガ盛ニナラタノデアアル、アノ勢ヲ參リマシタナラバ隨分馬匹ノ改良ハ期セラレタコトガアッタラウト思フ、窺窺タル淑女モ尙馬ノ名ヲ解スルトコトガ出來タラウ、或ハ紳士ガ卓ラ圍シテ馬券ノ高低ヲ論ジテ居タデアラウ、併ナガラ物ハ一利アレバ一害アルモノデアアル、競馬ガ斯ノ如ク盛ニナリマシタトキニ當テ、又是ニ於テ大ニ憂フベキ事ヲ見出シタノデアアル、ソレハ何デアアルカト云フト彼ノ競馬場ヘ往テ見マシルト云フト、手ニ貨幣ヲ持ッテ、サウシテ其血眼ニナテ馳迴ッテ居ル有様ト云フモノハ實ニ見ルニ忍ビナイ、本員ノ如キモ一二回之ヲ見マシタ、此弊ハ何カ矯正スル方法ヲ執ラネバナラヌト云フ考ハ何人モ起スノデアアル、所ガ是ニモイロノ弊ガアル、此競馬ニ參ッテ馬券ヲ買ッテ洵ニ好結果ヲ得タルトコロノ人ハソレレ宜シウゴザイマスルガ、不結果ヲ得テ所謂此囊底ニ金錢ヲ剩サナイト云フ場合ニハ、何トナシニ競馬ガ面白クナイ、此人若シ筆ヲ持ッテ社會ニ通達スル機會ガアッタナラバ、競馬ヲ惡ルニ書ク、此口ヲ以テ意思ヲ傳達シテ社會ニ通達スル機會ガアッタ惡口ヲ云フ、一面ニハ利益ヲ得タル人ハ黙ッテ居ルガ、害ヲ受ケタル人ハ競馬ヲ攻撃スル、此聲タルヤ天下ノ到處ニ大キクナツテ來タ、必ズ新聞紙等ニ報道スル弊害ガ必ズソレケアルトハ思ハナイケレドモ、其弊害ノ幾分ハ確カニアッタニ相違ナイ、是ニ於テカ此競馬ニ對スル議論ガヤカシクナツテ、昨年ノ九月ノ二十七日デアリマシタカ 九月二十七日デアリマシタト信ジマス、此上方ノ神戶ノ在ノ鳴尾ト云フ所ニ競馬會ガアッタ、此競馬會ノアッタトキニ神戶ノ地方裁判所ノ檢察正ガ多クノ検査官或ハ警部等ヲ引連レテ以テ之ニ臨ンデ、賭博デアルト云ツテ之ヲ檢舉シタノデアアル、是ガ競馬界ニ於ケル一大恐慌デアリマシタ、九月ノ二十七日デアアル、サウシテ此コトハ遂ニドウナツタ言ヘバ、遂ニ罪ニ問フベキモノガナクテ放免ニナツタデアリマス、此コトアルヤ天下ノ競馬ヲ面白クナイト感シテ居タトコロノ人ミハ、聲ヲ勵マシテ現内閣ノ英斷ニ出テタルコトヲ謳歌シタデアアル、何トナレバ今マテ競馬ヲ勸誘シ、競馬ヲ利用シテ此馬券發賣ニ對シテハ相當ノ保護ヲシツ、アッタノガ、俄ニ犯罪者ナリト云ウテ捕ヘテ、競馬會ヲ建テ、居ルトコロノ會ノ重役ハ相當ノ身分デアアル人ハ或ハ華族等ガ此役員ニナツテ居ル會社モアルデアアル、是等ノ人ニ向テ賭博開帳ノ罪デアルト云フコトヲ以テ檢舉シタノデアアル、實ニ無關係ノモノデアッタナラバ、何トモ思ヒマセヌガ、競馬ニ少シテモ關係ヲ有シタモノデアッタナラバ、此恐慌ハ非常ナク、實ニ彼ノ所謂ト思フ、若シ競馬ヲヤクシテ、一般ノ人ノ關係ヲ有シテ居ルモノデアッタナラバ、實ニ彼ノ所謂日比谷ノ騷動ヨリ、ヨリ以上ノ大騷動ガ起リテデアラウ、幸ヒニ其幾分ガ競馬會ノ人ミ、アツカカシテ、餘リ多クノ騷動ガナクケレドモ、今申シマス通り大勢ノ人、身分ノアル人ガ檢舉ヲセラル、ト云フ姿デアアル、是ニ於テテヨト御注意マシテ文章ヲ抜イテ御話シテ置キタイノハ、此コトガゴザイマシタカラ競馬會ノ人ミハ我同僚ノ中ニ於テモ畏敬ヲ拂フ



ロ一モ要領ヲ得ナイ、如何ニモ競馬ヲ差止メタコトス其當ヲ得マセヌ、是ニ於テカ吾々ハ大  
多數ヲ以テ採擇スルニ決シテアル、其理由ハ斯ウ云フ委員中ニ議論モゴザイマシタ、  
競馬ト云フモノハ實ニ社會ニ毒ヲ流シタモノナル、此競馬ガ社會ニ毒ヲ流シタモノ  
ナルカラスシテ、其位ナ目ニ置テモソレハ宜シイ、ソシテコトハ願ルニ足ラヌト云フ、斯  
ウ云フ議論ガアリマシタ、成程一應御尤ナヤウニ思フ、併ナガラ若シ天下ニ道ヲ造ツテ、  
此道ニ悉クノ人ハ通行セヨト云フテ通行セシメタ、而シテ半バニ於テ此道ヲ通ルコトハナ  
ラヌト禁止シタ、偶々其途上ニアル人ハ我ハ博徒ナルトカ、刑餘ノ人ナルト云フヤウ  
ナ場合ニハ汝評判ノ惡ルイ男、汝平生カラ尊敬ヲ拂フ人デナイ、故ニ此位ノ艱難ニ遭  
ウテモ構ハヌト云フ見通スコトガ出來マセウカ、一度之ヲ教ヘテ此道ニ依ツテ此事ヲナセ  
ヨ、上下ノ望ミタル馬匹改良ニ付テハ之ニ依ツテナセト云フコトヲ教ヘテ置キナガラ、俄ニ  
不法ニモ之ヲ杜絶シテ、而シテ彼等數十方ノ財產ヲ抛タケレバナラヌ、滅却セシメナケ  
レバナラヌト云フコトニ至ラシメタノハ政府者ノ不穩當ナル處置アル、尙人民ニ向ツテカ  
ヘナカッタラバ不穩當アル、政府ハ斯ノ如ク不穩當ナル處置アル、尙人民ニ向ツテカ  
ラニ責任ガナイト云ヘマセウカ、ドウシテモ責任ヲ有スベキコトデアラウト思ヒマス、故ニ競  
馬其物ハ別ノ問題デアアル、競馬ノ好キト嫌ヒ、競馬ノ善イト惡ルイト、是ハ此後ニ於テ  
生ジテ來ルコトコト競馬法案ニ於テ十分議論ヲシ宜シウゴザイマスケレドモ、今茲ニ直  
チニ競馬其物ガ惡ルイカラト云テ、此政府ノ不當不利ナル此不穩當ナル處置ヲ寬容  
スルコトハ、ドウシテモ出來ナイト私ハ信ズルノデゴザイマス、而シテ請願委員ニ於テ政府ニ  
向ツテ競馬ヲヨシテドウスルカト云フコトマデモ交渉ヲシタコトガ、當局ノ人ハ豫算ニ二  
十八萬圓ノ金ヲ出シテ、サウシテ此金ヲ以テ競馬ヲドウカ成立タシメタイト思ヒタケレドモ、  
是ハハトテモ三十八萬圓デハ目的ヲ達スルコトガ出來ヌト見テ、サウシテ此衆議院ハ之  
ヲ否決ヲサレタノデアアル、是カラ先ニ此競馬ナルモノハ何トスルカト云フナラバ別ニ策ハナ  
イト云フ、唯此儘デヤハリ馬匹ノ改良ハ希望スルノデアアルト云フ、馬匹ノ改良ヲスルノ  
ハ競馬ヲヤラナケレバナラヌ、馬券ノ發賣ヲ致サズシテ競馬ト云フモノハ決シテ成立シ得  
ベキモノデハナイ、若シ之ニ伴フ弊害ガアルナラバ其弊害ヲ矯正スル方法ヲ他ニ講ジテ  
モ之ヲ許サナカッタラバ、到底競馬ナルモノハ成立ツベキモノデハナイ、競馬會ニシテ成立  
ツコトガ出來マセナカッタラバ、馬匹ノ改良ハ決シテ目的ヲ達スルコトガ出來ナイ、本ニ  
緣ツテ魚ヲ求ムルガ如キモノデアルト信ズルノデ、故ニ請願委員會ニ於キマシテハ大ニ此請  
願ヲ理由アリトシテ、大多數ヲ以テ贊成ヲ致シテ採擇スルコトニナラヌトデゴザイマス、是ハ  
二案出テ居リマスガ、一案共同一デアツテ、是ハ善後ノ策ヲ講ズルニ當ツテ政府宜シク其  
實ニ任ズベキモノデアルト云フ趣意デアリマス、政府ニシテ若シ政策ナクシテ吾等ハ之ニ對  
スルコトコト政策ヲ講ジテ、以テ馬匹ノ改良ト云フ上下一致ノ希望ヲ充タスニハ十分力  
ヲ致サナケレバナラヌト思ヒマス、是等ハ諸君ト共ニ吾人ガ有スル責任デアアラウト思ヒマ  
ス、請願委員ナラヌトシテ報告ハ少シク長クナラシマシタガ、前申ス通りノ次第デアリマスガ、  
諸君ガ御清聴下サレタコトヲ厚ク感謝致シマス(拍手起ル)

○議長(長谷場純孝君) 通告ガアリマスカラ通告順ニ發言ヲ許シマス  
○阪本彌一郎君 緊急動議ガアリマス  
○議長(長谷場純孝君) 何ノ緊急動議デスカ  
○阪本彌一郎君 此問題ヲ延期シタイト云フ動議デス、發言ヲ御許シニナリマスガ  
○村松恆一郎君 其前ニ委員長ノ御報告ニ付イテ申シタイトコトガアリマスガ、御許シ  
ヲ願ヒマス  
○議長(長谷場純孝君) 緊急動議ガ出テ贊成ガアル以上ハ、通告ガアリマスカラ議  
長ハ通告順ニ討論シテヤリタイト思ヒマシタケレドモ、既ニ緊急動議ガ出テ贊成ガアル以  
上ハ、緊急動議カラ先ニヤラナケレバナラヌ

○議長(長谷場純孝君) 緊急動議ガ出テ贊成ガアル以上ハ、通告ガアリマスカラ議  
長ハ通告順ニ討論シテヤリタイト思ヒマシタケレドモ、既ニ緊急動議ガ出テ贊成ガアル以  
上ハ、緊急動議カラ先ニヤラナケレバナラヌ

○阪本彌一郎君 チョット其理由ヲ申述ベマス、本日日程ノ十八ニ競馬法案ト云フ  
モノガ出テ居リマスガ、是ハ提出者ノ都合ニ依リマシテ本日ハ議セラレナカッタデアリマ  
ス、唯今立川委員長ノ流暢ナル辯ヲ以テ丁寧反覆ニ、而モ御論告ノ御演說ニナリ  
マシタコトニ依リマスレバ、競馬會社ハ畢竟馬券ノ發賣ヲ禁止セラレタガタメニ損害ヲ  
被ツタト云フコトデアリマス、然ルニ本日提出ニナツテ居ルコトノ佐々木文一君外二名  
ノ競馬法案ニハ、明カニ此馬券ヲ發賣スルコト云フコトヲ許スト云フコトノ議案ニナツ  
テ居ルノデアアル、是ハ二百十餘名ノ贊成者ガアリマシテ、無論私共ハ今日カラ或ハ此議場ハ  
通過スルモノデハナイカト云フコトヲ認メテ居ル一人デアリマス、若シ此案ニシテ通過ス  
ルコト云フコトニナリマシタラバ、言ハズシテ此競馬會社ノ損害ト云フモノヲ償フコトガ出來  
ルノデアアル、即チ馬券發賣ト云フコトヲ許スト云フコトニナリマシタラバ、競馬會社ハ斯  
ノ如キ救済ヲ求メル理由ハ消滅スルノデアリマス、シテ見マスレバ此先決問題トシマシテハ  
競馬法案ヲ採用スルヤ否ヤト云フコトヲ決スルコトガ第一デアリマス、其結果ニ依リマシ  
テ此請願委員ノコトハ消滅スルカドウカト云フコトガ生ズルノデアリマスガ、私ハ此競馬  
法案ノ議事ガ濟ミマスルマデ此請願ニ對シテ採否ヲ議決スルコトハ延期シタイト云フ  
動議デアリマス

○議長(長谷場純孝君) 阪本君ノ緊急動議ニ贊成諸君ノ起立ヲ請ヒマス  
起立者 少數  
○議長(長谷場純孝君) 少數、即チ是ハ通告順ニ依ツテ討論ヲ用非マス、村松恆一  
郎君  
○村松恆一郎君 私ハ先ニ討論ニ入りマス前ニ、委員長ノ御報告ニ漏レテ居ルコトガ  
アルト思ヒマス、ソレガ採決ノ折ニ差響アルコト、思ヒマスカラ、委員長ニ少シ何ツテ置  
キタイ、宜シウゴザイマスガ  
〔登壇々々ト呼フ者アリ〕  
○議長(長谷場純孝君) 委員長ニ質問デスカ、宜シウゴザイマス——村松君  
○村松恆一郎君 立川委員長ノ唯今ノ御報告ノ中ニハ此請願委員ニ於テ此競馬ノ  
善後策ヲ付テ、特別委員會ニ於ケル御報告ガナカッタウデアリマス(ヒヤク)之ヲ  
少シク御報告ヲ願フテ置キマセヌト云フト、討論ニ入ル譯ニイキマセヌカラ、ドウガ御苦勞  
デゴザイマスガ……  
○立川雲平君 村松君ニ御照會シマスガ、ヤハリ同ジ特別委員會ヲ開イテ終局ハ採  
擇ニアツタ、斯ウゴト云フコトノ報告ヲシタノデアリマスガ、其特別委員中ニ於ケルコトコ  
君ノ言論ヲ一々報告セヨト云フ意味ニナリマスガ  
○村松恆一郎君 ナウ云フ込入ツタ譯デハナイノデスカ、免ニ角此特別委員會ニ於テ  
特別ニ調査セラレタ結果ニ付テ、特別委員長カラ御報告ガアツタ、ソレヲ一應委員長カ  
ラ御報告下スツタ方ガ宜カラウト思ヒマス  
○立川雲平君 ソレデハ前ノ報告ヲ少シク補ツテ置キマセウ、特別委員ヲ置キマシテ、サ  
ウシテ其特別委員デモヤハリ政府ノ人ニモ問答ヲ致シマシタガ、政府ノ方ニ於テハ是ニ  
對シテ何等爲ストコロノ考ガナイト云フコトデアアル、ソレ故ニ此特別委員ヲ始メ置クコ  
ロノ目的ハ、若シ政府ニシテ此善後策ニ對スル考ガアリシナラバト云フ意味デアツタ、所ガ  
政府ニ於テハ、其考ハナイト云フコトデアリマスガ、此儘請願委員會ハ本會ニ於テ此  
請願ハ採擇スル、即チ此馬券發賣禁止ニ對スル善後ノ處分ヲ相當委員ハ本會ニ於テ此  
ネバナラヌデハナカラウカト云フ意味ニ於テ、採擇ニ決シタノデゴザイマスガ、若シ是ヨリ以  
上ニ私ノ申シタ言葉ニ漏レテ居ルヤウナコトガアリマスルナラバ、委員中ノ諸君ノ中ニハ特  
別委員モゴザイマスルシ、他ノ委員モゴザイマスルカラ、ソレ等ノ人カラデモ宜シウゴザイマ

○議長(長谷場純孝君) 緊急動議ガ出テ贊成ガアル以上ハ、通告ガアリマスカラ議  
長ハ通告順ニ討論シテヤリタイト思ヒマシタケレドモ、既ニ緊急動議ガ出テ贊成ガアル以  
上ハ、緊急動議カラ先ニヤラナケレバナラヌ

スシ、但シ又速記ニ依テ御承知下サルカニ願ヒマス  
○議長(長谷場純孝君) 村松恆一郎君  
(拍手起ル)

○藏原惟郭君 議長 質問ガアリマス  
○議長(長谷場純孝君) 村松君ニ發言ヲ許シマス  
(村松恆一郎君登壇)

○村松恆一郎君 諸君、最早時間モ切迫シテ居リマスルノニ、諸君ノ御清聴ヲ煩ハスハ甚ダ心無イコト、存シマスカラ、成ルベク簡單ニ申上アル積リテアリマス、唯今立川委員長ヨリ熱心ナル御報告ヲ得マシテ、甚ダ其勞ヲ感謝致シマスルノ、立川君ハ願クバ他ノ請願事件ニ對シテモ、是ト同様御熱心報告ヲ願マス(拍手起ル)立川雲平君(私ハ喜ンデヤル、唯聴ク人ガ堪ラヌ)ト呼フ)唯今此立川委員長ノ御報告ニ依リマシテ、諸君ハ大體此請願委員會ノ經過ト云フモノハ御承知デアラウト思ヒマスルガ、私モヤハリ請願委員ノ一人ト致シマシテ、分科會ニ於テモ、總會ニ於テモ、實ハ反對ノ意見ヲ表シテ置キマシタノ、故ニ私ハ此席ハ餘リ長ク申上ゲマセヌ積リデアリマスルガ、此分科會及總會ニ於テ述ベマシタコトノ意見ヲ茲ニ搔摘シテ申上ゲタイト思フデアリマス(「謹聴々々」ト呼フ者アリ)此競馬ノ善後策ニ付テノ請願ヲ採擇スベシト云フトコロノ、諸君ノ御意見ヲ伺ヒマスルト云フト、政府ハ曩ニ之ヲ獎勵シテ、サウシテ馬券ノ發賣ヲ默許シテ置イテ、後ニ至テ之ヲ禁止シタト云フハ不都合デアル、故ニ政府ハ是ニ對シテ賠償ヲスベシト云フ御議論デアラウト思フデアリマス、併ナガラ私ハ是ハ全然理由ノ無イコトトモ思フ、何トナレバ成程此政府ガ獎勵ハシタニ違ナイ、又默許モシタニ違ヒナイデアリマスケレドモ、政府ガ獎勵シタカラト云フテ、必シモ其獎勵ニ應ジナケレバナラヌト云フ義務ハ無イ、政府ハ脅迫モシナケレバ命令モシナイデアル、即チ撰擇ノ自由ガアルノデアルカラ、既ニ己ガ是ナリトシテ選シタナラバ、若シ反對ノ不利益ノ結果ガ來タナラバ、其不利益ノ結果ハ自カラ忍バナケレバナラヌト云フトハ、自然ノ結果デアラウト私ハ思フノデアル、且又默許ト云フトハ何シテアルカ云ヘバ即チ見テ見ヌ振リマスルト云フトデアル、見テ見ヌ振リマスルト云フトデアレバ、眼ニ餘ツタ場合ニハ之ヲ禁止スルト云フトモ亦己ムヲ得ナイコトデアル、假リニ政府ガ明カニ之ヲ許シタトシテ「ドウデアルカ、許シタ場合トシテドウデアルカ、凡ソ此總テ立派ニ許可サレテ居ルトコロノ營業ニ致シマシテモ、若シ其事柄ガ社會ノ風俗ヲ害シ、社會ノ秩序ヲ紊ル場合ニハ、國家ハ何時タリトモ之ヲ禁止スルベク力ヲ持テ居ルデアアル(拍手起ル)而シテ此場合ニ於テハ國家ハ何等ノ賠償ヲスベキ義務モ責任モ無イデアル、是ハ行政法一般ノ原則デアラウト私ハ信ジマス、若シ其場合ニ於テ政府ノ處置ガ不法デアッタカ、政府ノ處置ガ違法デアッタカ云フナラバ、或ハ行政訴訟ヲ起スナリ、或ハ訴願ヲ起スナリノ途ガアルダラウト思フ、然ルニ此問題ニ付テハ行政訴訟ヲ起ス餘地モ無ケレバ、訴願ヲ起ス餘地モ無イ程ノ明白ナ問題デアラウトデアル、然ラバ此會社法人ガ損害ヲ被ッタト云フ事實ヲ道ノ上カラ見テ、如何ニ判斷スベキカト云フトデアル、既ニ是ガ法律ノ問題デアナイトナッタナラバ即チ道徳上ノ問題ニ訴ヘルヨリ外ニ仕方無イ、即チ會社法人ガ損害ヲ被ッタト云フ事情ガ氣ノ毒デアルカラ、政府ガ賠償スベキカ否ヤト云フ議論デアル、成程此最初競馬ヲ企テタトコロノ人々ノ中ニハ、隨分名譽アル紳士モ澤山御アリニナリ、或ハ眞ニ此馬匹ノ改良發達ヲ希望スル目的カラ御始メニナッタカモ知レヌデアリマス、故ニ是ガ馬券禁止ノタメニ打撃ヲ受ケテ、大ナル不利益ヲ被ッタト云フナラバ其事情ハ如何ニモ氣ノ毒デアル、併ナガラ其會社ノ被ッタ損害ト馬券發賣ノタメニ社會ノ被ッタ損害ト、イザレガ大ナルカト云フト調ベナケレバナラヌデアアル(「ヒヤ」ト呼フ者アリ拍手起ル)故

ラニ詳シク申上ゲル必要アリマセヌガ、競馬ノ馬券ヲ許サレテ以來、僅々二箇年間ニ於テ如何ニ社會ニ害毒ヲ流シタカト云フトハ、諸君ハ時々此新聞紙ヲ御覽ニナツテ、既ニ御分リナツテ居ルコトデアラウト思ヒマス(「特ニ朝日新聞ニ於テ然リ」ト呼フ者アリ、笑聲起ル)豈啻ニ朝日新聞ノミナランヤ、都下ノ新聞ハ悉ク皆書イテ居ルデアアル、若シ書カナイ新聞ガアッタナラバ會社ノタメニ操縦セラレテ居ル新聞デアアル(拍手起ル)私ハ其事實ヲ一々列擧スルノ違ハアリマセヌケレドモ、此馬券發賣ノタメニ身代ヲ漬シタ者、若クハ最愛ノ妻ヲ苦界ニ沈メ、最愛ノ娘ヲ醜業婦ニ賣ッタト云フ事實ヲ頻々トシテ吾ハ聞イテ居ル(「議員ニナツテモ貧乏シタ者ハ澤山アル」ト呼フ者アリ、笑聲起ル)又多クノ社會ニ於テ馬券ノタメニ自己ニ損害ヲ被ッタ者ハ非常ニ澤山アルデアアル、即チ其當時ノ新聞ニ依リマシテモ、競馬ノ開催セラレタル當時ニ於テハ、其前後ハ質屋ガ非常ニ繁盛シタト云フ位ノ事柄デアアル、即チ此競馬ニ趣クトコロノ者ハ馬ノ知識モ何モナイ人間デ、唯一時ノ僥倖ヲ期シテ赴ク者デアアル、即チ此馬券ノタメニ國民ノ射伴心ヲ助長セシメタコトハ非常ナモノデアアルデアアル、競馬論者ハ動モスレバ軍馬ガ必要デアアル、軍馬ガ必要アルト云フハハルケレドモ、毎度吾々ノ言フガ如ク馬ガ大切デアルカ、人が大切デアルカト云フ問題デアアル、諸君ハ軍馬ガ不完全デアアルカラト云フト遺憾トセラレ、ガ、其遺憾ノ點ハ吾々モ同様デアリマスケレドモ、日露戰爭ハ馬ガ勝ツタデアルカ、人が勝ツタデアルカト云フト御考ヲ願ヒタイ(拍手起ル)「名論」ト呼フ者アリ)成程日露戰爭ニ於テハ單リ馬匹ノミナラズ、兵器モ劣テ居タデアアル、兵數モ寡ナカッタデアアル、然ルニモ拘ラズ連戰連勝セラレタト云フトハ、即チ馬ガ多クノ關係ヲ持テ居ナイト云フ證據デアラウト思フ、然ラバ何ニ由テ勝ツタカト云フデアアル、然ルニ一方ニ於テ馬匹ノ獎勵モ宜シイガ、馬匹ノ獎勵ノタメニ社會ノ風俗ヲ壞リ、社會ノ人心ヲ傷ヒ、而シテ國民ノ品性ヲ墮落セシメマシタ、其結果ハ如何デアリマセウ、如何ニ戰場ニ立派ナ馬ヲ送ツテモ、其軍隊ノ主要部タル兵卒ナルモノガ愛國心ナク、獸身ノ心ガナクシテ、戰ニ臨ンデ果シテ勝ツコトガ出來マセウカ(拍手起ル)何レノ戰爭ニ於テモ戰ノ結果ハイツデモ士氣ノ立ツテ居ル、即チ風紀ノ正シイ軍隊ガ常ニ勝ツ占メルデアアル、普佛戰爭ノ場合ニ於テハドウデアルカ、如何ナル人モ獨逸ガ勝ツ、普佛西ガ勝ツト云フ者ハ世界ニナカッタデアアル、佛蘭西ノ軍隊モ立派デアアル、兵數モ多イ、兵器モ完備シテ居ルト云フトデアラツカ、一敗地ニ塗レテ佛蘭西ガ城下ノ盟ヲ爲シタノハ何シテアツタカト云ヘバ、即チ軍制ノ腐敗ト云フトデアアル、軍制ノ腐敗ト云フノハ何カト云ヘバ即チ人間ノ品性ガ墮落シテ居ルデアアル、即チ軍人ハ軍人トシテノ精神ヲ有テ居ナカッタデアアル、日露戰爭ニ於テ露國ガ日本ニ對シテ兵數ニ於テモ、兵器ニ於テモ、馬匹ニ於テモ優ツテ居ツタニモ拘ハラズ、アノ如キ敗北ヲ取ツタノハ何シテアルカト云ヘバ、即チ軍制ノ腐敗デアラツカデアアル、即チ此理窟カラ見マシテモ馬ノ其イイト云フトハ、軍制ニ力ヲ添ヘルカ、人が其イイト云フトハ、軍制ニ力ヲ添ヘルカト云フトハ明ガラウト思フデアアル、競馬論者ハ馬ノミヲ觀テ人ヲ見ナイデアアル、馬ハ人間ノ使用ノタメニ造ラレテ居ルノデアアル、人間ノ品性ガ墮落シタ場合ニ於テハ如何ニ立派ナ馬ヲ造ツテモ、軍人ニ愛國ノ精神ガナクシテ、金錢ノタメニ買ッタル云フトハ如何デアラツカ、幾十萬ノ馬匹ガ揃ツテ居テモ、何ノ役ニモ立ツタデアアル、此點カラ見マシテモ軍馬ノ完備ハ必要デアルケレドモ、軍馬以上ノ社會ノ道徳ヲ進メ、社會ノ風儀ヲ長クスルト云フトハ極メテ必要ナ事柄デアラウト思フ、然ルニモ拘ラズ、此競馬ノ馬券ノタメニ社會ガ大ナル風儀ヲ紊サレ、大ニ秩序ヲ紊サル、ト云フトデアラツカ、之ヲ差止メタ政府ハ當然ナコトヲシタデアアル、サウシテ今日マデ社會ガ被ッタ其害毒ハ會社ガ被ッタ損害ヨリ幾千倍、幾万倍ノ甚シキデアラツカデアリマス(拍手起ル)之ニ向ツテ此競馬ノ

